SONY

3-800-999-03 (2)

基本
応用
編集
設置と準備
その他

デジタルビデオカセットレコーダー

取扱説明書

お買い上げいただきありがとうございます。

⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

DV Digital Video Cassette　Mini DV Digital Video Cassette

VIDEO Plus+　Cassette Memory

DHR-1000

⚠警告 安全のために

ソニー製品は安全に十分配慮して設計されています。しかし、電気製品はすべて、まちがった使いかたをすると、火災や感電などにより人身事故になることがあり危険です。事故を防ぐために次のことを必ずお守りください。

安全のための注意事項を守る

この「安全のために」の注意事項をよくお読みください。

定期的に点検する

設置時や1年に1度は、電源コードに傷みがないか、コンセントと電源プラグの間にほこりがたまっていないか、プラグがしっかりさし込まれているか、などを点検してください。

故障したら使わない

動作がおかしくなったり、キャビネットや電源コードなどが破損しているのに気づいたら、すぐにテクニカルインフォメーションセンターに修理をご依頼ください。

万一、異常が起きたら

変な音・においがしたら、煙が出たら



1. **電源を切る**
2. **電源プラグをコンセントから抜く**
3. **テクニカルインフォメーションセンターに修理を依頼する**

警告表示の意味

取扱説明書および製品では、次のような表示をしています。表示の内容をよく理解してから本文をお読みください。

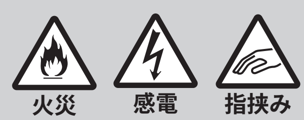
⚠警告

この表示の注意事項を守らないと、火災・感電などにより死亡や大けがなど人身事故の原因となります。

⚠注意

この表示の注意事項を守らないと、感電やその他の事故によりけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

注意を促す記号



行為を禁止する記号



行為を指示する記号



目次

💡 は知っていると便利な情報のマークです。

警告 下記の注意事項を守らないと火災・感電により死亡や大けがの原因となります。

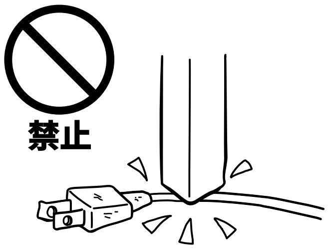
火災 感電

電源コードを傷つけない

電源コードを傷つけると、火災や感電の原因となります。

- 製品と壁や棚との間にはさみ込んだりしない。
- 電源コードを加工したり、傷つけたりしない。
- 重いものをのせたり、引っ張ったりしない。
- 熱器具に近づけない。加熱しない。
- 移動させるときは、電源プラグを抜く。
- 電源コードを抜くときは、必ずプラグを持って抜く。

万一、電源コードが傷んだら、お買い上げ店またはテクニカルインフォメーションセンターに交換をご依頼ください。

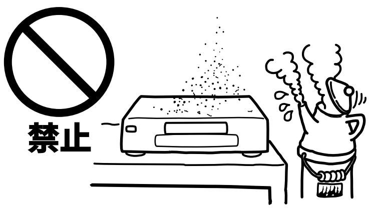


付属の電源コード以外は使用しない

火災や感電の原因になります。

湿気やほこりの多い場所や、油煙や湯気のあたる場所には置かない

上記のような場所に置くと、火災や感電の原因となることがあります。特に風呂場などでは絶対に使用しないでください。



内部に水や異物を入れない

水や異物が入ると火災や感電の原因となります。万一、水や異物が入ったときは、すぐに本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜き、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。



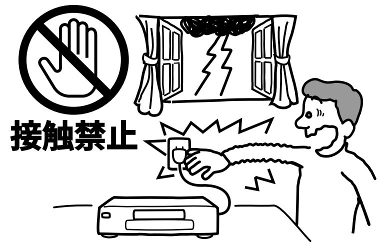
分解や改造をしない

火災や感電、けがの原因となることがあります。内部の点検や修理はテクニカルインフォメーションセンターにご依頼ください。



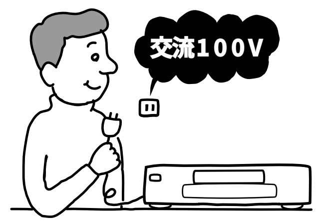
雷が鳴りだしたら、アンテナ線や電源プラグに触れない

感電の原因となります。



本機は国内専用です

交流100Vの電源でお使いください。海外などで、異なる電源電圧で使用すると、火災・感電の原因となります。



⚠注意 下記の注意事項を守らないとけがをしたり周辺の家財に損害を与えたりすることがあります。

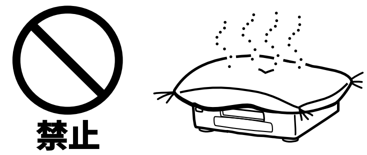
ぬれた手で電源プラグにさわらない

感電の原因となることがあります。



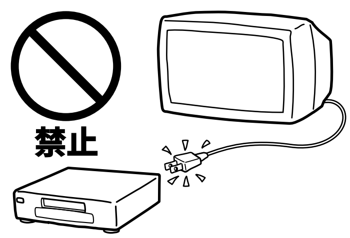
本体を布団などでおおった状態で使用しない

布をかけたり、毛足の長いじゅうたんや布団の上または壁や家具に密接して置いて、通風孔をふさがないでください。過熱して火災や感電の原因となることがあります。



本体後面の電源コンセント（ACアウトレット）に消費電力の合計が表示を超える接続をしない

火災の原因となることがあります。



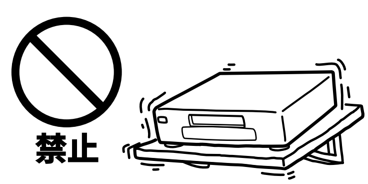
大音量で長時間つづけて聞きすぎない

耳を刺激するような大きな音量で長時間つづけて聞くと、聴力に悪い影響を与えることがあります。とくにヘッドホンで聞くときにご注意ください。呼びかけられて返事ができるくらいの音量で聞きましょう。



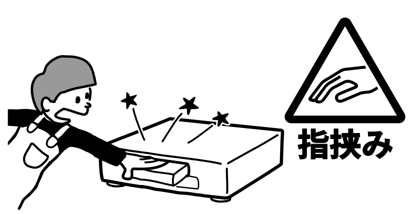
安定した場所に置く

ぐらついた台の上や傾いたところなどに置くと、製品が落ちてけがの原因となることがあります。また、置き場所、取り付け場所の強度もじゅうぶんに確認してください。



幼児の手の届かない場所に置く

カセットの挿入口などに手をはさまれ、けがの原因となることがあります。お子さまがさわらぬようにご注意ください。



コード類は正しく配置する

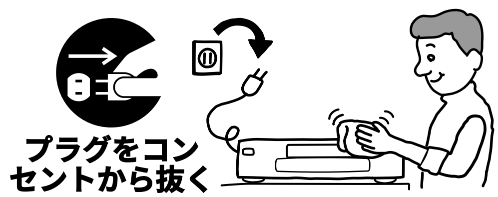
電源コードやAVケーブルは足にひっかけると機器の落下や転倒などにより、けがの原因となることがあります。じゅうぶんに注意して接続、配置してください。

長期間使わないときは、電源プラグを抜く

長期間使用しないときは安全のため電源プラグをコンセントから抜いてください。

お手入れの際、電源プラグを抜く

電源プラグを差し込んだままお手入れをすると、感電の原因となることがあります。



アンテナの工事はお買い上げ店に依頼する

アンテナが倒れた場合、感電するおそれがあるなどアンテナ工事には技術と経験が必要です。必ずお買い上げ店にご依頼ください。

電池についての安全上のご注意

漏液、発熱、発火、破裂、誤飲などを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

⚠警告

- 火の中に入れない。ショートさせたり、分解、加熱しない。
- 乾電池は充電しない。
- 指定された種類の電池を使用する。

⚠注意

- ＋と－の向きを正しく入れる。
- 電池を使い切ったとき、長期間使用しないときは、取り出しておく。
- 新しい電池と使用した電池、種類の違う電池を混ぜて使わない。

もし電池の液が漏れたときは、電池入れの液をよくふきとってから、新しい電池を入れてください。万一、液が身体についたときは、水でよく洗い流してください。

本機の特長

本機はDV方式のビデオカセットレコーダーです。以下のような特長を備えています。

デジタル高画質・高音質

- **水平解像度500本以上の高解像度**
  家庭用映像機器としては最高レベルの解像度を達成しました。
- **デジタルPCM音声記録**
  BSのPCM音声放送はもちろん、TV放送や外部入力端子などのアナログ信号もデジタル信号に変換して記録します。本機ではライン入力時に、２種類の音声記録モードを選ぶことができます。
  16**ビットモード**：量子化16ビット、サンプリング周波数48kHzで記録・再生します。DATと同等の高音質記録が可能です。
  12**ビットモード**：量子化12ビット、サンプリング周波数32kHzで記録・再生します。ステレオ音声トラックを2トラック使用してアフレコなどが可能です。
- **クリアフレーム技術による高画質な静止画像**
  通常のビデオ機器は、静止画像を再生する際に走査線を一本おきに間引いた状態で再生します。本機は間引かれた映像を演算によって合成し、密度の高い静止画像を再生します。

本格的な編集機能

- DV**入出力端子**
  DV入出力端子を備えた他のビデオと接続して、デジタル信号のまま映像・音声を伝送できます。劣化のほとんどない録画・ダビングが行えます。
- **着脱式本体操作パネル**
  編集時に使用するボタンを本体操作パネルにまとめました。また必要に応じてパネルを取り外し、手元の使いやすい場所に置いて使用できます。
- **エディットウインドウ**
  アッセンブル編集の際に、選び出したイベントの開始点と終了点の映像を最大10イベントまで表示します。編集内容を映像で確認しながら編集することができます。

DV方式が可能にした便利な機能

- **サブコードデータによるクイックアクセス**
  頭出し信号を映像・音声信号と分離してテープに記録することにより、高速な頭出しを可能にしました。
- **録画情報表示**
  録画した日時などの情報をテープに記録します。ソニーのデジタルビデオカメラを使えばシャッタースピード、プログラム AE モード、ホワイトバランス、アイリス、ゲインなどの情報も記録できます。本機で再生すると、これらの情報をテレビ画面に表示できます。
- **カセットメモリーサーチ**
  カセットメモリーの付いたテープを使うと、録画した番組の一覧がテレビ画面に表示されます。この番組一覧からお好みの番組を選んで頭出しできます。ソニーのデジタルビデオカメラでフォトモード撮影した場面を探すこともできます。

その他

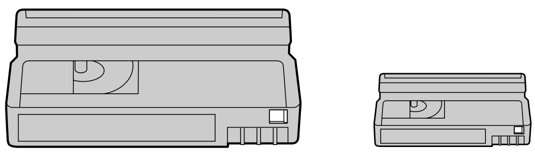
- **ワイドサイズ対応**
  本機で録画したワイドクリアビジョン放送をID-1規格対応のテレビにつないで再生すると、ワイドサイズに自動的に変換します（オートワイド対応）。また、ビデオカメラでワイド記録したテープを従来のテレビで見るときは、上下に黒帯をつけて再生します（ワイド再生）。

ご注意

本機取扱説明書で説明されている他の機器の商品名は、代表的なものを記載してあります。詳しくは他の機器の取扱説明書をあわせてご覧ください。

使用できるカセットについて

DV、Mini DVマークのついたDV規格対応カセットをお使いください。
8・Hi8方式や、VHS・VHS C・S VHS・S VHS C・β・ED Beta方式のビデオカセットは使えません。



LPモードには対応しておりません

本機ではLPモードによる録画・再生機能は使えません。本機付属のリモコンのSP/LPボタンは本機以外のビデオデッキを使用するときに使います。

CM カセットメモリー付きDVカセットをお勧めします

カセットメモリー付きカセットは、カセット自体にICメモリーを内蔵しています。本機はこのICメモリーを利用して画像情報（録画日時など）を書き込んだり、呼び出したりします。カセットメモリー付きカセットには、CM 4Kマークがついており、数字はメモリー容量をあらわします。本機は16キロビットのカセットまで対応しています。

録画内容を消したくないときは

カセットの背にある誤消去防止つまみを横にずらして赤い部分を出します。再び録画するときは、誤消去防止つまみを戻してください。

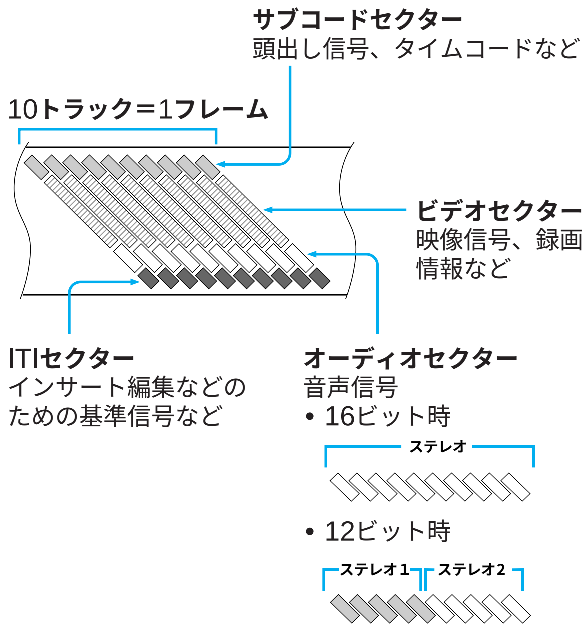


ご注意

- 海外の放送方式の異なるデジタルビデオとの互換性はありません。
- これらは登録商標です。
  DV、Mini DV、CM

ＤＶ方式の記録について

本機はテープに次のように録画を行います。



著作権について

録画するとき

本機では、著作権保護のための信号が記録されているソフト及び放送は録画できません。録画を始めるとテレビ画面上に警告の表示が現れて、録画は停止します。予約録画の場合は、録画の動作はしますが、実際には画像や音声は録画されません。

再生するとき

著作権保護のための信号が記録されているソフトを本機で再生し、そのソフトを他機で録画しようとすると、録画が制限されることがあります。

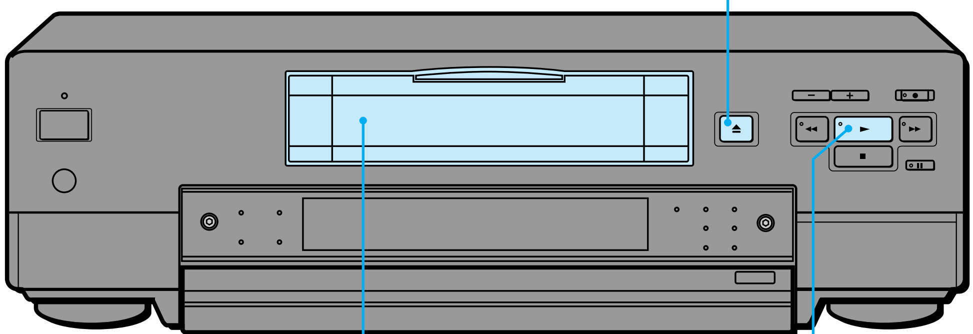
この商品の価格には、「私的録画補償金」が含まれております。補償金は、著作権法で権利保護のため権利者に支払われることが定められています。
私的録画補償金のお問い合わせ先
〒107-0052
東京都港区赤坂5丁目3番6号 赤坂メディアビル
社団法人　私的録画補償金管理協会
TEL　03-3560-3107（代）
FAX　03-5570-2560
なお、あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。

ビデオを見る

1 テレビの電源を入れて、テレビの入力を「ビデオ」の入力に切り換える。

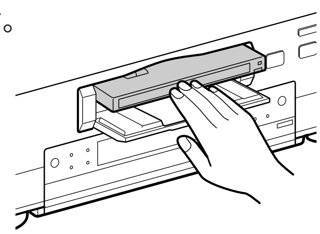
2 カセット取出しボタンを押してカセット扉を開ける。



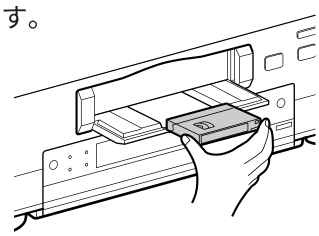


3 カセットを入れる。

自動的に電源が入り扉が自動的に閉まります。



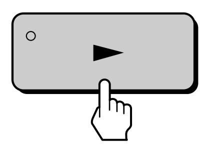
ミニDVカセットのときは、中央の溝に合わせます。表示窓に「Mini」が表示されます。



ご注意

カセット挿入口にDVまたはミニDVカセット以外のものを入れないでください。故障の原因になります。

4 再生ボタンを押す。



こんなときは

巻き戻すときは
停止中に押す。
巻き戻し中にもう一度押すと画像が見られます。

早送りするときは
停止中に押す。
早送り中にもう一度押すと画像が見られます。



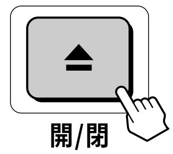
再生を止めるときに押す

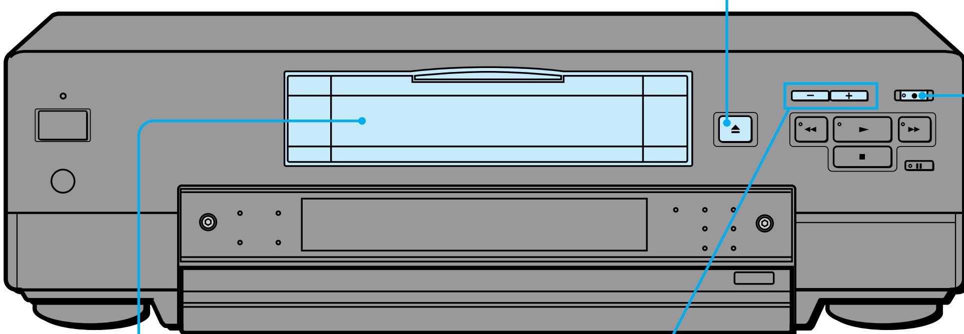
再生を一時停止するときに押す
もう一度押すか5分以上たつと、再生に戻ります。

録画する

1 テレビの電源を入れて、テレビの入力を「ビデオ」の入力に切り換える。

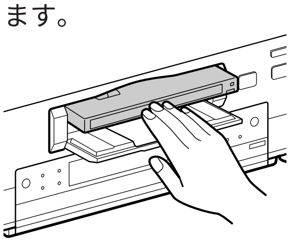
2 カセット取出しボタンを押してカセット扉を開ける。





3 カセットを入れる。

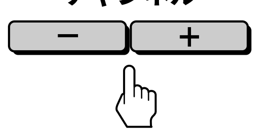
自動的に電源が入り、扉が自動的に閉まります。



4 録画するチャンネルを選ぶ。

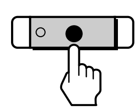
チャンネルは次のように変わります。

テレビ放送 ←→ BS放送
↕ ↕
DV入力 ←→入力2 ←→入力1



5 録画ボタンを押す。

テレビの電源を切っても、正しく録画できます。



録画をやめるには

■停止ボタンを押します。

裏番組を見るとき

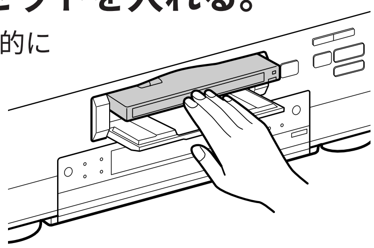
テレビの入力を「テレビ」に切り換えて、チャンネルを選びます。録画に影響はありません。

- 録画一時停止が5分以上続くと自動的に停止します。
- 入力端子につないだ機器からの画像を録画するときは、チャンネル+/−ボタンまたは本体操作パネルの入力切換ボタンで「L1」、「L2」または「DV入力」を選びます。「L1」は後面の「入力1」に接続した機器、「L2」は前面の「入力2」に接続した機器をあらわします。
- 「L1」または「L2」を選んだときは録音レベルつまみと録音バランスつまみで音声の調整をしてください。

予約する

1 カセット取出しボタンを押し、カセットを入れる。

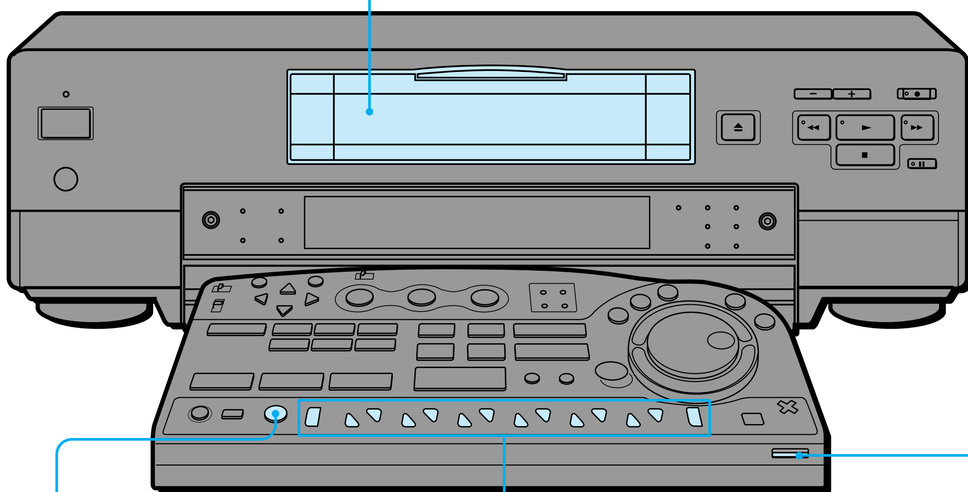
電源が自動的に
入ります。



2 操作パネル開／閉ボタンを押す。



操作パネルが出ます。



3 予約ボタンを押す。



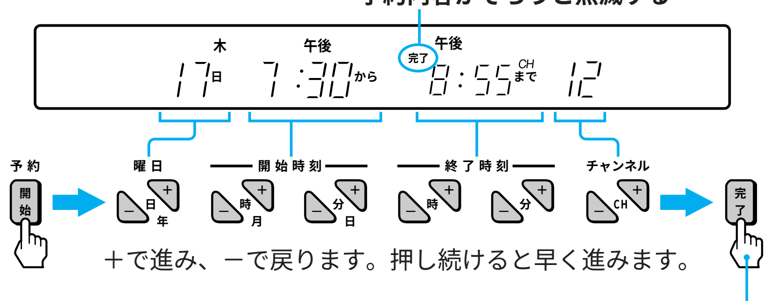
予約用のボタンが点灯します。

4 表示窓を見ながら、予約する。

1か月先までの番組を、最大8つ予約できます。

下の表示窓の図は、17日 (木) の午後7:30から午後8:55まで、12チャンネルを予約するときの例です。

予約内容がそろうと点滅する



＋で進み、－で戻ります。押し続けると早く進みます。

ピーと鳴って電源が切れます。表示窓に「予約」が表示され、予約待機（予約録画待ち）になります。
続けて予約するときは、この手順を繰り返します。

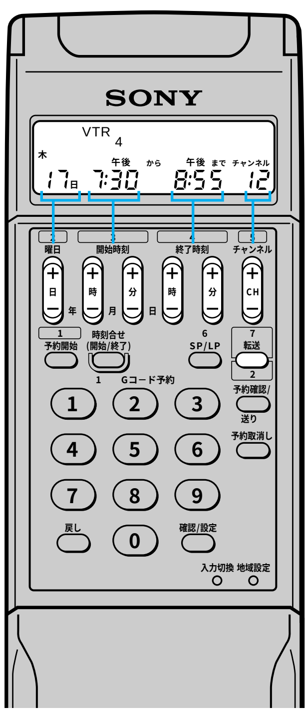
予約を確認・変更・取り消しする場合は、23、24ページをご覧ください。

予約した後に本機を使うとき

電源ボタンを押して表示窓の「予約」を消します。使い終わったあとは、再度予約録画用のテープを入れ、予約開始時刻になる前に電源を切っておいてください。再度、予約待機状態になります。

リモコンで予約するとき

1 リモコン裏面のフタを開け、表示窓を見ながら本体と同じように番組に合わせる。
2 SP/LPボタンでSPに合わせる。
3 合わせた内容を確認し、本体に向けて転送ボタンを押す。
予約内容が本体に転送されます。転送されると、本体がピーッと音がして表示窓に予約内容が出た後、電源が切れます。



入力端子につないだ機器から予約録画をするときは

手順4でチャンネルを選ぶときに「L1」または「L2」を選びます。「L1」は後面の「入力1」に接続した機器、「L2」は前面の「入力2」に接続した機器をあらわします。DV入力／出力端子に接続した機器からは予約録画できません。

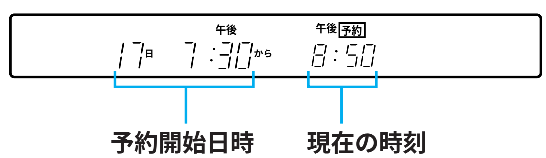
- Gコードを使って予約をするときは、22ページをご覧ください。
- 予約を途中でやめるときは予約取消しボタンを押してください。
- 予約録画を実行中にやめるときは停止ボタンを押してください。
- 毎日または毎週同じ番組を予約するときは、日ボタンの－側を押して合わせます。次のように変わります。

今日(2/2)→ 毎日 → 毎週月～土 → 毎週月～金┐
↑ ↓
└1か月先の日(3/1)← 毎週日 ←…← 毎週土─┘

- 次の日にまたがる番組は、開始する日付はそのままで終了時刻を合わせます。
- 操作パネルを開けた状態で予約を完了すると操作パネルは開いたまま電源が切れます。操作パネルを閉じるには、手順4で完了ボタンを押した後、操作パネル開／閉ボタンを押してください。

ご注意

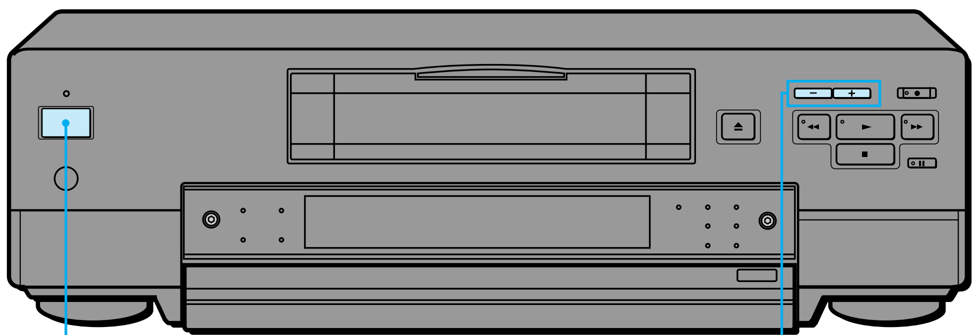
- ピピピと音がしたときは、予約が受けつけられない状態になっています。音とともにテレビ画面にメッセージが出ますので、メッセージに従って操作してください。
- 予約録画待機中は、本体表示窓に次のような表示が出ます。



- 著作権保護のための信号が記録されている放送を予約録画すると、録画の動作はしますが、映像・音声信号は記録されません。

テレビまたはBSを見る

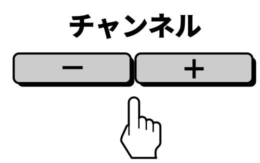
1 **テレビの電源を入れて、テレビの入力を「ビデオ」の入力に切り換える。**



2 **電源を入れる。**



3 **チャンネルを選ぶ。**



チャンネルは次のように変わります。

テレビ放送　→　BS放送
↑　　　　　　　　↓
DV入力 ← 入力2 ← 入力1

二か国語放送の音声を切り換えるとき

音声切換（主／副）ボタンを押します。押すたびに、主→副→主／副と切り換わります。

- 本体操作パネルの入力切換ボタンを押すと、チャンネルが次のように変わります。
  テレビ→BS→入力1→入力2→DV入力
- 本体操作パネルのテレビ／独立ボタンを押すと、BSの独立音声が聞けます（ノンスクランブル放送時のみ）。

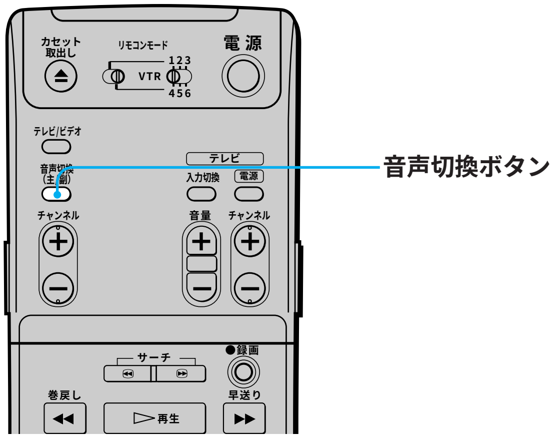
ご注意

次のときはデコーダーで音声を切り換えてください。

- St. GIGAを聞くとき（独立音声にする）
- WOWOWの音声多重放送のとき（スクランブル放送時）

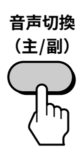
再生音声を切り換える

二か国語放送やステレオ放送を録画したテープは、再生時に聞きたい音声を選べます。



音声切換ボタンを押す。

ボタンを押すたびに、聞こえる音声が切り換わります。



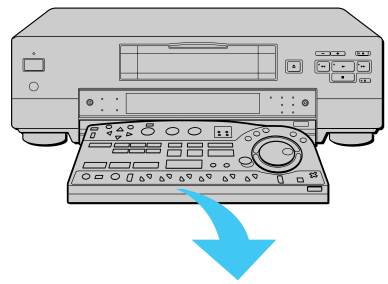
点灯する音声表示ランプ	聞こえる音声 二か国語放送	ステレオ放送
主／左と副／右またはステレオ	主音声と副音声の混合	ステレオ
主／左	主音声	左チャンネル
副／右	副音声	右チャンネル

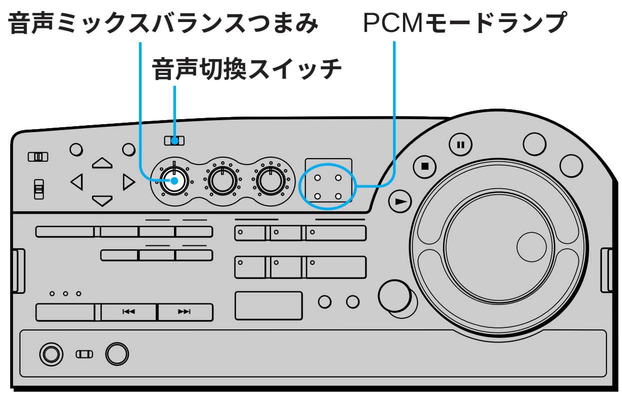
ご注意

- アンテナ線だけでテレビにつないだときは、音声は常にモノラルで聞こえます。
- 12ビットモードで記録した音声の場合、ステレオ2の音声を切り換えても、表示は常にステレオ１の状態を示します。

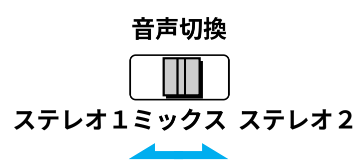
アフレコした音声を聞く

アフレコやインサート編集など12ビットモードで記録したテープを再生するときは、聞きたい音声トラックを選べます。





再生中に音声切換スイッチを切り換えて、聞きたい音声を選ぶ。



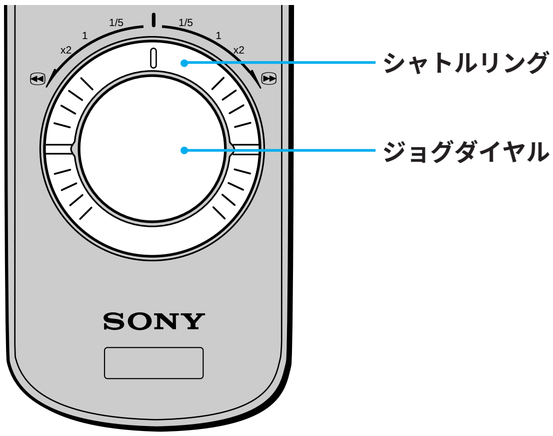
ステレオ1：ステレオ1の音声のみ
ミックス：ステレオ1とステレオ2の音声
ステレオ2：ステレオ2の音声のみ（アフレコした音声）

「ミックス」にしたときは、音声ミックスバランスつまみでステレオ1とステレオ2の音のバランスを調整できます。

記録されている音声トラックは、PCMモードランプで確認できます。（51ページ）

応用

いろいろな速さで見る・探す



シャトルリングを使って

本体操作パネルのシャトルリングでもできます。

再生中または再生一時停止中にシャトルリングを回す。

画像の動く速さ	合わせる記号
5分の1 (スロー)	1/5
ふつうの再生と同じ	1
2倍	×2
見ながら早送り・巻き戻し (10/25倍の2段階)	⏩/⏪

手を離すと再生一時停止に戻ります。

ジョグダイヤルを使って

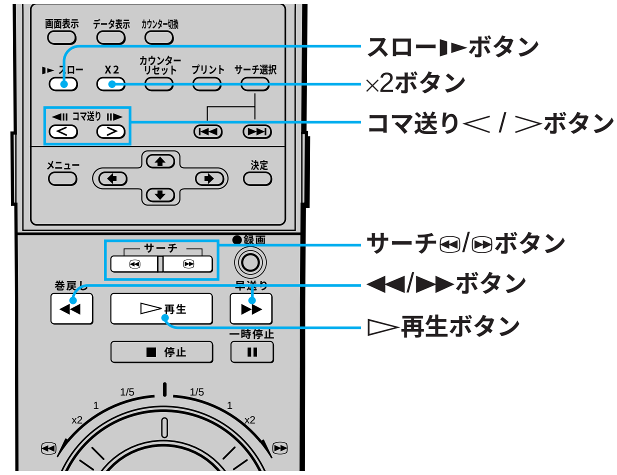
本体操作パネルのジョグダイヤルでもできます。

再生中または再生一時停止中にジョグダイヤルを回す。

回すスピードに応じて再生の速さが変わります。正または逆方向にコマ送りからふつうの再生の速さの範囲で画像が動きます。

💡

- 停止中に本体のシャトルリングを左右いっぱいに回すと、早送り・巻き戻しになります。早送り・巻き戻し中にもう一度いっぱいに回すと、画像を見ることができます。この操作はリモコンのシャトルリングではできません。また、他機に対しても、この操作はできません。
- 停止中に本体の◀◀ボタンを押しながら、▷再生ボタンを押すと、テープの頭まで巻き戻り、自動的に再生が始まります。



リモコンのボタンを使って

シャトルリングやジョグダイヤルのように回しつづけなくてもボタンを押すだけで速さを変えられます。

画像の動く速さ	押すボタン
5分の1 (スロー)	再生中にスロー▮▶ボタン 向きを変えるには、コマ送り＜/＞を押します。
2倍	再生中に×2ボタン 向きを変えるには、コマ送り＜/＞を押します。
見ながら早送り・巻き戻し	再生中または再生一時停止中にサーチ⏩/⏪ボタン
コマ送り	再生一時停止中にコマ送り＜/＞ボタン 正方向は＞、逆方向は＜を押します。押し続けると連続してコマ送りします。

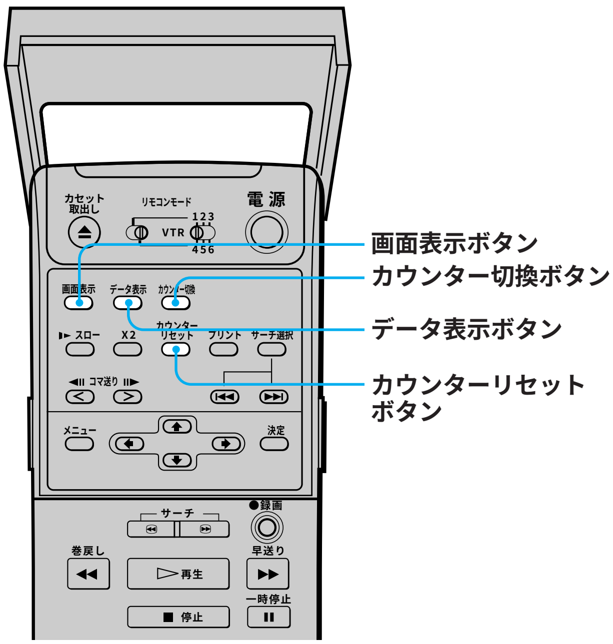
ふつうの再生に戻すには、▷再生ボタンを押します。

💡

通常の再生よりも遅い速度で再生しているときにテープの音声を聞くには、メニューの「各種設定1」で「スロー再生時音出し」を「入」にしてください。

カウンターや残量を見る

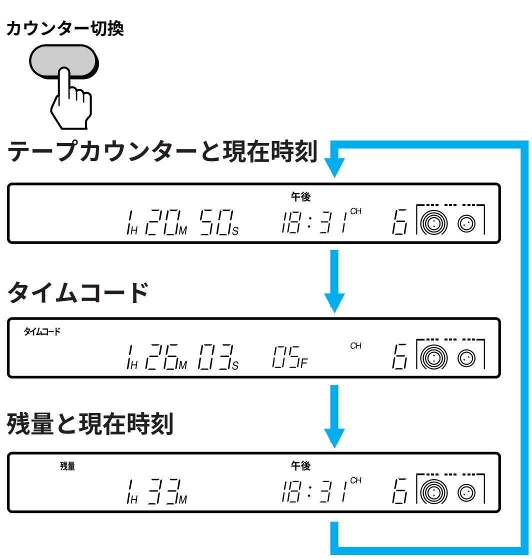
本機はテープカウンターのほかにテープの残量表示、タイムコードを本体表示窓とテレビ画面に表示させることができます。残量表示はテープの残りを知る目安としてお使いください。



テープカウンター、タイムコード、残量表示を切り換える

カウンター切換ボタンを押します。

押すたびに本体表示窓に表示される値が、テープカウンター、タイムコード、残量時間と切り換わります。



テレビ画面でカウンターを見るには

画面表示ボタンを押してから、カウンター切換ボタンを押します。テレビ画面にテープカウンター、タイムコード、残量時間が出ます。消すにはもう一度画面表示ボタンを押します。

テープカウンターを「0H00M00S」にするには

カウンターリセットボタンを押します（タイムコードはリセットされません）。

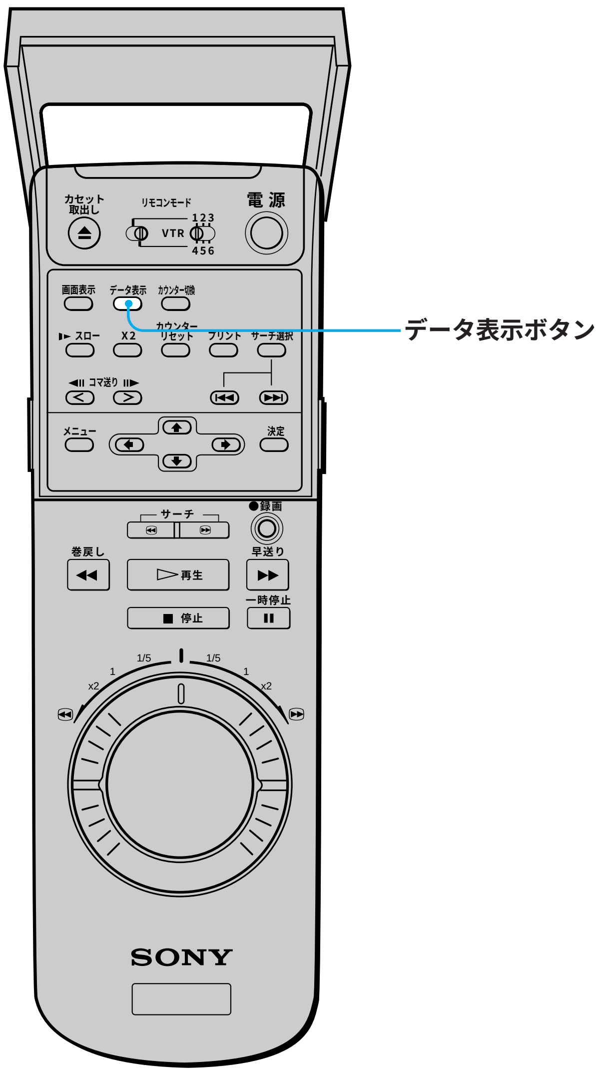
テープを入れ換えたときも「0H00M00S」になります。

ご注意

- テープの無記録部分の再生・早送り・巻き戻し中は、テープカウンターは動きません。またタイムコードは「-H--M--S--F」と表示されます。
- 無記録部分があるテープを繰り返し巻き戻したり、早送りしたりすると、カウンターの表示が正しくなくなることがあります。
- 早送り、巻き戻し、サーチ中のテープスピードはテープの残量に合わせて自動的に調節されます。この場合、カウンターやタイムコードの表示が一時的に止まることがあります。
- 残量時間表示は、テープのタイプにより正しくなくなることがありますので、おおよその時間を知る目安としてお使いください。
- 画面表示ボタンを押して、テレビ画面にカウンターなどを表示した状態で、「出力1」または「出力2」端子に接続した機器で録画すると、カウンターなどの表示も録画されます。DV端子で出力した場合は、カウンターなどの表示はされません。

録画情報を見る

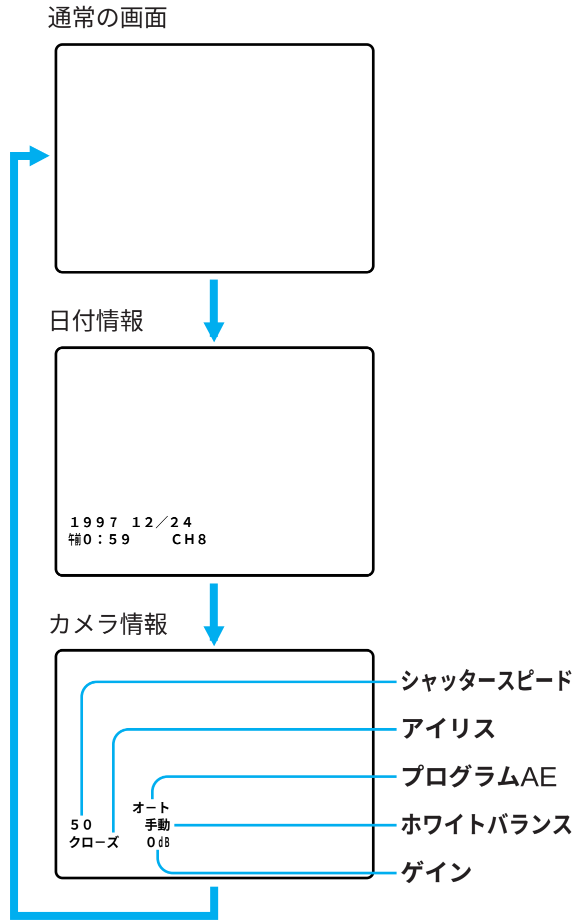
デジタルビデオで記録したテープには、録画の日時、時刻、チャンネルが記録されています。また、ソニー製のデジタルカメラレコーダーで撮影したテープには、カメラ情報（シャッタースピード、プログラムAEモード、ホワイトバランス、アイリス、ゲイン）が記録され、好きなときに見ることができます。



再生中にデータ表示ボタンを押す。

押すたびに通常の画面、日付、カメラ情報と切り換わります。





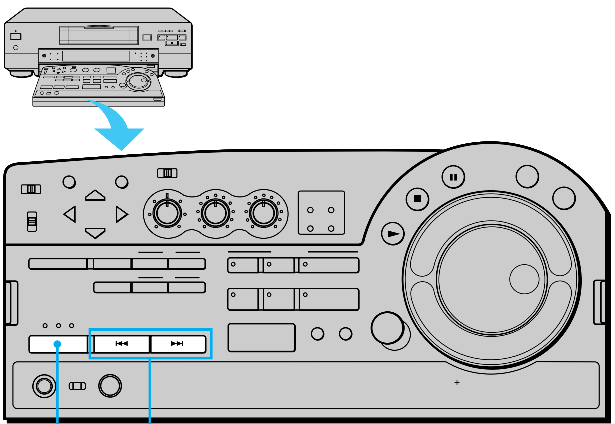
日付情報やカメラ情報が記録されていない場合は、画面に「---」が表示されます。

ご注意

本機のカメラ情報の表示は、カメラ側の表示と一部異なります。

場面を頭出しする

本機では以下のような頭出しができます。
ー録画の開始位置を探す：インデックスサーチ
ー撮影日時で探す：日付サーチ
ーフォトモード撮影の場面を探す：フォトサーチ



|◀◀/▶▶|ボタン
サーチ選択ボタン

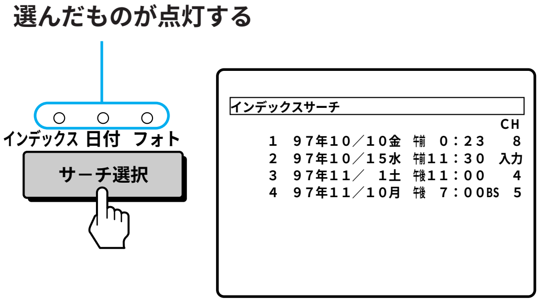
場面の一覧表示を使って頭出しする

カセットメモリーの付いたテープを使用すると、録画した日時の順に場面の一覧が表示されます。表示された一覧を使って、頭出しができます。

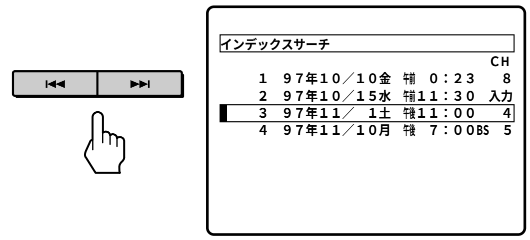
カセットメモリーのないテープを使用しているときは、「カセットメモリー」の設定にかかわらず現在のテープ位置から前後の場面が順に頭出しされます。一覧表示を使っての頭出しはできません。

1 **サーチ選択ボタンを押して頭出しの種類を選ぶ。**
録画日時順に場面の一覧が表示されます。

選んだものが点灯する



2 **|◀◀/▶▶|ボタンを押して、頭出しする場面を選ぶ。**
選んだ場面まで巻き戻しまたは早送りされ、通常の再生（フォトサーチの場合は一時停止）になります。

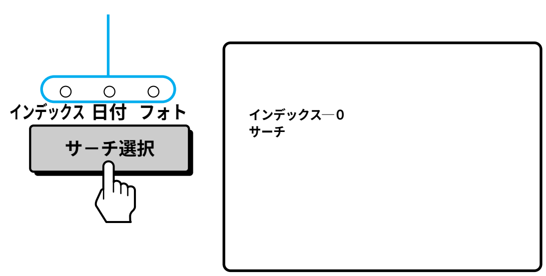


前後の場面を順に頭出しする

カセットメモリーの付いたテープを使っているときは、メニューの「各種設定2」にある「カセットメモリー」の設定を「切」にしてください。

1 **サーチ選択ボタンを押して頭出しの種類を選ぶ。**

選んだものが点灯する

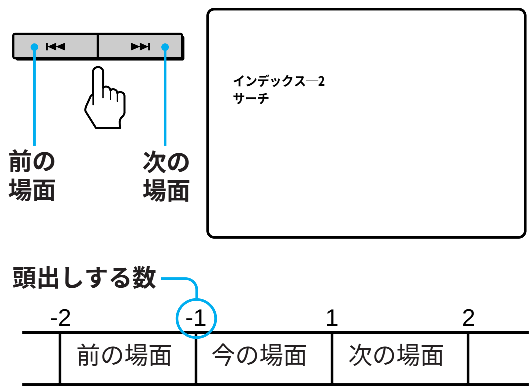


次のページにつづく

場面を頭出しする (つづき)

2 ⏮/⏭ボタンを繰り返し押して、頭出しする数を選ぶ。

ボタンを押してから2～3秒後に数字が「0」になるまで巻き戻しまたは早送りされ、通常の再生 (フォトサーチの場合は一時停止) になります。



頭出し信号について

頭出し信号は次のときに付きます。

- ●ボタンを押して録画を始めたとき
- 録画一時停止中にチャンネルを変えて再び録画を始めたとき
- 予約録画が始まったとき

頭出しの方法に応じて3種類の頭出し信号があります。頭出し信号はテープ上 (サブコードセクター) とカセットメモリーに記録されますが、カセットメモリーの有無や、録画した機器によって記録される信号が異なります。信号がないときは、その信号を使った頭出しはできませんので、ご注意ください。

本機で録画したとき

	カセットメモリー	テープ上
インデックス信号	記録する	記録する
日付信号	記録しない	記録する
フォト信号	記録しない	記録しない

デジタルビデオカメラで撮影したとき

	カセットメモリー	テープ上
インデックス信号	記録しない	記録しない
日付信号	記録する*	記録する
フォト信号	記録する*	記録する

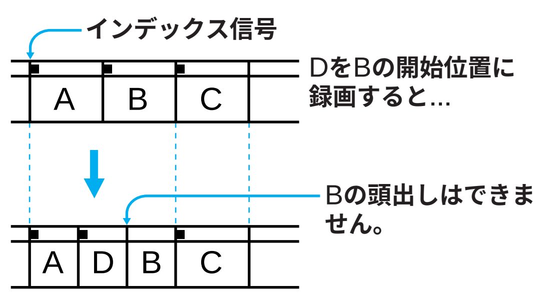
*カセットメモリー非対応機種 (DCR-PC7など) では、カセットメモリーに記録できません。

💡

- サーチ選択ボタンを押しても表示が画面に出ないときは、メニューの「各種設定1」で「自動画面表示」を「入」にしてください。
- CM 4Kマーク表示のあるカセットを使うと、本機では頭出し信号を33個まで記録できます。ただし、インデックス信号、日付信号、フォト信号の数によってこの数値は変化します。本機では、カセットメモリー16キロビットまで対応しています。
- カセットメモリーに入りきらない場面を頭出しするときや、テープ上の位置の順番に頭出ししたいときは、メニュー「各種設定2」で「カセットメモリーサーチ」を「切」にしてください。カセットメモリーのないテープと同じ頭出しができます。
- 「インデックスタイトラー」の信号は、インデックス信号として頭出しできます。ただし、録音日時やタイトルの内容は表示できません。
- 本機ではカセットラベルの表示はできません。

ご注意

- 頭出し用の信号は録画を開始した時点で記録されます。開始位置の上に他の場面を録画した場合、元の画面は頭出しできなくなります。



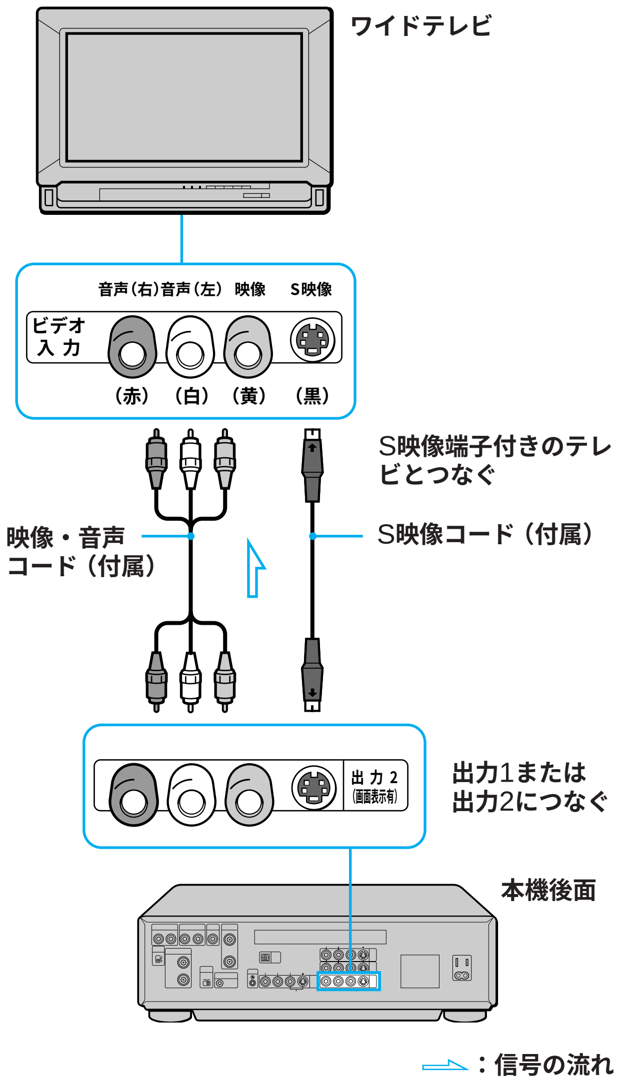
- ソニー製以外のデジタルビデオで記録されたテープでは、頭出しが行えないことがあります。
- 頭出し用の信号をあとから記録したり、録画時に記録された頭出し用の信号をあとから消すことはできません。

ワイドで見る

本機で録画したワイド放送や、ビデオカメラでワイド撮影した映像を自動的にワイドで見られます。

ワイドテレビとの接続

アンテナの接続の他、下記の端子をつないでください。



ご注意

ワイド映像の情報を伝送するワイドID信号は、映像端子はID-2方式に、S映像端子はID-2方式およびS1映像信号方式に対応しています。

ワイド放送の録画

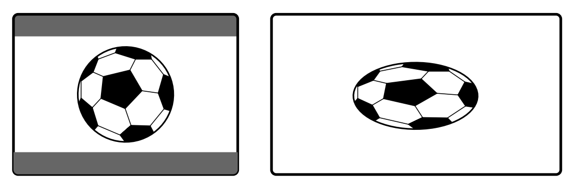
テレビやBSのワイド放送は、自動的にワイドモードで受信し、録画します。入力1、2やDV入力からのワイド映像も録画します。ワイド映像の信号を検知すると、ワイドランプが点灯します。

ワイド映像の再生

本機で録画したワイド放送はそのままワイドテレビでご覧になれます。ビデオカメラのワイドモードで撮影した画像もご覧になれます。再生時はワイドランプが点灯します。
ビデオカメラのワイドモードで撮影したテープを従来のテレビで見たいときには、メニューの「各種設定2」で「ワイド再生」を「入」にしてください。

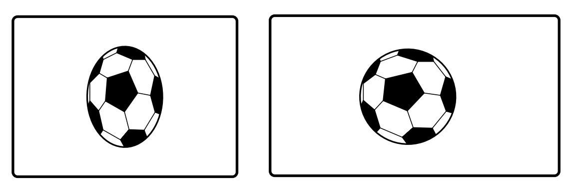
「ワイド再生」が「入」のとき

従来のテレビ　　ワイドテレビ



「ワイド再生」が「切」のとき

従来のテレビ　　ワイドテレビ

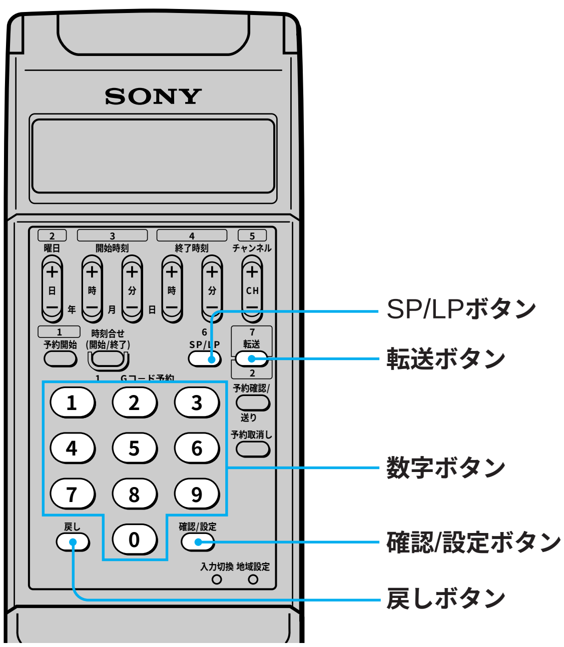


ご注意

- ワイド-IDの信号をもった映像でないと検知できません。
- ビデオカメラのワイドモードで撮影したテープを「ワイド再生」を「入」にして従来のテレビで見ると、帯の位置が変わることがあります。
- ワイドテレビでの画像の見えかたは、お使いのワイドテレビの機能設定などによっては、上記のイラストと異なることがあります。
- ワイドテレビの操作については、テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

Gコードで予約する

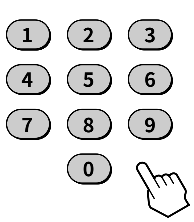
新聞や雑誌のテレビ欄に掲載されているGコードを使うと、予約の日時とチャンネルを自動的に設定できます。通常の予約と合わせて8つまで予約できます。「リモコンで時計を合わせる」（73ページ）と「Gコードを準備する」（76ページ）を行っておいてください。
例：掲載されていたGコードが「12345678」のとき。

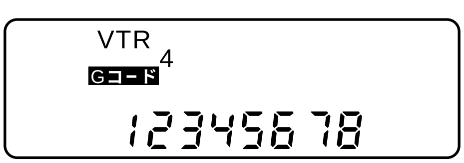


1 カセットを入れる。

2 リモコン裏面のフタを開け、Gコードの番号を押す。

間違えたときは、戻しボタンを押します。



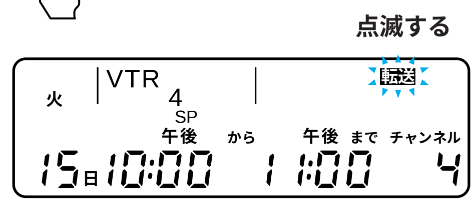


3 SP/LPボタンでSPにあわせる。

4 確認/設定ボタンを押す。

予約した番組が放送される日時とチャンネル番号が出ます。間違った内容が表示されたり、エラー表示が点滅したときは、正しい番号を入れ直してください。





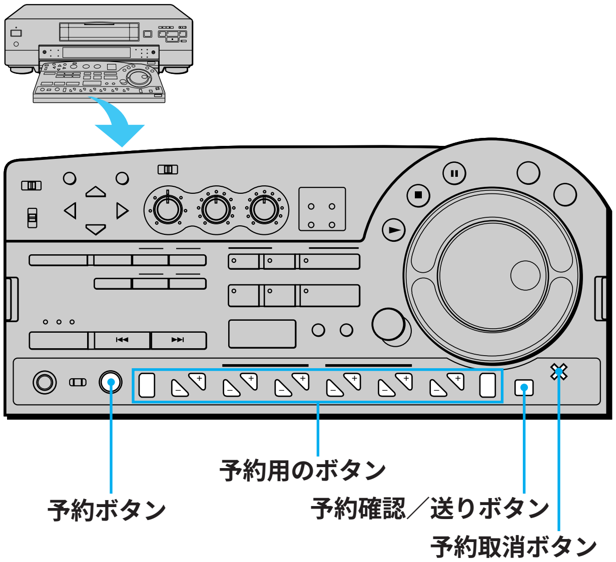
5 本体に向けて転送ボタンを押す。

ピーと鳴って、本体表示窓に「予約録画」が出て予約待機（予約録画待ち）になります。
続けて予約するときは、手順2から繰り返します。



- 手順4で予約用ボタンを使うと、予約の内容を変更できます。
- 入力端子につないだ機器からGコードで予約録画するときは、手順5の前にチャンネル＋／－ボタンで「L1」または「L2」を選びます。「L1」は後面の「入力1」に接続した機器、「L2」は前面の「入力2」に接続した機器をあらわします。DV入力／出力端子に接続した機器からは予約録画できません。

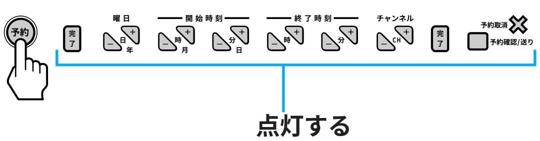
予約を確認する・変更する・取り消す



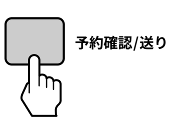
予約を確認する

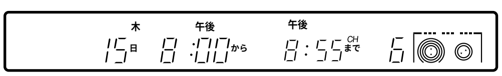
予約待機（予約録画待ち）のまま確認できます。

1 **予約ボタンを押す。**
予約用のボタンが点灯します。



2 **予約確認ボタンを押す。**
押すたびに予約した順で予約内容が確認できます。終わったらカウンター表示が出るまで予約確認ボタンを押してください。

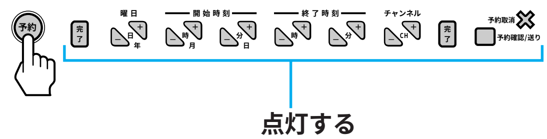




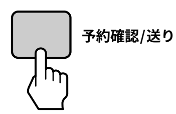
予約を変更する

予約を変更できます。リモコンでは操作できません。

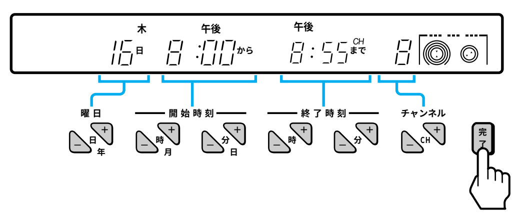
1 **予約ボタンを押す。**
予約用のボタンが点灯します。



2 **予約確認／送りボタンを繰り返し押して、変更したい内容を出す。**



3 **変えたい項目を予約用のボタンで変更し、予約完了ボタンを押す。**
予約待機（予約録画待ち）になります。
もう1度変更するときは手順1から行ってください。

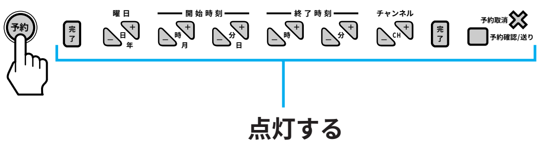


予約を取り消す

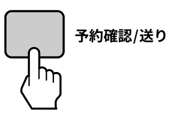
予約を取り消しできます。

1 **予約ボタンを押す。**

予約用のボタンが点灯します。

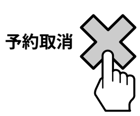


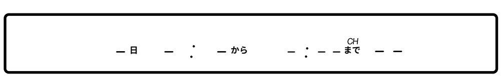
2 **予約確認／送りボタンを繰り返し押して、取り消したい内容を出す。**



3 **予約取消ボタンを押す。**

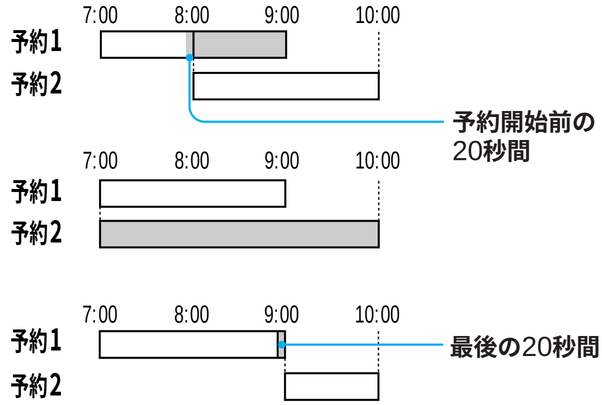
予約が取り消されます。続けて別の予約を取り消すときは手順1から行ってください。



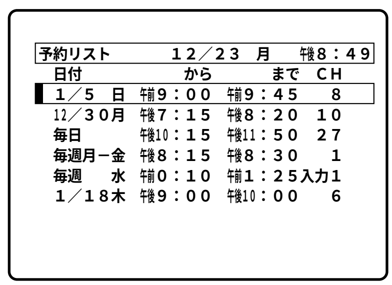


ご注意

予約が重なったときは、[グレー部分]は録画しません。



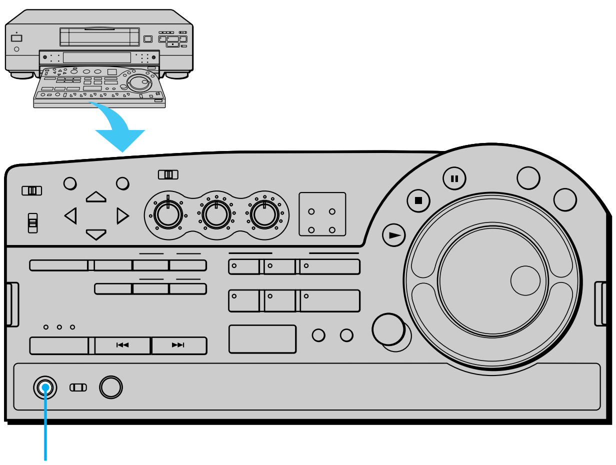
- 電源が入っているとテレビ画面を見ながら確認・変更・取り消しができます。



- リモコンで予約を確認するには、ウラ面のフタを開けて予約確認ボタンを押します。
- リモコンで予約を取り消しするには、ウラ面のフタを開けて予約確認ボタンを繰り返し押し、取り消したい内容が表示されたら予約取り消しボタンを押します。

時間を決めて録画を止める（クイックタイマー）

録画中に、急用で出かけることになったり眠くなったりしたときは、自動的に電源が切れる時間を決められます。



クイックタイマーボタン

💡

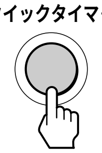
- 途中で時間を変えるときは、クイックタイマーボタンを繰り返し押します。
- クイックタイマーボタンを使って、録画を始めることもできます。
  1. 電源を入れる。
  2. ビデオチャンネルボタンを押して、チャンネルを選ぶ。
  3. クイックタイマーボタンを繰り返し押して、録画を止める時間を選ぶ。
     録画が始まります。
- クイックタイマーを途中で止めたいときは、停止ボタンを押します。

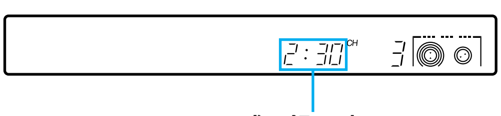
ご注意

タイムコード表示中にクイックタイマーを行うと、本体表示窓には、残量と現在時刻が表示されます。

録画中にクイックタイマーボタンを繰り返し押して、録画を止める時間を選ぶ。

押すたびに「9:00」まで30分単位で変わります。(「0:00」のまま約30秒たつと電源が切れます。)





残り録画時間

指定した時間がたつと自動的に録画が止まり、電源が切れます。

静止画を出力する

DV入力端子（i.LINK端子）付きパソコンに出力するときは

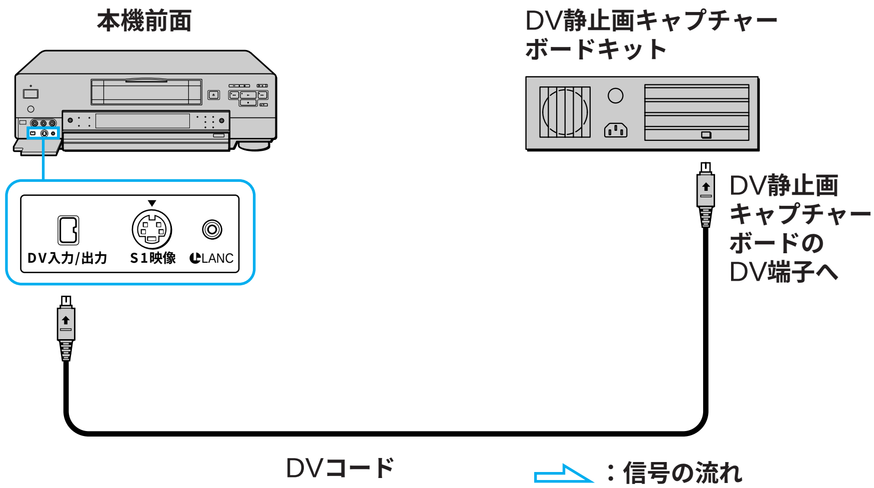
本機のDV入力／出力端子とパソコンのDV入力端子（i.LINK端子）をDVコードで接続します。接続のしかたについて詳しくはパソコンまたは画像取り込みソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DV静止画キャプチャーボードにLANC端子があるときは

本機のLANC端子とDV静止画キャプチャーボード側のLANC端子を付属のLANCコードで接続し、本機のLANCモードを「S」にします。パソコンで本機をコントロールできます（28ページ）。

静止画や動画のひとコマをパソコンに取り込んだり、ビデオプリンターでプリントできます。

接続例：DV静止画キャプチャーボード

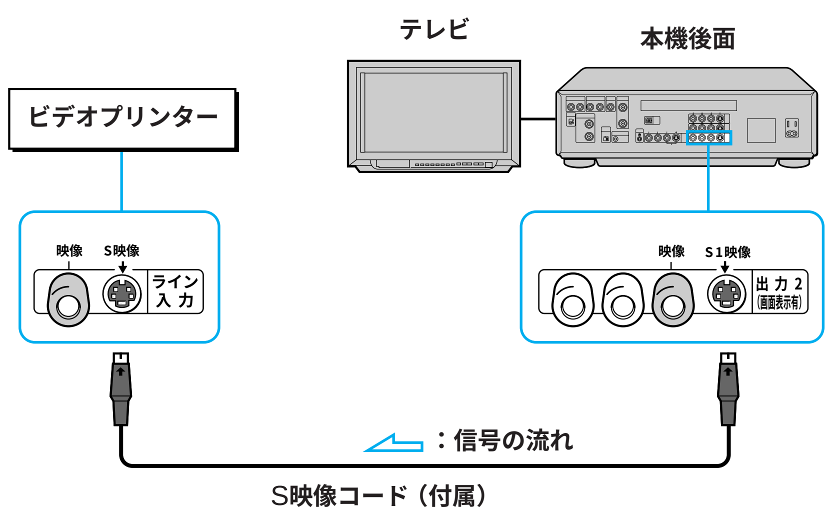


詳しくはDV静止画キャプチャーボードの取扱説明書をご覧ください。

接続例：ビデオプリンター

ご注意

- ビデオプリンターにS映像入力端子がないときは、映像コードを使って映像端子を接続してください。
- ビデオプリンターにLANC端子があるときは、本機とビデオプリンターのLANC端子どうしをLANCコードで接続し、本機のLANCモードを「S」にしてください。本機付属のリモコンのプリントボタンでプリントできます（28ページ）。
- ビデオプリンターの取扱説明書もあわせてご覧ください。



デジタル信号で音声を出力する

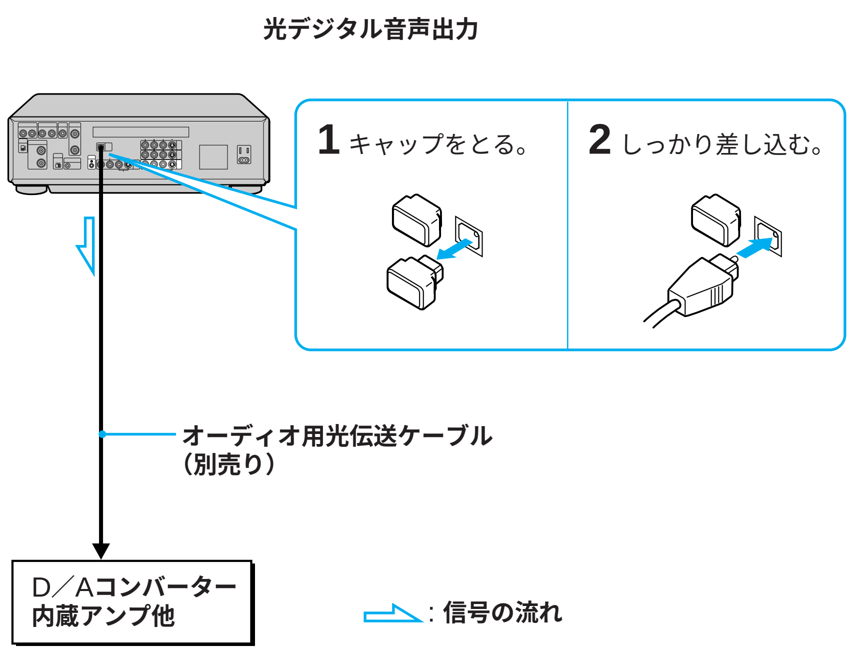
ご注意

- CUE/REV、SLOW、STILLなどの変速再生時は、本機の光デジタル音声出力端子から音声信号は送出されません。
- 本機の光デジタル音声出力端子を使用している場合、著作権保護のため、本機で再生した音声を他機で正しく録音できないことがあります。
- 光デジタル音声出力端子からは、本機の音声切換（主／副）の設定にかかわらず、主／副、両方の音声が出力されます。したがって、2か国語音声が録音されたテープを再生すると、主／副、両方の音声が聞こえます。
- 音声が12ビットモードでステレオ1、ステレオ2の両方のトラックに録音されているテープ（アフレコ、オーディオインサート編集をしたテープなど）を再生するとき、音声切換が「ミックス」になっていると、「ステレオ1」または「ステレオ2」を選んでいるときに比べ、光デジタル音声出力は小さくなることがあります。

本機には、音声デジタル信号のまま送出するための光デジタル音声出力端子がついています。
この端子と他機（D/Aコンバーター内蔵アンプやMDデッキ、DATデッキなど）の光デジタル入力端子を、オーディオ用光伝送ケーブル（別売り）を使ってつなぐと、本機の音がデジタル信号のまま伝送され、以下のようにお使いいただけます。

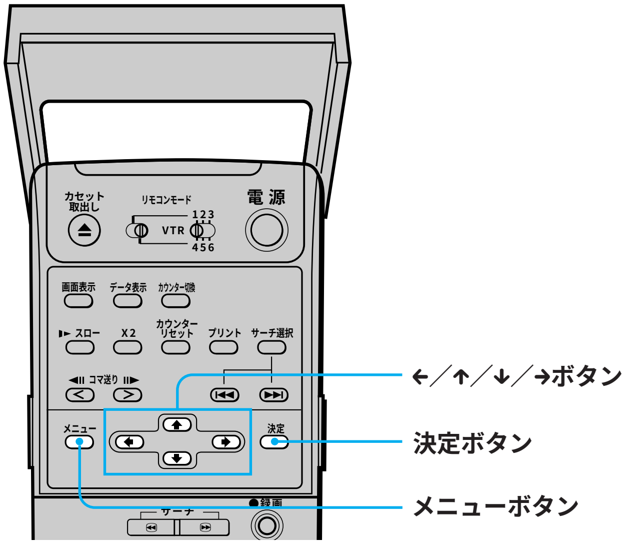
- D/Aコンバーター内蔵アンプをつなぐ
  →本機の音声を外部のD／Aコンバーターを通して聞ける。
- MDデッキ、DATデッキをつなぐ
  →本機の音声をデジタル信号のまま録音できる。

接続例



お買い上げ時の設定を変える（メニュー）

アンテナ切り換えや画面表示などを、メニューの「各種設定1・2」画面で設定できます。通常は、お買い上げ時の設定で使えますが、編集時など必要に応じて設定を変えてください。



1 メニューボタンを押す。

メニューが出ます。

メニュー
チャンネル合わせ
ＢＳ設定
ジャストクロック
Ｙ／Ｃディレー調整
カセットメモリー消去
各種設定１
各種設定２

テレビ放送の受信、受信した放送の微調整とチャンネルとばしを行います

↓↑で選び、決定で決定　やめたいときはメニュー

2 ↑／↓で「各種設定1」または「各種設定2」を選び、決定ボタンを押す。

例）「各種設定1」を選んだ場合

各種設定１		
自動画面表示	入	切
アンテナ切りかえ	自動	手動
自動ステレオ受信	入	切
表示窓の明るさ	明	暗
スロー再生時音出し	入	切
シャトルモード	A	B
エディットウィンドウ	入	切
ＬＡＮＣ	M	S

↓↑で選び←→で設定し、決定で終了してください

例）「各種設定2」を選んだ場合

各種設定２		
電源コンセント	連動	非連動
映像入力１	Ｓ映像	映像
デコーダー映像入力	Ｓ映像	映像
カセットメモリーサーチ	自動	切
ワイド再生	入	切
入力１／２の音声記録	１６ビット	１２ビット

↓↑で選び←→で設定し、決定で終了してください

3 ↑／↓で項目を選び、←／→で設定する。

各項目の内容は次の表をご覧ください。

4 決定ボタンを押す。

メニューが消えます。

各項目の内容

●がお買い上げ時の設定です。

（「各種設定1」）
自動画面表示

●入	「再生」、「早送り」などの走行表示をテレビ画面で確認したいとき。 走行表示が約3秒間出て消えます。
切	編集時、走行表示が他機で録画されないようにするとき。

アンテナ切りかえ

●自動	アンテナ線だけでテレビとつないだとき。テレビをビデオ用のチャンネル（1または2チャンネル）にすると、ビデオを見ることができます。
手動	映像・音声コードでテレビとつないだとき。テレビの入力切換を「ビデオ」にすると、ビデオを見ることができます。

自動ステレオ受信

●入	通常はこの位置にしてください。 テレビのステレオ放送がステレオで聞けます。
切	テレビのステレオ放送の雑音が多く聞きづらいとき。ただし音声はモノラルになります。

表示窓の明るさ

●明	表示を見やすくしたいとき。
暗	表示が明るすぎるとき。

スロー再生時音出し

入	通常の再生より遅い速度（スローなど）で再生しながら音声を聞きたいとき。
●切	スロー再生などの時に音声を出したくないとき。

シャトルモード

A	LANC接続時に、逆方向のスロー再生機能がない再生機をコントロールするとき。
●B	LANC接続時に、逆方向のスロー再生機能がある再生機をコントロールするとき。

エディットウィンドウ

●入	アッセンブル編集時に、エディットウィンドウを使って編集したいとき。
切	画面全体で映像を確認しながら編集したいとき。

LANC

●M	LANC接続時に、本機で他機をコントロールするとき。（本機内蔵の編集機能を使うとき）
S	LANC接続時に、他機で本機をコントロールするとき。（編集コントローラーで本機を操作するときなど）

（ビデオプリンターとつないで、本機のプリントボタンを使うときは、「S」に合わせてください。）

（各種設定2）
電源コンセント

●連動	本機の電源の入／切に応じて、本機裏面のコンセントの電源を入／切したいとき。
非連動	通常のコンセントと同じように使いたいとき。

映像入力1

●S映像	S映像と映像ケーブルを同時につないだ場合、S映像を使うとき。映像ケーブルのみをつないだ場合は、映像側になる。
映像	S映像と映像ケーブルを同時につないだ場合、映像側を使うとき。

S１映像を使う時は、必ず「S映像」に合わせてください。

デコーダー映像入力

●S映像	S映像と映像ケーブルを同時につないだ場合、S映像を使うとき。映像ケーブルのみをつないだ場合は、映像側になる。
映像	S映像と映像ケーブルを同時につないだ場合、映像側を使うとき。

S１映像を使う時は、必ず「S映像」に合わせてください。

カセットメモリーサーチ

●自動	カセットメモリーを使って頭出しするとき。カセットメモリーがないときは、テープ上の頭出し信号を使って頭出しします。
切	つねにテープ上の頭出し信号を使って頭出しするとき。

ワイド再生

入	ビデオカメラでワイド記録したテープを従来のテレビで再生するとき。
●切	ワイド記録したテープをワイドテレビで再生するとき。

入力1/2の音声記録

16ビット	入力1/2端子からの音声を16ビットで記録するとき。高音質な音声が得られます。（アフレコはできません。）
●12ビット	入力1/2端子からの音声を12ビットで記録するとき。アフレコなどができます。

（テレビ／BS放送からの音声は自動的に16ビットで記録されます。またDV端子からの音声は、再生側のテープと同じモードで記録されます。）

メニューの設定は、電源コードを抜くまで保持されます。

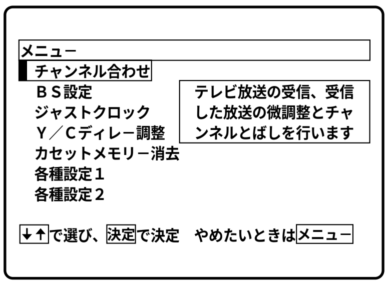
色ずれを調整する (Y/Cディレー)

アナログビデオからダビング／編集したテープを再生したときなど、画像の色のつく位置が左右にずれているとき、この色ずれを調整できます。再生時およびDV入力の映像を見ているときのみ働きます。

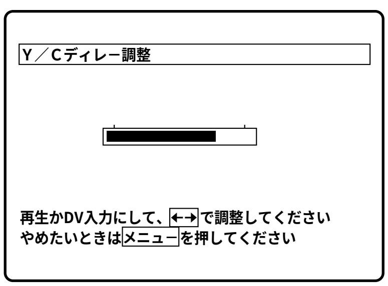
- 映像信号はY信号（輝度成分）とC信号（色成分）に分けられますが、そのY信号とC信号の時間差のことをY/Cディレーといいます。
- 調整された状態の映像を記録することはできません。

1 **再生中、一時停止中、またはDV入力の映像を見ているときにメニューボタンを押す。**

テレビ画面にメニューが出ます。



2 **↑／↓で「Y/Cディレー調整」を選び、決定ボタンを押す。**



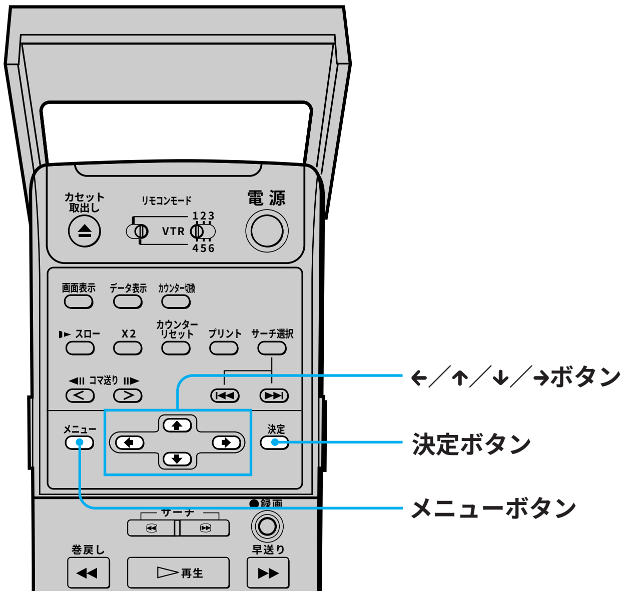
3 **再生またはDV入力にして、←／→で、画面を見ながら色ずれを調整する。**

4 **決定ボタンを押す。**

メニューが消えます。

カセットメモリーの内容を消去する

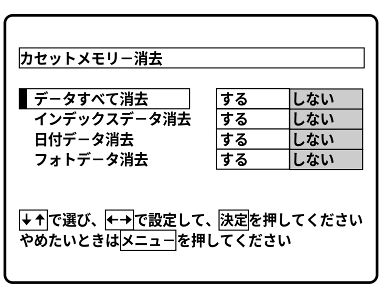
DVカセットまたはミニDVカセットには、録画日時などのデータを記憶するためのカセットメモリー（CIIIマーク）が付いているものがあります。ダビングなどでデータが不要になったときは、以下の手順で消去してください。



1 **メニューボタンを押す。**
メニューが出ます。

2 **↑／↓で「カセットメモリー消去」を選び、決定ボタンを押す。**

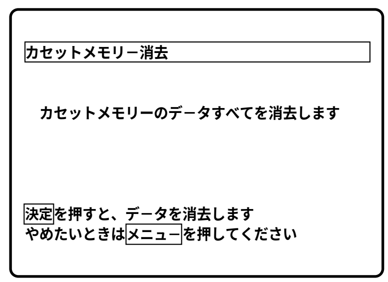
3 **↑／↓で消去したい項目を選び、←／→で設定する。**



各項目の内容については、下の表をご覧ください。

項目	消去される内容
データすべて消去	カセットメモリーの内容すべて
インデックスデータ消去	録画日時とチャンネルなど録画内容
日付データ消去	各録画の日付
フォトデータ消去	フォトモード撮影をした日時

4 **決定ボタンを押す。**
確認のメッセージが出ます。



5 **決定ボタンを押す。**
設定した項目が消去されます。終わると通常の画面に戻ります。

ご注意

- テープが誤消去防止状態になっていると、カセットメモリーの消去はできません。
- 本機は16キロビットのカセットまで対応しています。16キロビットより大きなカセットメモリーを搭載したテープに対しては、「データすべて消去」しか選べません。
- 「インデックスデータ消去」を行うと「インデックスタイトラー」のデータも消去されます。
- 「データすべて消去」を行うと「インデックスタイトラー」「カセットラベル」などのデータも消去されます。

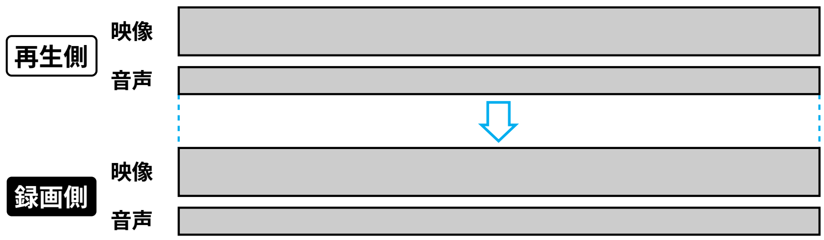
編集を始める前に

こんな編集ができます

録画済みのテープから不要な場面を取り除いたり、必要な場面を好きな順序でつなぎ合わせたりして別のテープに録画し直すことを編集といいます。編集を行うには、本機の他にもう一台ビデオ (ビデオデッキまたはビデオカメラ) が必要です。

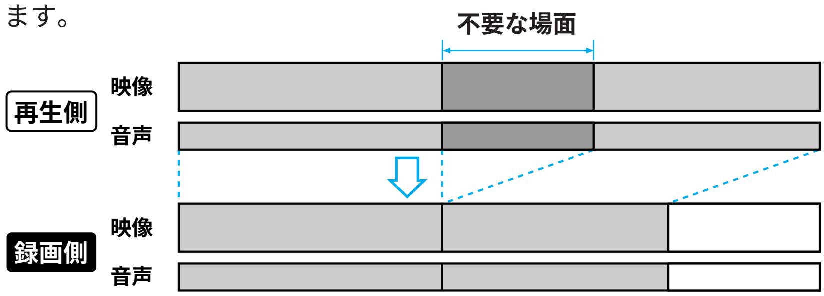
ダビング

テープの内容を、加工せずに別のテープに録画し直します。



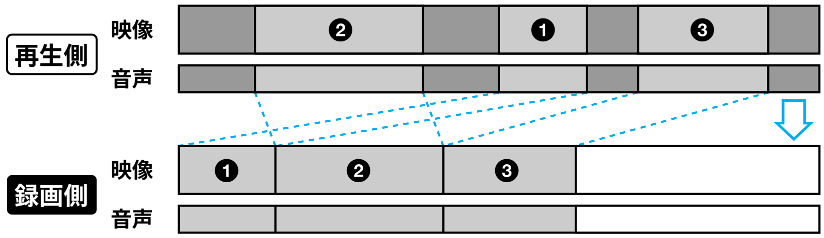
カット編集

テープの不要な場面を取り除き、順々につないで別のテープに録画し直します。



アッセンブル編集

テープの必要な場面だけを、希望の順序で自動的につなぎ録りします。
アッセンブル編集を行うときは、本機が録画機になります。また、再生機にはLANC端子のついたビデオが必要です。



・ビデオインサートとオーディオインサートを同時に行なって、映像と音声を一度に差し替えることも可能です。
・本機では、音声を先に録音して、その音に合わせて映像をインサートしていく編集（ビデオ・オン・サウンド＝V.O.S.）ができます。

インサート編集

テープの一部分に他のテープの映像や音声を記録し直します。インサート編集を行うときは、本機が録画機になります。

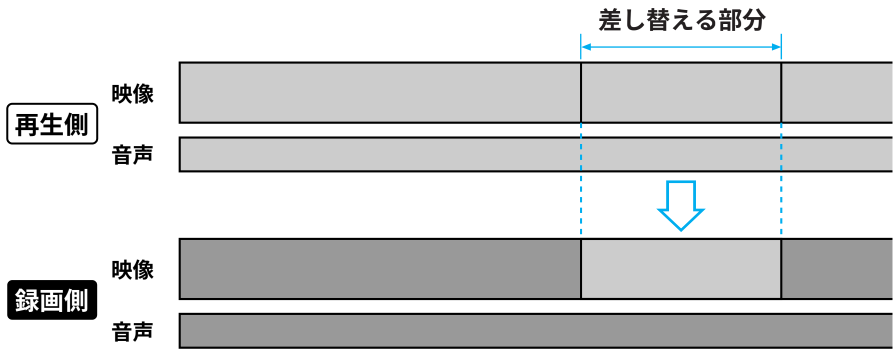
インサート編集には、本機で録画されたテープを使用してください。

他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにインサート編集を行ってください。他のビデオで録画したテープにインサート編集を行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。

インサート編集には、以下のような種類があります。

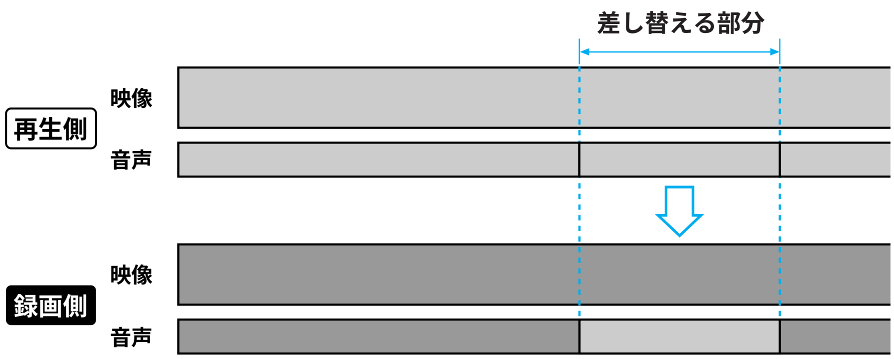
① ビデオインサート

録画済みテープの映像を他のテープの一部分に差し替えます。
前にあった映像は消去されます。音声は前のまま残ります。



② オーディオインサート（16ビット）

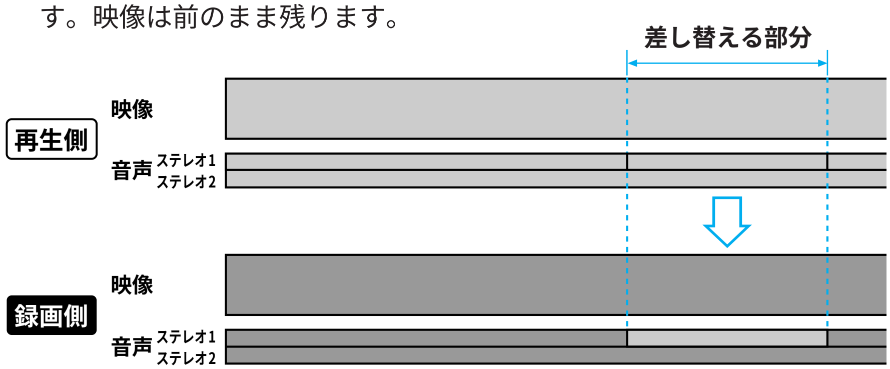
16ビットモードで記録された音声を他のテープの音声に差し替えます。前にあった音声は消去されます。映像は前のまま残ります。



次のページにつづく

③ オーディオインサート（12ビット）

12ビットモードで記録された音声を他のテープの音声に差し替えます。2つの音声トラック（ステレオ1または2）のどちらを差し替えるか選ぶことができます。差し替えられたトラックの音声は消去されます。映像は前のまま残ります。

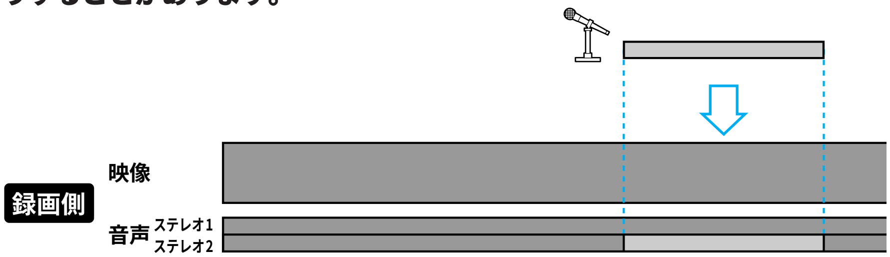


アフレコ

12ビットモードで録画されたテープに、CDやマイクの音声を追加します。音声はステレオ2に記録されます。

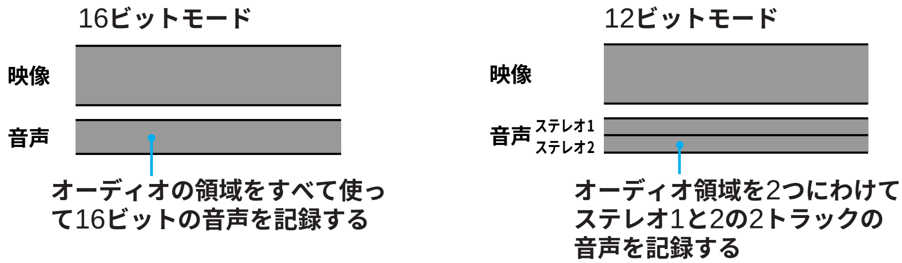
アフレコは本機で録画されたテープに対してのみ可能です。

他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにアフレコを行ってください。他のビデオで録画したテープにアフレコを行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。

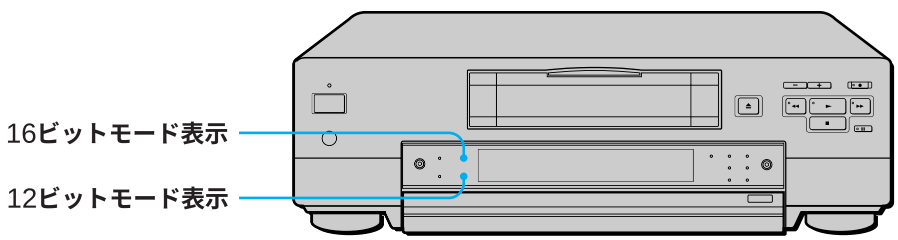


音声記録モードについて

DV方式のテープは、16ビットモードまたは12ビットモードのどちらかで記録されます。



- テープの音声記録モードを確認するには、再生中に本体表示窓の音声記録モード表示を見ます。



- 録画するときの音声記録モードは、次のように決まります。

– DV端子からの音声：再生側のテープと同じ
– 入力1／2端子からの音声：メニューの「入力1／入力2の音声入力」の設定による
– チューナーからの音声：つねに16ビット

編集の予備知識

LANC (ランク) 端子について

LANCとはLocal Application Control Bus Systemの略で、他の機器を制御する方式のことです。本機と他機のLANC端子をつなぐと、編集の際に2台のビデオを別々に操作する必要がなく、スムーズに編集が行えます。LANC端子を通じて伝送される情報には、再生・停止・一時停止などの操作命令や、テープカウンターやタイムコード、機器の状態などのデータがあります。

LANC端子を使ってつないだときは、どちらの機器をどちらが制御するかをメニューまたはスイッチで設定します。「M」が制御する側、「S」が制御される側になります。

次のページにつづく

- 他機のLANC端子の形状が5ピンDINプラグのときは、コントロールL接続ケーブルVK-810（別売り）をお使いください。
- コントロールL（CONTROL L）とリモート（REMOTE）という表示の端子もLANC端子と同じ機能を持っています。

ご注意

LANC端子からタイムコードが伝送されるのは再生機をタイムコード表示にしているときのみです。

編集を始める前に (つづき)

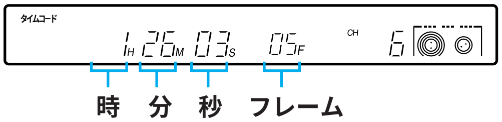
本機のタイムコードには
ドロップフレーム方式を採用
しています（108ページ）。

本機のDV入出力信号はDV
（デジタルビデオフォーマット
SD仕様）の映像音声データ
信号です。

タイムコードについて

タイムコードは、テープ位置の指定を容易にするために、テープ上に記録される位置情報信号です。信号はフレーム（映像の単位、1フレーム=約1/30秒）ごとにつけられるため、高い精度で編集を行うことができます。
本機では、録画時にタイムコードが自動的に記録されます。タイムコードを確認するには、カウンター切換ボタンを押してタイムコード表示に切り換えます。

タイムコード表示



タイムコードはテープの先頭を0:00:00:00として順に記録されます。
ただしテープの途中に空き（無録画部分）があると、その直後を0:00:00:00として記録されていきます。このようなテープを再生側に使用すると、アッセンブル編集が正しく行えないことがあります。その場合、テープ全体を改めてダビングし直したテープを使用してください。タイムコードが連続して記録され、正確に編集できるようになります。

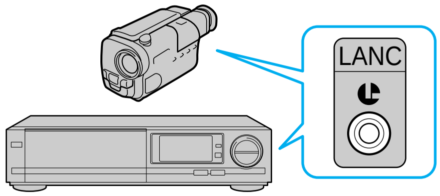
DV端子について

DV端子は画像や音声をデジタル信号のまま伝送するための端子です。画質や音質の劣化がほとんどありません。また、機器の状態によって信号の流れる方向を自動的に切り換えるため、入力／出力に応じてつなぎ直す必要がありません。なお、映像・音声端子に比べて、一部機能が異なりますのでご注意下さい。

- 本機のDV端子から出力されるのは、テープ再生信号のみです。チューナーや外部入力の信号は出力されません。また、変速再生時には音声は出力されません。
- DV端子を使ってつないだときは、録画側の音声記録モードは再生側と同じになります。録画側の音声記録モードを変えたいときはDV端子ではなく、映像・音声端子につないでください。
- 主／副の両音声（2か国語音声など）が録音されたテープを再生すると、再生側の音声切換（主／副）の設定にかかわらず、DV端子からは主／副両音声が出力されます。録画側に入力された両音声は、録画側の音声切換（主／副）の設定にかかわらず、主／副の両音声が記録されます。
  再生側、録画側とも、音声切換（主／副）の設定は、音声端子（アナログ信号）に対してのみ有効です。
- DV端子を使ってつないだときは、再生側のテープに記録された録画情報（録画の日時、カメラ情報など）は、そのまま録画側に伝送されます。このため、録画されたテープを再生しデータ表示ボタンを押すと、再生側のテープと同じ録画情報が表示されます。ただしカセットメモリーの内容は伝送されません。
- 画面表示やY／Cディレー調整、ワイド再生といった、再生中に働く機能は映像出力のみに働きます。DV端子の接続では働きません。

接続の方法を選ぶ

本機とつなぐビデオデッキまたはビデオカメラにLANC（ランク）端子があるかどうか確認してください。
この端子を使って接続するかどうかで、編集の操作方法が異なります。また、アッセンブル編集はLANC端子を使って接続した場合のみ行えます。



LANC端子が
- **ある→「LANC端子のあるビデオと編集する」（38ページ）へ**
- **ない→「LANC端子のないビデオと編集する」（52ページ）へ**

本機を再生側に使うときは

この取扱説明書では本機を録画側にして、本機の編集機能を使用する場合について説明しています。本機を再生側にして編集を行うときは、以下の点に注意して接続・準備を行ってください。

- LANC端子を使って接続するときは、本機（再生機）のLANCモードを「S」にする（28ページ）
- 本機をコントロールする機器がタイムコード対応機のときは、本機のカウンター切換ボタンを押してタイムコード表示にする（17ページ）
- アフレコやインサート編集したテープを再生するときは、音声切換スイッチを「ミックス」に合わせ、音声ミックスバランスつまみでバランスを調節する（15ページ）

編集の種類や操作については、録画側の機器や編集コントローラーの取扱説明書をご覧ください。

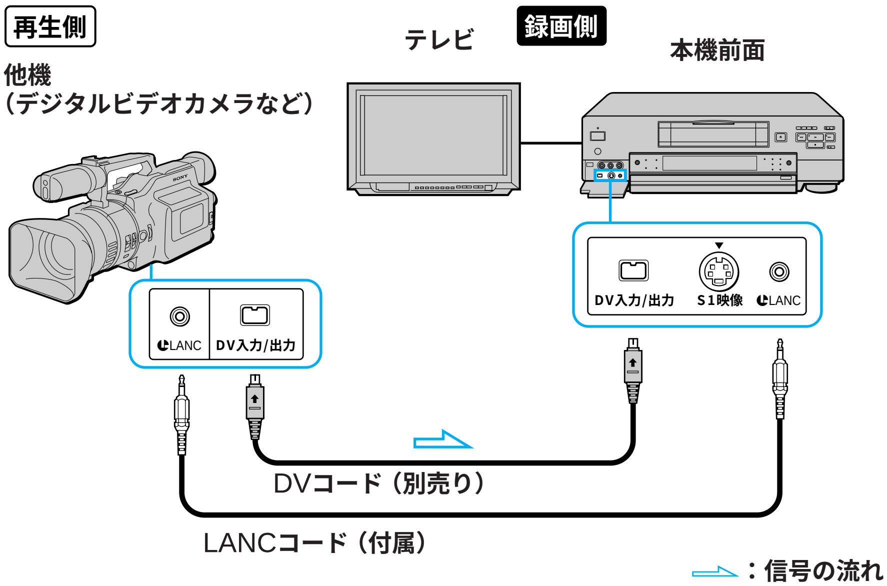
接続・準備する

ご注意
- 本体前面と後面のLANC端子を同時に接続すると、前面のみが動作します。
- 頭出し情報は伝送されません。またカセットメモリーの内容も伝送されません。
- DV端子でつないだときは、テープ上のデータコードをそのままコピーすることができます。ただしタイムコードはコピーできません。

他機にLANC端子がないときは、52ページをご覧ください。

DV端子のあるデジタルビデオとつなぐ

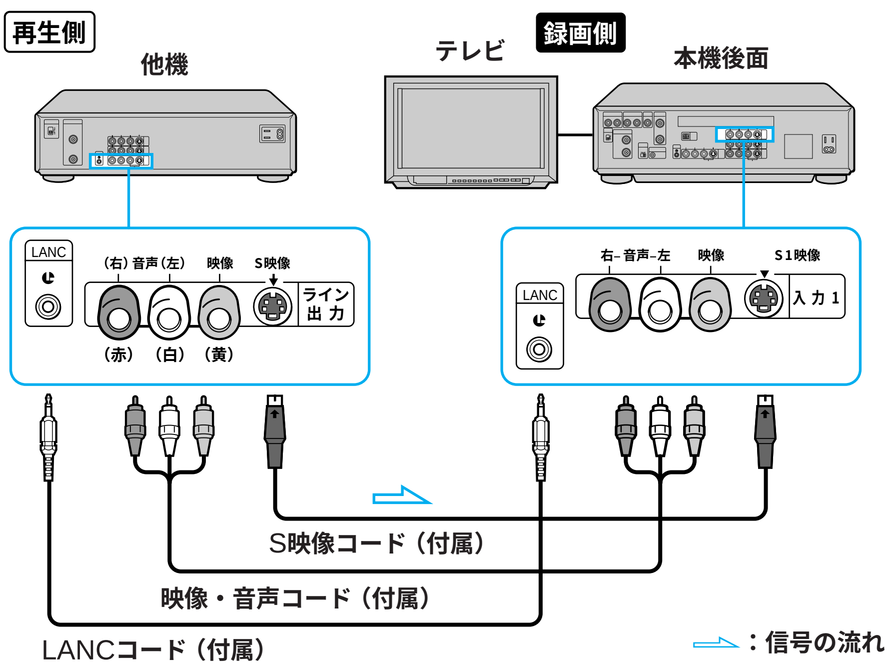
劣化のほとんどない編集が行えます。



ご注意
- 本機が録画機になる接続と再生機になる接続を同時にすると、入力切換によってはブーンという音が出たり画像が乱れることがあります。
- 映像端子とS1映像端子が同時に接続されているときは、S1映像端子からの映像が優先されます（本体表示窓に「S」が点灯します）。入力1端子で映像端子からの映像を使用したいときは、メニューの「各種設定2」で「映像入力1」を「映像」にしてください。
- 変速再生の映像やもともと乱れている映像は、録画されないことがあります。

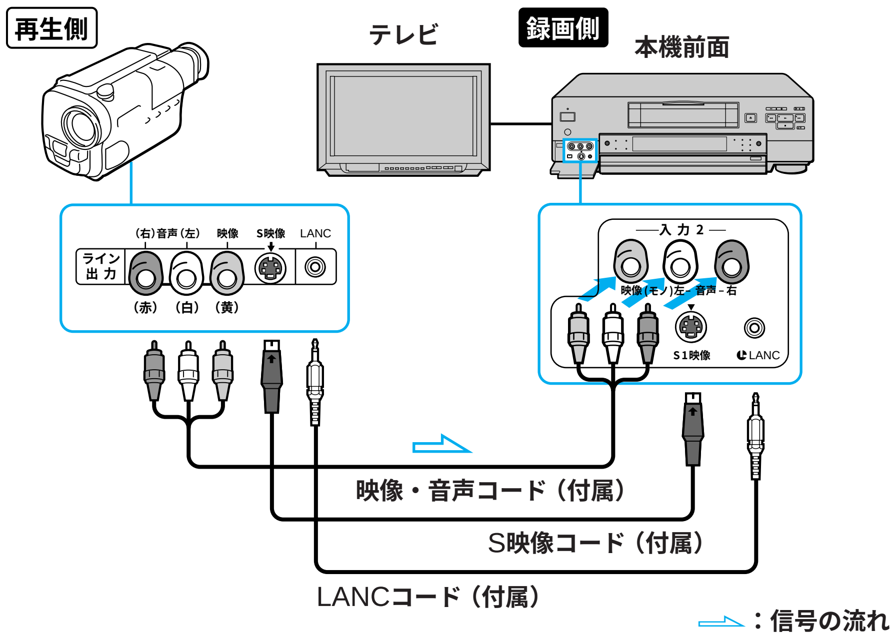
DV端子のないビデオデッキとつなぐ

ひんぱんにつなぎ変える必要がない場合は、後面の入力1端子につなぐと便利です。



DV端子のないビデオカメラとつなぐ

ビデオカメラなどをひんぱんにつなぎ変えるときは、前面の入力2端子につなぐと便利です。



準備する

再生側を準備する

- 再生用カセットを入れる。
- エディットスイッチがある場合は、「入」にする。
- LANCモードを「S」にする。
- 画面表示を消す。

録画側（本機）を準備する

- 録画用カセットを入れる。
- 入力切換ボタンで接続した入力端子に合わせる。
  DV端子→「DV入力」、入力1端子→「L1」、入力2端子→「L2」
- LANCモードを「M」にする。
  1 メニューボタンを押して、画面にメニューを出す。
  2 ↑/↓で「各種設定1」を選び、決定ボタンを押す。
  3 ↑/↓で「LANC」を選ぶ。
  4 ←/→で「M」を選ぶ。
  5 決定ボタンを押す。

💡

モノラルのビデオなどを入力2端子につなぐときは、音声の左端子（白色）につないでください。左端子からの音声が左右両チャンネルに記録されます。

ご注意

- 変速再生の映像やもともと乱れている映像は、録画されないことがあります。
- 映像端子とS1映像端子が同時に接続されているときは、S1映像端子が優先されます。（本体表示窓に「S」が点灯します。）入力2端子で映像端子からの映像を使用したいときは、本機側のS映像コードを抜いてください。

ご注意

- 著作権保護のための信号が記録されているテープを使用すると、機能に制限をうけることがあります。
- 編集するときは、必ずカセットの誤消去防止つまみを録画可能状態にしてください。
- エディットスイッチは、編集が終わったら「切」に戻してください。
- ビデオカメラのLANCモードは通常「S」に固定されています。
- スタンバイ中に CH+／– ボタンを押してチャンネルを切り換えるか、入力切換を行うと切換後の映像が録画されます。

次のページにつづく

接続・準備する（つづき）

💡
メニューの「スロー再生音出し」を「入」にすると、スロー再生時やコマ送り再生時に音声を聞くことができます（28ページ）。

ご注意

- DV端子に入力されたソースに対しては録音レベルつまみと録音バランスつまみは使えません。
  調整が必要なときは、S映像端子か映像・音声コードで接続してください。
- DV端子につないだときは、再生側の音声切換スイッチと音声ミックスバランスつまみはDV端子から出力される音声ソースに対しては使えません。

シャトルモードを設定する

LANC端子で接続した機器（他機）の逆方向スロー再生を操作するときに必要な設定です。工場出荷時には「B」に設定されています。これは他機に逆方向スロー再生があるときの設定です。他機に逆方向スロー再生がない場合や、「B」にしても逆方向スロー再生が操作できない機種の場合は、「A」に設定します。

1 メニューボタンを押して、画面にメニューを出す。
2 ↑/↓で「各種設定1」を選び、決定ボタンを押す。
3 ↑/↓で「シャトルモード」を選ぶ。
4 ←/→で「A」または「B」を選ぶ。
  A：他機に逆方向のスロー再生機能がついていないとき
  B：他機に逆方向のスロー再生機能がついているとき
5 決定ボタンを押す。

入力1／2端子につないだときは、音声記録モードを選ぶ

1 メニューボタンを押して、画面にメニューを出す。
2 ↑/↓で「各種設定2」を選び、決定ボタンを押す。
3 ↑/↓で「入力1／2の音声記録」を選ぶ。
4 ←/→で「16ビット」または「12ビット」を選ぶ。
  「16ビット」ではより高音質が得られ、「12ビット」ではアフレコができる。
  インサート編集を行うときは、通常録画側のテープの音声記録モードに合わせる。

入力1／2端子につないだときは、録音レベルとバランスを調節する

他機を再生し、録音レベルつまみ・録音バランスつまみで調節する。
録音レベルは、本体表示窓のピークレベルメーターが赤にならないように調節する（赤になると音がひずむことがある）。
バランスは好みに応じて調節する（通常は中央）。

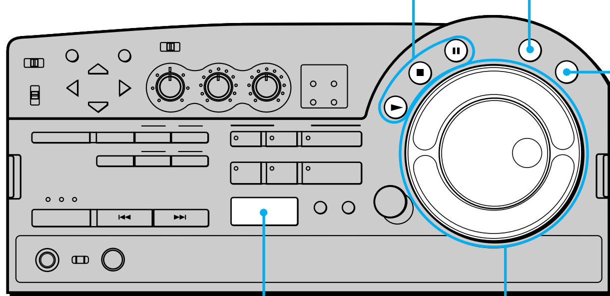
ご注意
他機をコントロールできないときは、両方のデッキのLANCモードとシャトルモードを確認してください。

他機のコントロールに使用するボタン

LANC端子を接続すると、本機の操作パネルで自機と同時に他機をコントロールしたり、他機を単独でコントロール (再生／停止／一時停止／早送り／巻き戻し) したりできます。

►（再生）／■（停止）／❚❚（一時停止）ボタン
自機／他機ボタンで選んだ側のテープを、再生／停止／一時停止します。

他機ボタン
他機を操作できる状態にします。下のイラストの白い部分の操作部が使えます。

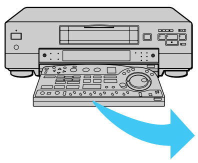


自機ボタン
自機を操作できる状態にします。

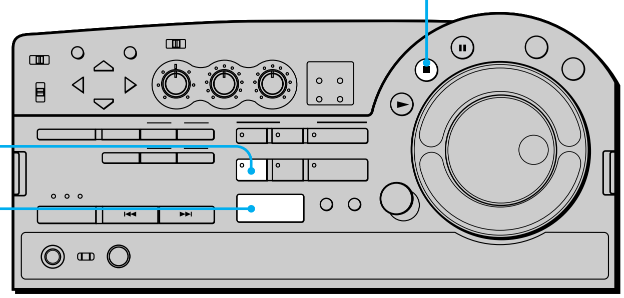
スタート／一時停止ボタン
自機と他機を、一時停止または録画／再生に切り換えます。

ジョグダイヤル／シャトルリング
自機／他機ボタンで選んだ側を変速再生します。手を離すと一時停止になります。

まるごとテープを録画する (ダビング)



両方のテープを自動的に最初まで巻き戻し、どちらかのテープが終わるまで、他機から本機にダビングします。テープの途中からダビングしたいときは、「好きな場面をつないで編集する」（次ページ）をご覧ください。
「接続・準備する」（38〜41ページ）をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。



ご注意
再生が始まってから数秒後に録画が始まるため、頭の部分が欠けることがあります。

1

ダビングボタンを押す。

ランプが点灯し、本機がダビングを開始できる状態になります。やめるときは、もう一度ダビングボタンを押します。

2

スタート／一時停止ボタンを押す。

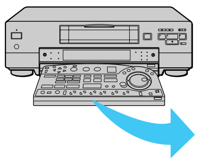
再生側と録画側のテープが自動的に最初まで巻き戻され、それぞれ再生と録画を始めます。
どちらかのテープが終わりまできたら、両方のテープが停止します。

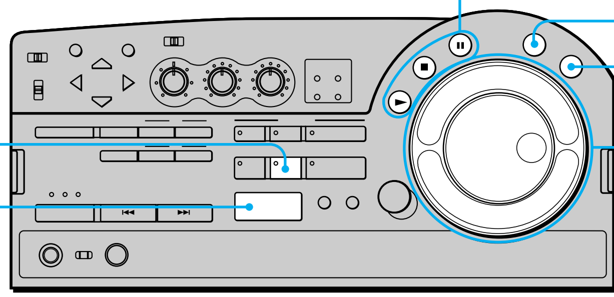
途中でやめるときは

■（停止）ボタンを押します。

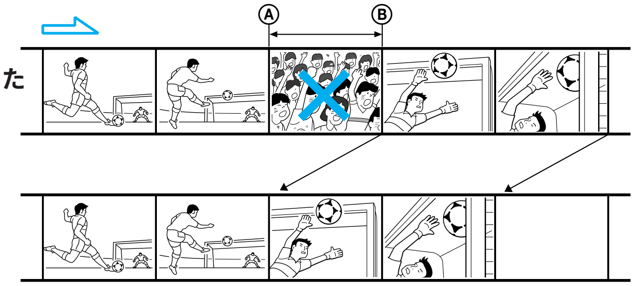
好きな場面をつないで編集する (カット編集)

テープの不要な場面を取り除き、順々につないで別のテープに録画し直します。テープの途中から編集を始めることもできます。
「接続・準備する」(38〜41ページ)をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。





ここでは、以下のようなカット編集を行う場合について説明します。



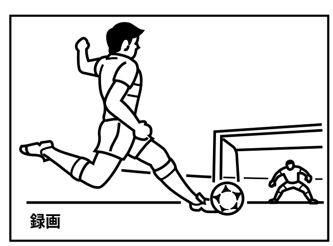
1 **再生側・録画側のテープを編集を始める場面まで早送り・巻き戻しして、再生一時停止にしておきます。**

2 **エディットスタンバイボタンを押す。**

本機が録画一時停止状態になり、他機が再生一時停止になります。

3 **スタート／一時停止ボタンを押す。**

再生と録画が同時に始まります。



次のページにつづく

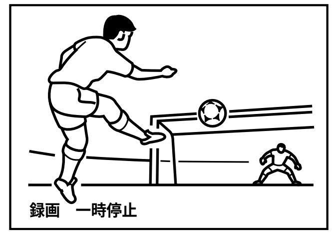
好きな場面をつないで編集する (カット編集) (つづき)

ご注意

- ■ (停止) ボタンを押して編集を停止した場合、停止ボタンを押した後しばらく再生側のテープの映像が録画されていることがあります。
- デジタルビデオカメラなどの他機を録画機にし、本機を再生機とする場合にはカット編集ができません。

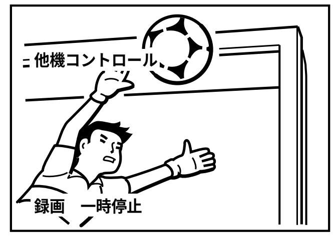
4 **不要な場面の直前 Ⓐ でスタート／一時停止ボタンを押す。**

本機が録画一時停止に、他機が再生一時停止になります。
Ⓐを行き過ぎたときは、ジョグ／シャトルなどを使って Ⓐが画面に出るまで巻き戻してください。



5 **録画を再開する場面 Ⓑ を探す。**

1 他機ボタンを押して再生する。
2 ジョグ／シャトルで、録画を再開する場面を探す。
3 他機を再生一時停止にする。



6 **スタート／一時停止ボタンを押す。**

再生と録画が同時に再開します。

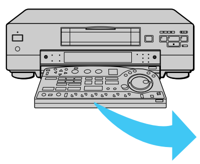
7 **手順4から6を繰り返す。**

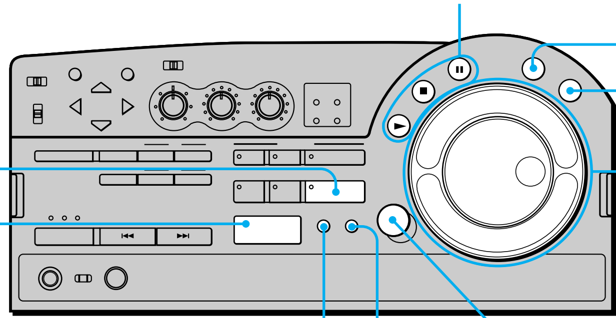
8 **編集が終わったら、スタート／一時停止ボタンを押して両方のデッキを一時停止してから、エディットスタンバイボタンを押す。**

本機と他機が停止します。

好きな場面だけを自動的に編集する（アッセンブル編集）

テープの必要な場面（ここではイベントと呼びます）を、希望の順序で自動的につなぎ録りします。
本機では10イベントを1度にアッセンブル編集できます。
再生機にはLANC端子のついた機器が必要です。「接続・準備する」（38～41ページ）をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。





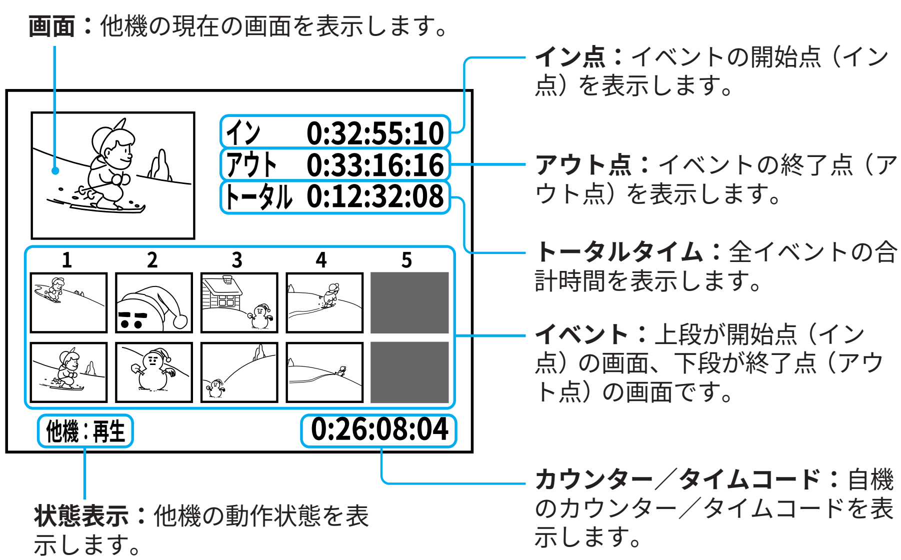
エディットウィンドウを使わずにアッセンブル編集を行いたいときは、メニューの「各種設定1」で「エディットウインドウ」を「切」にしてください。操作はエディットウィンドウを使用したときと同じです。

ご注意

- 他機（または自機）の画面表示に線が現れることがありますが、編集した結果には影響ありません。
- 設定したイベントの保存はできません。途中でアッセンブルボタンを押して終了したり電源を切ると、設定した内容は消去されます。

エディットウィンドウ（アッセンブル編集時の画面）の見かた

指定したイベントの開始点と終了点を画面上で確認できます。同時に5イベント、合計10画面まで表示します。



自機を選択している時は、画面の表示が右側になり、自機の現在の画面を表示します。イン点／アウト点／トータルタイムの表示は、左側にグレー色で表示されます。

好きな場面だけを自動的に編集する（アッセンブル編集）（つづき）

ご注意

- アッセンブル編集中に入力切換を行わないでください。編集が正しく行えないことがあります。
- 開始点と終了点の間が2秒以下のイベントを設定することはできません。
- 開始点のタイムコードが0:01:00:00以内の場合、編集精度が悪くなることがあります。この場合、カット編集でその部分の編集を行ってください。
- 他機のタイムコードが、早送りや巻き戻し中に-:--:--:--になる場合は、本機でアッセンブル編集できないことがあります。
- タイムコードのトータル表示は、ドロップフレームを含む場合、実際と異なります。
- 本機が再生中のときは、他機ボタンを使えません。
- 他機が停止しているときはマークボタンは押さないでください。アッセンブル編集が正しく行えません。
- 録画済みのテープに重ねて録画するときは、最後のイベントの終了点でつなぎ目が乱れることがあります。
- イベントの移動、消去、コピーはできません。

💡

- 録画一時停止状態では、テープ保護のため約5分で自動的に停止になります。
- 最後のイベントの終了点を指定せずに編集を開始すると、テープの最後まで録画を行います。

1 タイムコードを準備する。

本機：カウンター表示切換ボタンを押して、タイムコード表示にする。

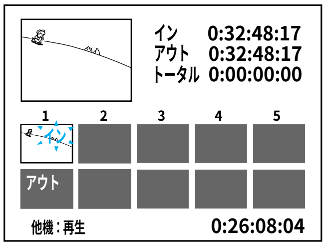
他機：タイムコード機能がある機種の場合で、タイムコードが記録されているテープを使うときは、タイムコード表示にする。それ以外のときは、テープカウンター表示にする。

2 アッセンブルボタンを押す。

ランプが点灯します。

3 イベントの開始点（イン点）を探す。

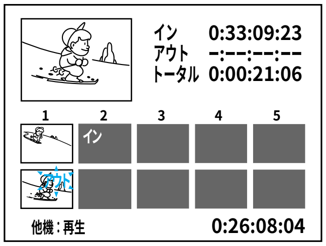
1 他機ボタンを押して再生する。
2 ジョグ／シャトルを使って開始点を探す。
3 マークボタンを押す。
開始点が記憶されます。



4 イベントの終了点（アウト点）を探す。

1 ジョグ／シャトルを使って終了点を探す。
2 マークボタンを押す。
終了点が記憶され、トータルタイムが表示されます。

数秒後に「イン」が点滅し、次のイベントが設定できるようになります。



5 手順3～4を繰り返して、イベントを設定する。

最大10イベントまで設定できます。

記憶させたイベントを確認するには

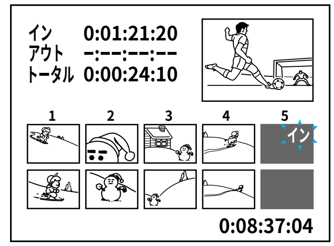
他機を停止し、戻しボタンを押します。
記憶させた編集点を確認できます。

記憶させたイベントを変更するには

1 送りボタンまたは戻しボタンを押して変更するイベントの開始点または終了点を選ぶ。
2 手順3、4にしたがってイベントの設定をやり直す。

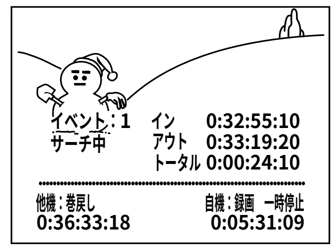
6 本機で録画開始点を探す。

1 自機ボタンを押す。
2 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルを使って録画開始点を探す。
3 スタート／一時停止ボタンを押して録画一時停止にする。



7 スタート／一時停止ボタンを押す。

エディットウィンドウが消え、アッセンブル編集が始まります。
アッセンブル編集が終わると、本機は録画一時停止になり、エディットウィンドウがもう一度表示されます。



続けて他のイベントをアッセンブル編集するには

1 アッセンブルボタンを押す。
アッセンブル編集が終了し、記憶されている開始点、終了点が消去されます。
2 手順2から7を繰り返す。

アッセンブル編集を実行途中で止めるには

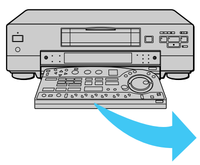
アッセンブル編集実行中に、スタート／一時停止ボタンを押します。
本機が録画一時停止になり、イベントの確認や録画開始点の変更ができます。再びスタート／一時停止ボタンを押すと、1イベント目から再び編集を実行します。

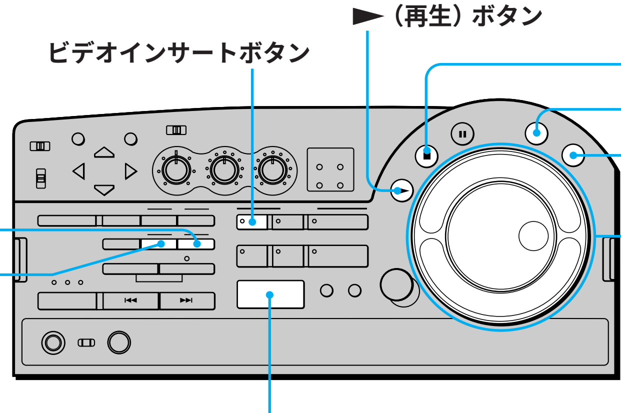
アッセンブル編集を終了するには

アッセンブルボタンを押します。
設定したイベントは消去されます。

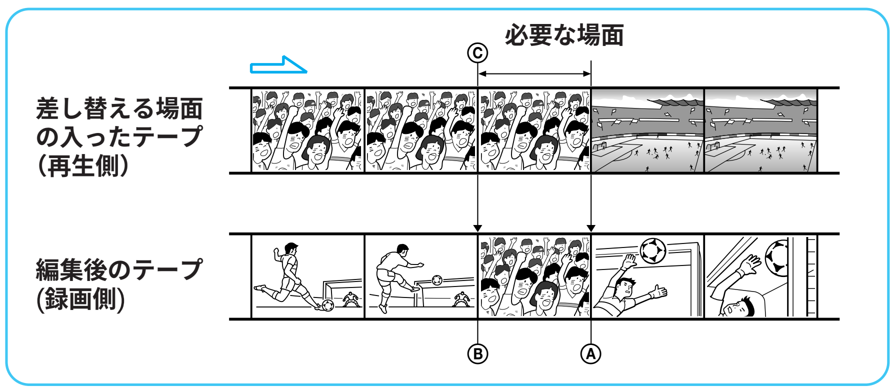
映像を差し替える（ビデオインサート）

録画済みDVテープの映像を他のテープの映像に差し替えます。前にあった映像は消去され、音声はそのまま残ります。「接続・準備する」（38〜41ページ）をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。
インサート編集は本機で録画されたテープを使用してください。
他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにインサート編集を行ってください。他のビデオで録画したテープにインサート編集を行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。





ここでは以下のようなビデオインサートを行う場合について説明します。

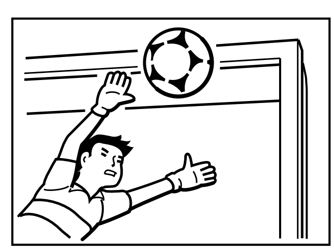


ご注意
- インサート編集実行中にテープカウンターを他の表示に切り換えないでください。インサート編集が正しく終わらないことがあります。
- テープの無記録部分にインサート編集は行えません。編集実行中に無記録部分があると、本機は編集を中止します。

1 カウンター切換ボタンを繰り返し押して、テープカウンターを表示させる（17ページ）。

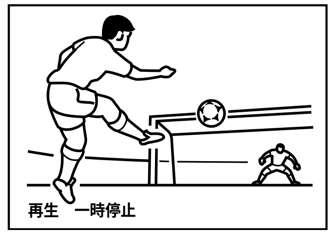
2 録画側のテープで、差し替える場面の終了点 Ⓐ を探す。

1 自機ボタンを押す。
2 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルなどを使って探す。
3 終了点 A になったら、カウンターリセットボタンを押す。



3 差し替える場面の開始点 Ⓑ まで巻き戻す。

ジョグ／シャトルを左に回して、開始点 B になったら、再生一時停止にします。



4 ビデオインサートボタンを押す。

ランプが点灯します。

5 再生側のテープで、差し替える場面の開始点 Ⓒ を探す。

1 他機ボタンを押す。

2 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルなどを使って探す。

3 開始点 Ⓒ になったら、再生一時停止にする。
エディットスタンバイランプが点灯します。



6 スタート／一時停止ボタンを押す。

ビデオインサートが始まります。
テープカウンターが0H00M00Sになったら、自動的に本機の録画が終了します（他機は再生のままです）。
他機を止めるには、他機ボタンを押してから■（停止）ボタンを押します。



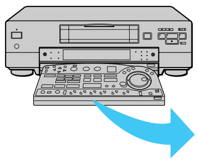
ビデオインサートを手動で止めるには、スタート／一時停止ボタンを押してからエディットスタンバイボタンを押します。

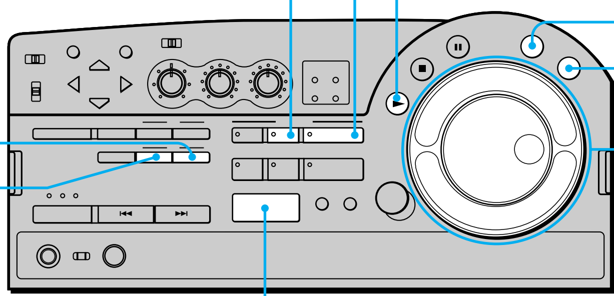
💡
- 手順4でステレオ1インサート、ステレオ2インサートボタンを押すと、音声も同時にインサート編集できます。
- ビデオ・オン・サウンド編集をするときは、以下のようにします。
  1 録画と同じ操作で、音声を先に記録する。
  2 音声に合わせて映像をインサート編集する。

💡
- カウンターが0H00M00Sになったときに、本機を停止させたくないときは、手順1でタイムコードを表示させます。
- テープカウンターは秒単位（00S）までの表示ですが、手順2で設定した終了点はタイムコード（フレーム単位）と同等の精度を持っています。

音声を差し替える（オーディオインサート）

録画済みDVテープの音声を他のテープの音声に差し替えます。前にあった音声は消去されます。「接続・準備する」（38〜41ページ）をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。
インサート編集は本機で録画されたテープを使用してください。
他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにインサート編集を行ってください。他のビデオで録画したテープにインサート編集を行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。





1 カウンター切換ボタンを繰り返し押して、テープカウンターを表示させる（17ページ）。

2 録画側のテープで、差し替える場面の終了点を探す。

1 自機ボタンを押す。
2 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルなどを使って探す。
3 終了点になったら、カウンターリセットボタンを押す。

3 差し替える場面の開始点まで巻き戻す。

ジョグ／シャトルを左に回して、開始点になったら、再生一時停止にする。

4 ステレオ1インサートまたはステレオ2インサートボタンを押して、差し替える音声トラックを選ぶ。

DV端子でつないだとき
ステレオ1インサートボタンとステレオ2インサートボタンを同時に押す。DV端子でつないだときは、「ステレオ1のみ」または「ステレオ2のみ」を選ぶことはできません。

入力1/2端子でつないだとき
16ビットモードのとき：ステレオ1インサートボタンとステレオ2インサートボタンを同時に押す。
12ビットモードのステレオ1を差し替えたいとき：ステレオ1インサートボタンを押す。
12ビットモードのステレオ2を差し替えたいとき：ステレオ2インサートボタンを押す。

ご注意
- インサート編集実行中にテープカウンターを他の表示に切り換えないでください。インサート編集が正しく終わらないことがあります。
- テープの無記録部分にインサート編集は行えません。編集実行中に無記録部分があると、本機は編集を中止します。
- ステレオ1インサートまたはステレオ2インサートボタンを押してから数秒後(最長7秒) に、再生側のテープの音に切り換わります。音が切り換わってからオーディオインサートを始めてください。

手順4でビデオインサートボタンを押すと、映像も同時にインサート編集できます。

5 差し替える音の開始点を探す。

1 他機ボタンを押す。

2 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルなどを使って探す。

3 新しく挿入する部分の始めになったら、一時停止にする。

6 スタート／一時停止ボタンを押す。

オーディオインサートが始まります。
テープカウンターが0H00M00Sになったら、自動的に本機の録画が終了します。（他機は再生のままです。）

- カウンターが0H00M00Sになったときに、本機を停止させたくないときは、手順1でタイムコードを表示させます。
- テープカウンターは秒単位（00S）までの表示ですが、手順2で設定した終了点はタイムコード（フレーム単位）と同等の精度を持っています。

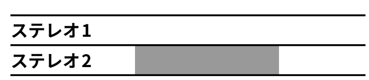
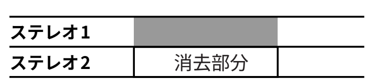
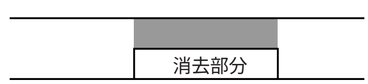
音声記録モードとインサート編集の結果

DV端子でつないだとき

再生側のテープと同じ音声記録モードで記録されます。(メニューの「入力1／2の音声入力」の設定とは無関係です。) DV接続のときは、必ずステレオ1インサートボタンとステレオ2インサートボタンを同時に押します。

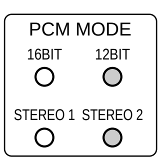
入力1/2端子でつないだとき

メニューの「入力1／2の音声入力」の設定によって音声記録モードが決まります。通常は、録画側のテープと同じモードを選びます。12ビットモードでは、差し替える音声を選びます。

録画側テープの音声記録モード	メニューの設定	押したインサートボタン	編集の結果（■：差し替えられた音声）
12ビット	12ビット	ステレオ1	 ステレオ1 ステレオ2
		ステレオ2	 ステレオ1 ステレオ2
		ステレオ1とステレオ2	 ステレオ1 ステレオ2 消去部分
	16ビット	ステレオ1とステレオ2*	 ステレオ1 ステレオ2
16ビット	12ビット	ステレオ1とステレオ2*	 消去部分
	16ビット	ステレオ1とステレオ2*	

*ステレオ1またはステレオ2ボタンだけを押しても、インサート編集はできません。

- 記録中は、音声記録モードと記録されているトラックを示すランプが点灯します。たとえば、音声記録モードが12ビットモードで、ステレオ2のトラックに記録されているときには、下の図のようにランプが点灯します。



- 再生機によっては、ステレオ1トラックとステレオ2トラックをミックス再生したときステレオ2トラックの音声の有無でステレオ1トラックの音量が変わります。

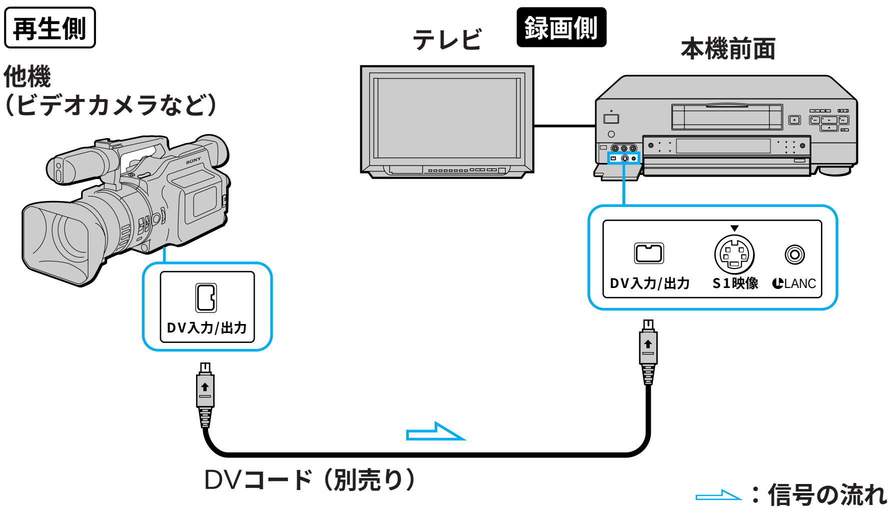
接続・準備する

他機にLANC端子があるときは、38ページをご覧ください。

ご注意
- 頭出し情報は伝送されません。またカセットメモリーの内容も伝送されません。
- DV端子でつないだときは、テープ上のデータコードをそのままコピーすることができます。ただし、タイムコードはコピーできません。

DV端子のあるデジタルビデオとつなぐ

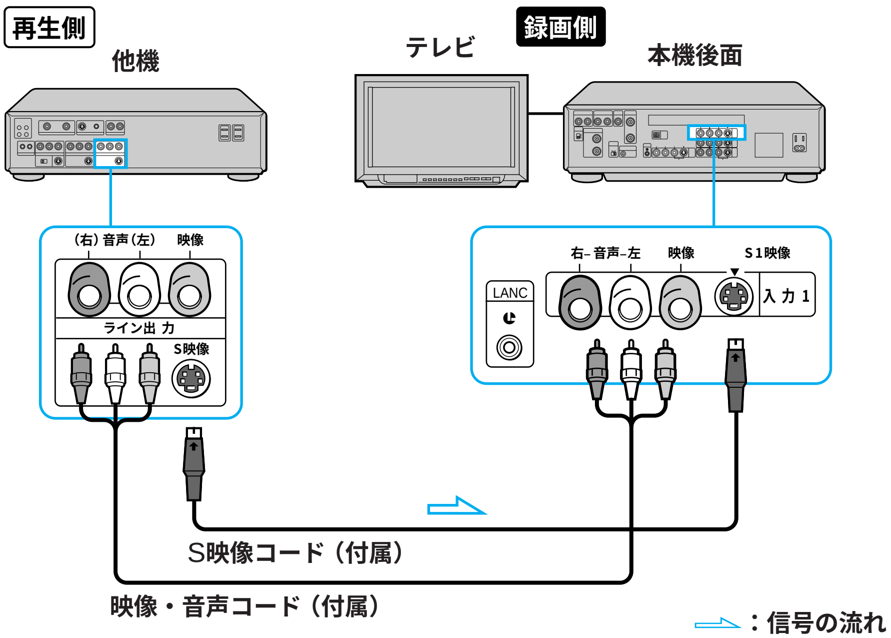
劣化のほとんどない編集が行えます。



ご注意
- 本機が録画機になる接続と再生機になる接続を同時にすると、入力切換によってはブーンという音が出たり画像が乱れることがあります。
- 映像端子とS1映像端子が同時に接続されているときは、S1映像端子からの映像が優先されます（本体表示窓に「S」が点灯します）。入力1端子で映像端子からの映像を使用したいときは、メニューの「各種設定2」で「映像入力1」を「映像」にしてください。
- 変速再生の映像やもともと乱れている映像は、録画されないことがあります。

DV端子のないビデオデッキとつなぐ

ひんぱんにつなぎ変える必要がない場合は、後面の入力1端子につなぐと便利です。



モノラルのビデオなどを入力2端子につなぐときは、音声の左端子（白色）につないでください。左端子からの音声が左右両チャンネルに記録されます。

ご注意

- 変速再生の映像やもともと乱れている映像は、録画されないことがあります。
- 映像端子とS1映像端子が同時に接続されているときは、S1映像端子が優先されます。（本体表示窓に「S」が点灯します。）入力2端子で映像端子からの映像を使用したいときは、本機側のS映像コードを抜いてください。

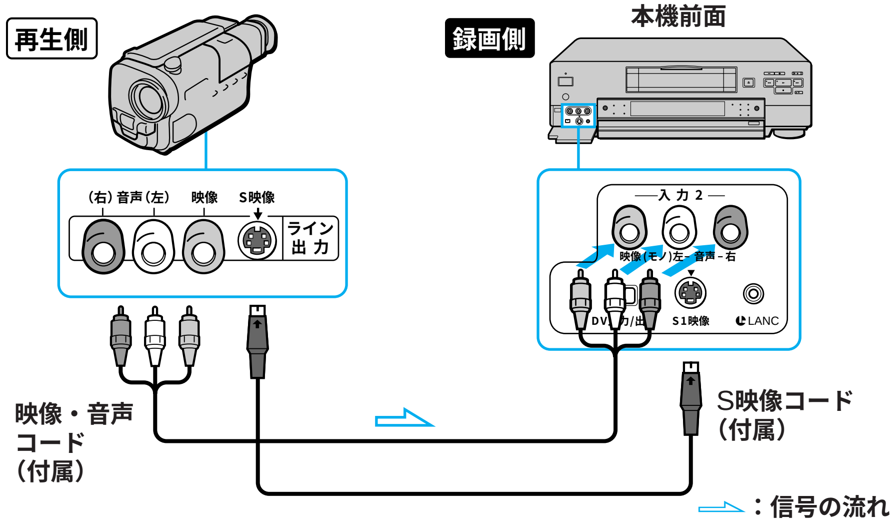
- 編集するときは、必ずカセットの誤消去防止用つまみを録画可能状態にしてください。
- 著作権保護のための信号が記録されているテープを使用すると、機能に制限をうけることがあります。
- エディットスイッチは、編集が終わったら「切」に戻してください。

ご注意

- DV端子に入力されたソースに対しては録音レベルつまみと録音バランスつまみは使えません。
- DV端子につないだときは、再生側の音声切換スイッチと音声ミックスバランスつまみはDV端子から出力される音声ソースに対しては使えません。

DV端子のないビデオカメラとつなぐ

ビデオカメラなど、ひんぱんにつなぎ変えるときは、入力2端子につなぐと便利です。



準備する

再生側を準備する

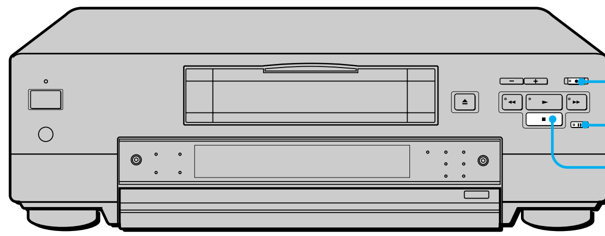
- 再生用カセットを入れる。
- エディットスイッチがある場合は、「入」にする。
- 画面表示を消す。

録画側（本機）を準備する

- 録画用カセットを入れる。
- 入力切換ボタンで接続した入力端子に合わせる。
  DV端子→「DV入力」、入力1端子→「L1」、入力2端子→「L2」
- 入力1／2端子につないだときは、音声記録モードを選ぶ。
  1. メニューボタンを押して、画面にメニューを出す。
  2. ↑/↓で「各種設定2」を選び、決定ボタンを押す。
  3. ↑/↓で「入力1／2の音声記録」を選ぶ。
  4. ←/→で「16ビット」または「12ビット」を選ぶ。
     「16ビット」ではより高音質が得られ、「12ビット」ではアフレコが可能。インサート編集を行うときは、通常録画側のテープの音声記録モードに合わせる。
- 入力1／2端子につないだときは、録音レベルとバランスを調節する。
  他機を再生し、録音レベルつまみ・録音バランスつまみで調節する。
  録音レベルは、本体表示窓のピークレベルメーターが赤にならないように調節する（赤になると音がひずむことがある）。
  バランスは好みに応じて調節する（通常はまん中）。

まるごとテープを録画する (ダビング)

テープの内容を、加工せずに別のテープに録画し直します。「接続・準備する」(52〜53ページ) をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行ってください。



💡
他機は録画したい場面の数秒手前で再生一時停止にするとうまく編集できます。

ご注意
再生を始めてすぐに録画を始めると開始直後の画像や音声が乱れて録画されることがあります。

1 **ダビングを開始する場面まで再生側、録画側のテープを早送り、巻き戻しする。**

2 **本機の一時停止 ❚❚ ボタンを押しながら録画●ボタンを押して、録画一時停止にする。**

3 **他機を再生一時停止にする。**

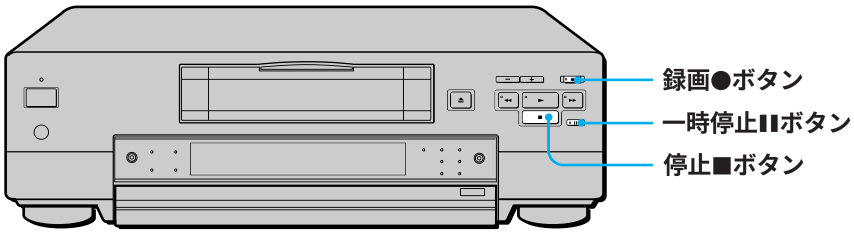
4 **他機の一時停止を解除して再生を始めてから本機の一時停止 ❚❚ ボタンを押して録画を始める。**

ダビングをやめるときは

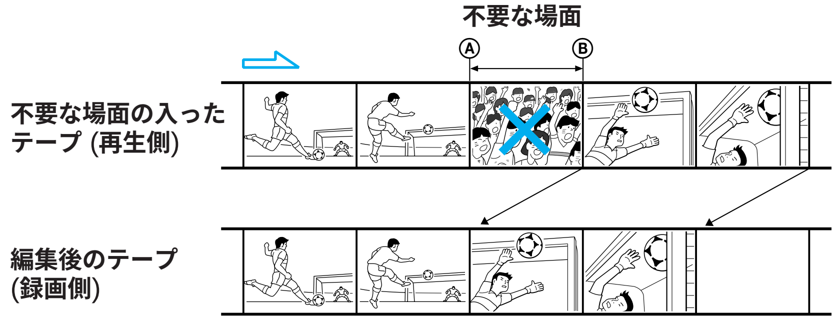
本機と他機の停止ボタンを押します。

好きな場面をつないで編集する (カット編集)

テープの不要な場面を取り除き、順々につないで別のテープに録画し直します。「接続・準備する」(50〜53ページ) をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行ってください。



ここでは、以下のようなカット編集を行う場合について説明します。



1 **本機で、録画を始めたい場所を探し、再生一時停止にする。**

2 **本機の録画●ボタンを押して、録画一時停止にする。**

3 **他機で再生を始めたい場所を探し、再生一時停止にする。**

4 **他機の一時停止を解除して再生を始めてから本機の一時停止 ❚❚ ボタンを押して録画を始める。**

5 **不要な場面の直前 Ⓐ で本機の一時停止❚❚ボタンを押す。**
本機が録画一時停止になります。

6 **他機で録画を再開する場面 Ⓑ を探す。**
録画を再開する場面 Ⓑ になったら他機を再生一時停止にします。

7 **他機の一時停止を解除して再生を始めてから本機の一時停止 ❚❚ ボタンを押して録画を始める。**

8 **手順5から7を繰り返す。**

カット編集が終わったら本機と他機の停止ボタンを押します。

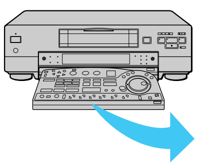
他機は録画したい場面の数秒手前で再生一時停止にするとうまく編集できます。

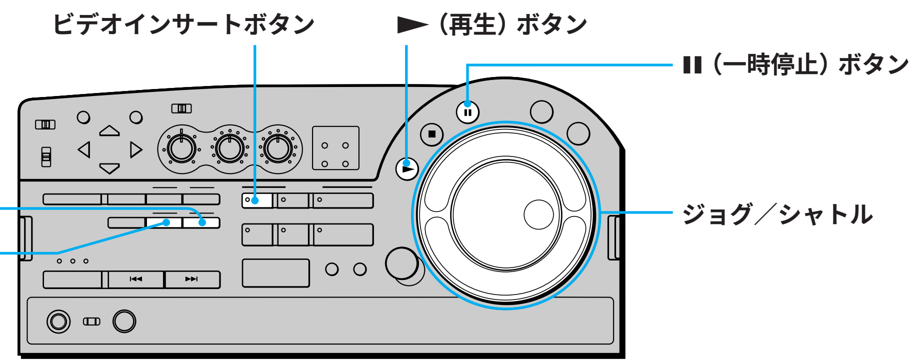
ご注意
再生を始めてすぐに録画を始めると開始直後の画像や音声が乱れて録画されることがあります。

編集

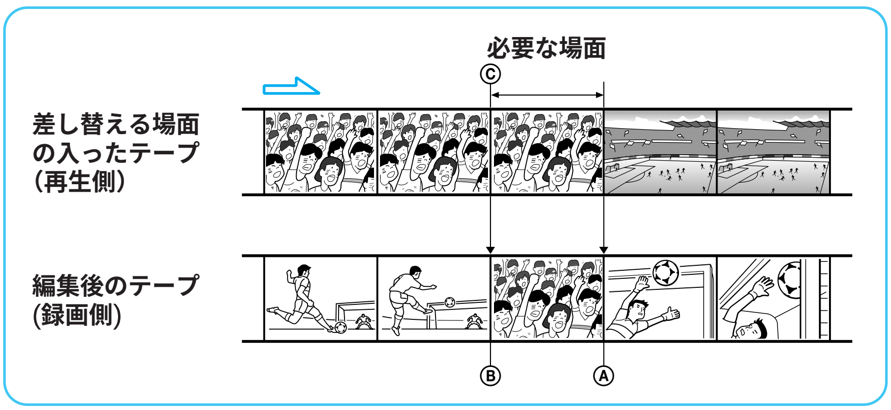
映像を差し替える（ビデオインサート）

録画済みDVテープの映像を他のテープの映像に差し替えます。前にあった映像は消去され、音声はそのまま残ります。
「接続・準備する」（52〜53ページ）をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。
インサート編集は本機で録画されたテープを使用してください。
他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにインサート編集を行ってください。他のビデオで録画したテープにインサート編集を行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。





ここでは、以下のようなビデオインサートを行う場合について説明します。

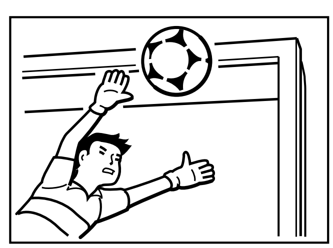


ご注意
- インサート編集実行中にテープカウンターを他の表示に切り換えないでください。インサート編集が正しく終わらないことがあります。
- テープの無記録部分にはインサート編集は行えません。編集実行中に無記録部分があると、本機は編集を中止します。

1 カウンター切換ボタンを繰り返し押して、テープカウンターを表示させる（17ページ）。

2 録画側のテープで、差し替える場面の終了点 Ⓐを探す。

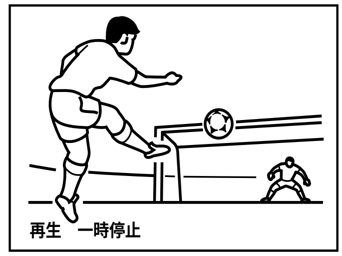
1 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルなどを使って探す。
2 終了点 A になったら、カウンターリセットボタンを押す。



- ビデオ・オン・サウンド編集をするときは、以下のようにします。
  1 録画と同じ操作で、音声を先に記録する。
  2 記録した音声に合わせて映像をインサート編集する。
- 手順4でステレオ1インサート、ステレオ2インサートボタンを押すと、音声も同時にインサート編集できます。

3 **差し替える場面の開始点 Ⓑ まで巻き戻す。**

ジャグ／シャトルを左に回して、開始点 Ⓑ になったら、再生一時停止にします。



4 **ビデオインサートボタンを押す。**

ランプが点灯します。

5 **再生側のテープで、差し替える場面の開始点 ⓒ を探す。**

開始点 ⓒ になったら、他機を再生一時停止にします。
開始点 ⓒ の数秒前に再生一時停止するとうまく編集できます。



- カウンターが0H00M00Sになったときに、本機を停止させたくないときは、手順１でタイムコードを表示させます。
- テープカウンターは秒単位（00S）までの表示ですが、手順2で設定した終了点はタイムコード（フレーム単位）と同等の精度を持っています。

6 **他機の一時停止を解除して再生を始めてから本機の一時停止 II ボタンを押して録画を始める。**

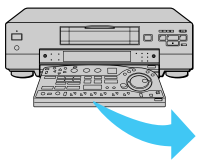
ビデオインサートが始まります。
テープカウンターが0H00M00Sになったら、自動的に本機の録画が止まります。

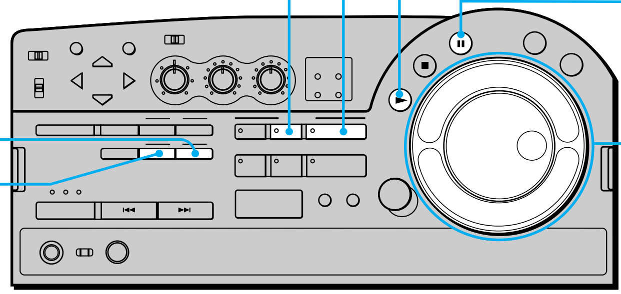


7 **他機の停止ボタンを押す。**

音声を差し替える（オーディオインサート）

録画済みDVテープの音声に他のテープの音声を差し替えます。前にあった音声は消去されます。「接続・準備する」（52〜53ページ）をご覧になり、お手持ちのビデオに合わせた接続と準備を行っておいてください。
インサート編集は本機で録画されたテープを使用してください。
他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにインサート編集を行ってください。他のビデオで録画したテープにインサート編集を行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。





ご注意
ステレオ1インサートまたはステレオ2インサートボタンを押してから数秒後（最長7秒）に、再生側のテープの音に切り換わります。音が切り換わるまでは、録画を始めることはできません。

手順4でビデオインサートボタンを押すと、映像も同時にインサート編集できます。

1 カウンター切換ボタンを繰り返し押して、テープカウンターを表示させる（17ページ）。

2 録画側のテープで差し替える場面の終了点を探す。

1 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルなどを使って探す。
2 終了点になったら、カウンターリセットボタンを押す。

3 差し替える場面の開始点まで巻き戻す。

ジャグ／シャトルを左に回して、開始点になったら、手を離す。

4 ステレオ1インサートまたはステレオ2インサートボタンを押して、差し替える音声トラックを選ぶ。

DV端子でつないだとき
ステレオ1インサートボタンとステレオ2インサートボタンを同時に押す。DV端子でつないだときは、「ステレオ1のみ」または「ステレオ2のみ」を選ぶことはできません。

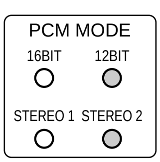
入力1/2端子でつないだとき
16ビットモードのとき：ステレオ1インサートボタンとステレオ2インサートボタンを同時に押す。
12ビットモードのステレオ1を差し替えたいとき：ステレオ1インサートボタンを押す。
12ビットモードのステレオ2を差し替えたいとき：ステレオ2インサートボタンを押す。

ご注意

- インサート編集実行中にテープカウンターを他の表示に切り換えないでください。インサート編集が正しく終わらないことがあります。
- テープの無記録部分にインサート編集は行えません。編集実行中に無記録部分があると、本機は編集を中止します。

- カウンターが0H00M00Sになったときに、本機を停止させたくないときは、手順１でタイムコードを表示させます。
- テープカウンターは秒単位（00S）までの表示ですが、手順2で設定した終了点はタイムコード（フレーム単位）と同等の精度を持っています。

- 記録中は、音声記録モードと記録されているトラックを示すランプが点灯します。たとえば、音声記録モードが12ビットモードで、ステレオ2のトラックに記録されているときには、下の図のようにランプが点灯します。



- 再生機によっては、ステレオ1トラックとステレオ2トラックをミックス再生したときステレオ2トラックの音声の有無でステレオ1トラックの音量が変わります。

5 **他機を再生し、差し替える音の直前で再生一時停止にする。**

6 **他機の一時停止を解除して再生を始めてから本機の一時停止 ❚❚ ボタンを押してインサート編集を始める。**

オーディオインサートが始まります。
テープカウンターが0H00M00Sになったら、自動的に本機のインサート編集が止まります。

7 **他機の停止ボタンを押す。**

音声記録モードとインサート編集の結果

DV端子でつないだとき

再生側のテープと同じ音声記録モードで記録されます。(メニューの「入力1／2の音声入力」の設定とは無関係です。) DV接続のときは、必ずステレオ1インサートボタンとステレオ2インサートボタンを同時に押します。

入力1/2端子でつないだ時

メニューの「入力1／2の音声入力」の設定によって音声記録モードが決まります。通常は、録画側のテープと同じモードを選びます。12ビットモードでは、差し替える音声を選びます。

録画側テープの音声記録モード	メニューの設定	押したインサートボタン	編集の結果（■：差し替えられた音声）
12ビット	12ビット	ステレオ1	ステレオ1（差し替え） ステレオ2
		ステレオ2	ステレオ1 ステレオ2（差し替え）
		ステレオ1とステレオ2	ステレオ1（差し替え） ステレオ2（消去部分）
	16ビット	ステレオ1とステレオ2*	ステレオ1（差し替え） ステレオ2（差し替え）
16ビット	12ビット	ステレオ1とステレオ2*	（差し替え） 消去部分
	16ビット	ステレオ1とステレオ2*	（差し替え）

*ステレオ1またはステレオ2ボタンだけを押しても、インサート編集はできません。

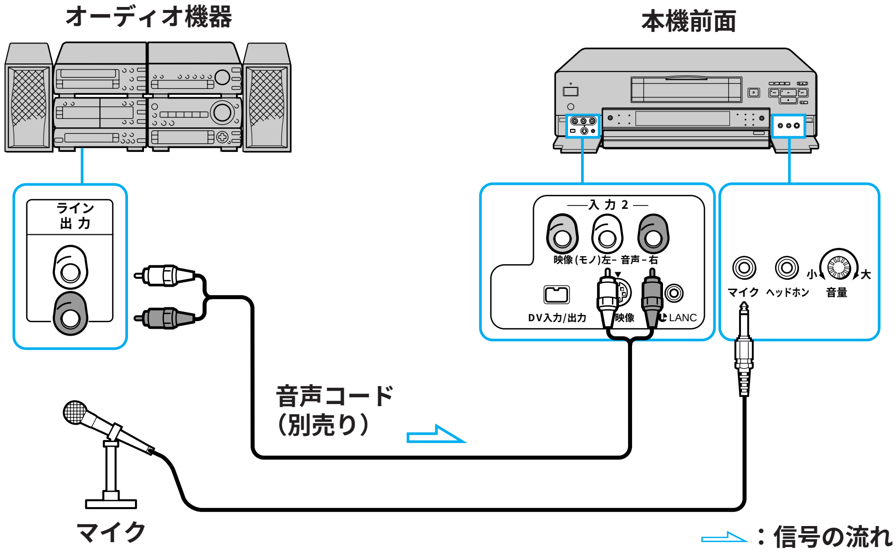
アフレコする

ご注意
- 16ビットで記録されたテープには、アフレコできません。
- 入力1端子とマイク端子を同時につなぐと、入力1端子の音声が優先されて記録されます。入力2端子とマイク端子に同時につなぐと、両方の音声がミックスされて記録されます。マイクを使わないときは、マイクをはずしてください。
- マイクからの音声はモノラルで録音されます。
- DV入力端子を使ってアフレコはできません。

本機では12ビットモードで記録された録画済みテープに、後から音楽やナレーションなどの音声を追加できます。これをアフレコといいます。アフレコする音声は、テープのステレオ2に記録されます。ステレオ1の音声はそのまま残ります。
アフレコは本機で録画されたテープに対してのみ可能です。
他のビデオ（他のDHR-1000を含む）で録画したテープは、事前に本機でダビングし、ダビングしたテープにアフレコを行ってください。他のビデオで録画したテープにアフレコを行うと、音が劣化したり画像が乱れたりすることがあります。

接続する

オーディオ機器またはマイクをつないで録音します。

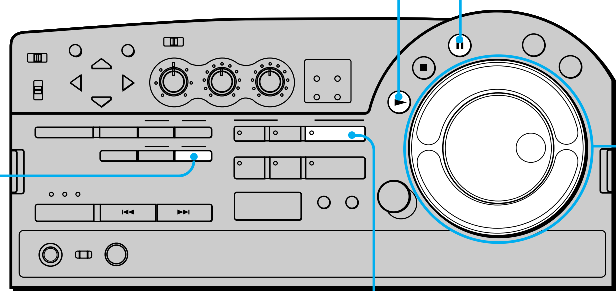


ご注意
- 再生機によっては、ステレオ1トラックとステレオ2トラックをミックス再生したときステレオ2トラックの音声の有無でステレオ1トラックの音量が変わります。
- 一時停止や変速再生の画像・音声をDV端子経由で記録した部分にアフレコした時、一時停止や変速再生を記録した部分の音声は、ミックス再生してもステレオ2の音も聞こえません。

準備する

- 本機に録画済み（アフレコ用）カセットを入れる。
- 本機の入力切換ボタンを繰り返し押して、「L1」（入力1）または「L2」（入力2）を選ぶ。
- 音声記録モードを12ビットにする。
  1. メニューボタンを押して、画面にメニューを出す。
  2. ↑/↓で「各種設定2」を選び、決定ボタンを押す。
  3. ↑/↓で「入力1／2の音声記録」を選ぶ。
  4. ←/→で「12ビット」を選ぶ。
- 録音レベルとバランスを調節する。
  オーディオ機器を再生したりマイクに向かって発声したりして、録音レベルつまみ・録音バランスつまみで調節する。
  録音レベルは、本体表示窓のピークレベルメーターが赤にならないように調節する（赤になると音がひずむことがある）。

操作



ご注意

アフレコ実行中にテープカウンターを他の表示に切り換えないでください。アフレコが正しく終わらないことがあります。

- 音声をフェードインするときは、録音を始めてから、録音レベルつまみを「0」の位置から徐々に右に回します。
- 音声をフェードアウトするときは、録音レベルつまみを徐々に左に「0」の位置まで回します。アフレコが終わったら、元に戻します。
- カウンターが0H00M00Sになったときに、本機を停止させたくないときは、手順1でタイムコードを表示させます。
- テープカウンターは秒単位（00S）までの表示ですが、手順2で設定した終了点はタイムコード（フレーム単位）と同等の精度を持っています。

1 カウンター切換ボタンを繰り返し押して、テープカウンターを表示させる（17ページ）。

2 本機でアフレコの終了点を決める。

1 ►（再生）ボタンを押してテープを再生し、ジョグ／シャトルを使って探す。

2 アフレコする部分の終わりになったら、カウンターリセットボタンを押す。

3 II (一時停止) ボタン押す。

3 アフレコの開始点を決める。

ジョグ／シャトルを左に回し、開始点になったら、手を離す。

4 アフレコ (ステレオ2) ボタンを押す。

5 本機の II (一時停止) ボタンを押すと同時に、オーディオ機器またはマイクで追加する音声を出す。

画像を再生しながら、ステレオ2に音声を記録します。このときステレオ1の音声は聞こえません。

テープカウンターが0H00M00Sになると、自動的に本機の録音が止まります。

6 オーディオ機器の停止ボタンを押す。

アフレコした音声を聞くには

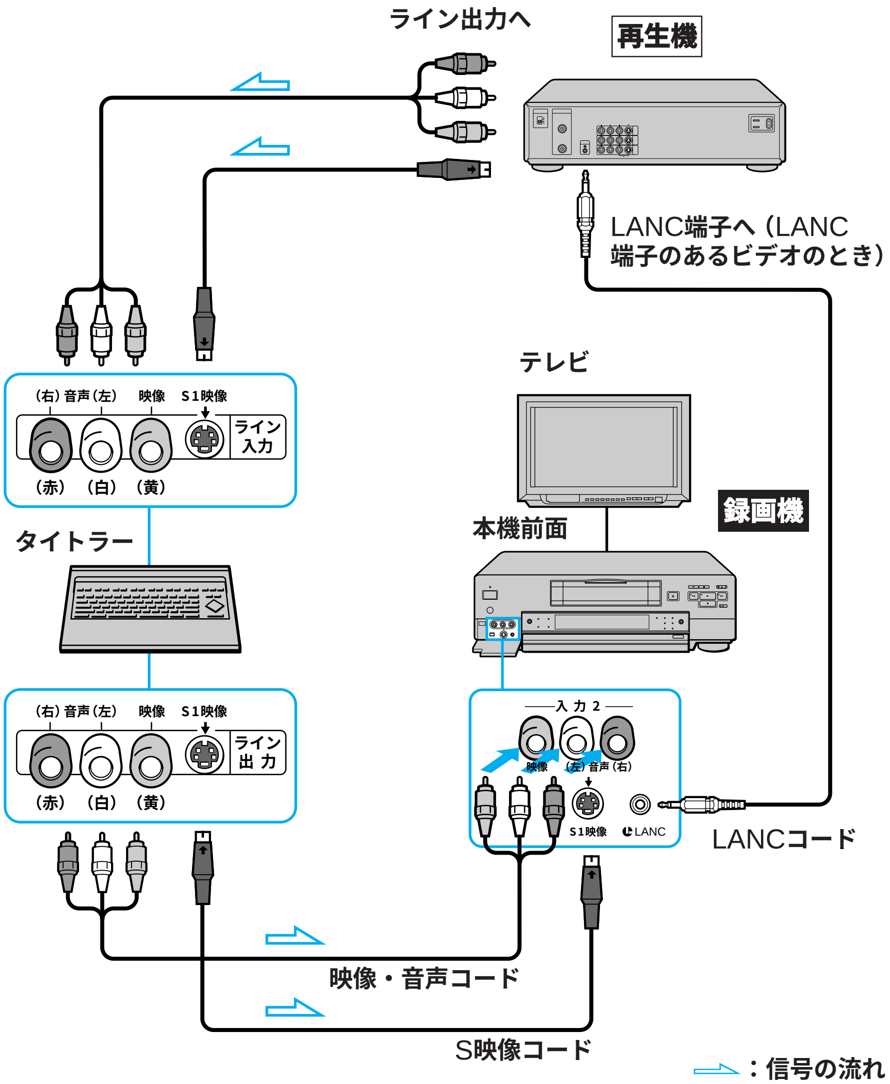
15ページをご覧ください。

編集

タイトラーや編集コントローラーを使う

接続する各機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。

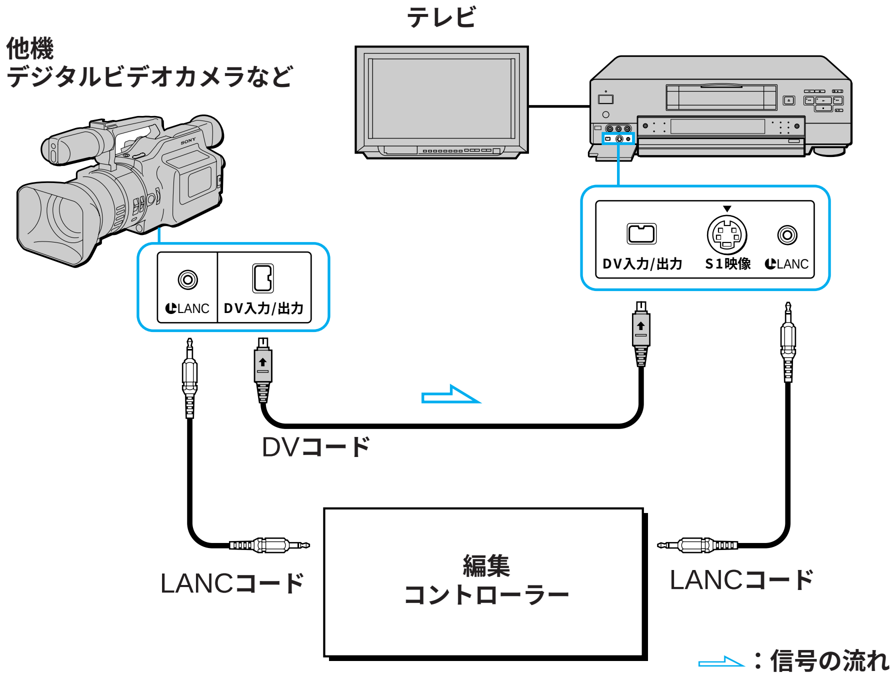
接続例：タイトラー



ご注意

- 編集コントローラーにRM-E1000を使用した場合、本機を録画機にしてDVコードを使わずに編集をおこなうと、まれに編集開始点が1秒前後遅れることがあります。その場合、RM-E1000のメニューの「編集実行時の設定」で頭出しの方法を「早送り再生／巻き戻し再生」に設定してお使いください。
- 接続のしかたは編集コントローラーによって異なります。編集コントローラーの取扱説明書も併せてご覧ください。

接続例：編集コントローラー



準備

LANC端子を使って接続したときは38ページ、LANC端子を使わずに接続したときは52ページをご覧になり、準備を行ってください。

各周辺機器の操作方法については、それぞれの取扱説明書をご覧ください。

設置と準備の進めかた

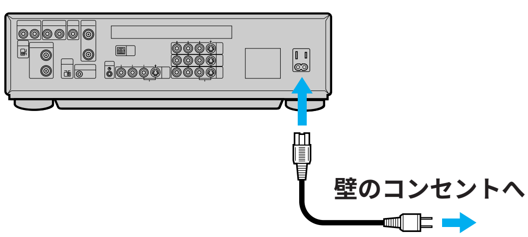
表の矢印にしたがって、設置と準備を進めます。

1：**付属品を確かめる**

2：**アンテナとテレビをつなぐ**
66ページ

3：**BSアンテナをつなぐ**
70ページ

4：**電源コードをつなぐ**



5：**リモコンで時計を合わせる**
73ページ

6：**チャンネルを合わせる**
76ページ

7：**Gコードを準備する**
76ページ

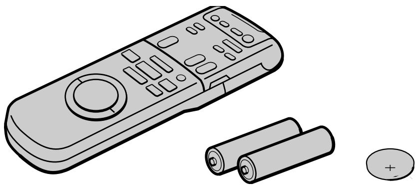
以上で設置と準備は終わりです。

本体後面のコンセントは他機の電源として使えます。また、連動、非連動をメニューで切り換えることができます。ただし、消費電力が200Wを超える機器はつながないでください。

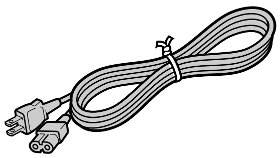
準備1：付属品を確かめる

箱を開けたら、付属品がそろっているか確かめてください。

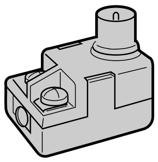
リモコン（1個）、単3形乾電池（2個）とリチウム電池（1個）



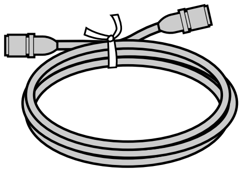
電源コード（1本）



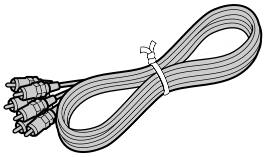
アンテナ整合器（1個）



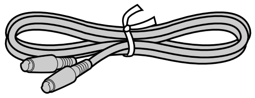
F型コネクター付き同軸ケーブル（1本）



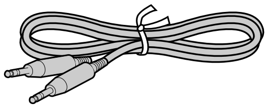
映像・音声コード（1本）



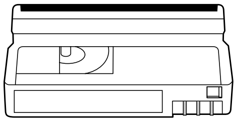
S映像コード（1本）



LANC◐／コントロールLコード（1本）

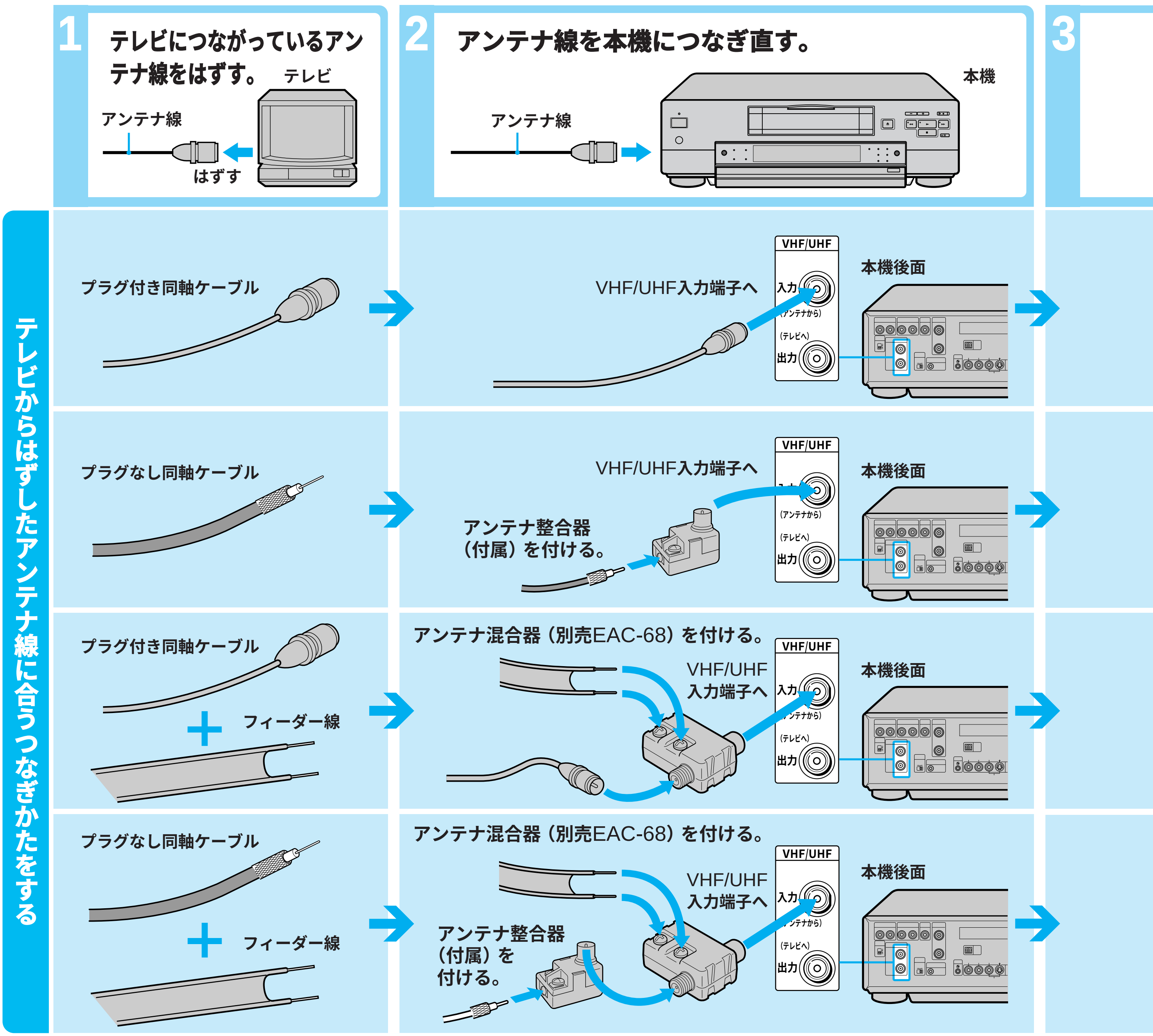


クリーニングテープ（1本）



準備2：アンテナとテレビをつなぐ

テレビにつながっているアンテナ線をはずして、本機につなぎ直します。次に、付属の同軸ケーブルを使って本機とテレビをつなぎます。テレビの端子やアンテナ線の形に合わせて、つなぎかたを選んでください。



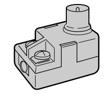
ご注意

画像の乱れを防ぐために
- 本機の上にテレビを直接置かないでください。
- アンテナ線はなるべく短くしてください。
- アンテナ線は本機から離してください。

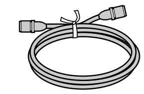
次のときは別売りのアンテナブースターを、アンテナと本機の間につないでください。
- 電波が弱いために画面がチラチラしたり、斜めじまが入るとき
- 2台以上のビデオにアンテナをつなぐとき

アンテナ接続用の付属品

テレビの端子やアンテナ線の形によって、右の付属品をお使いください。

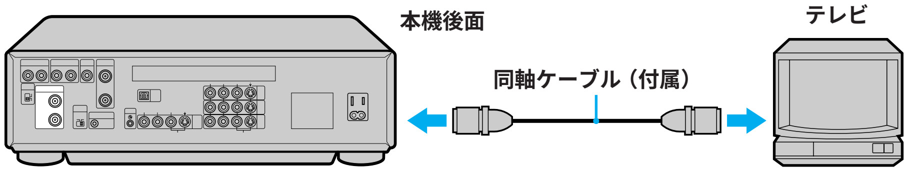


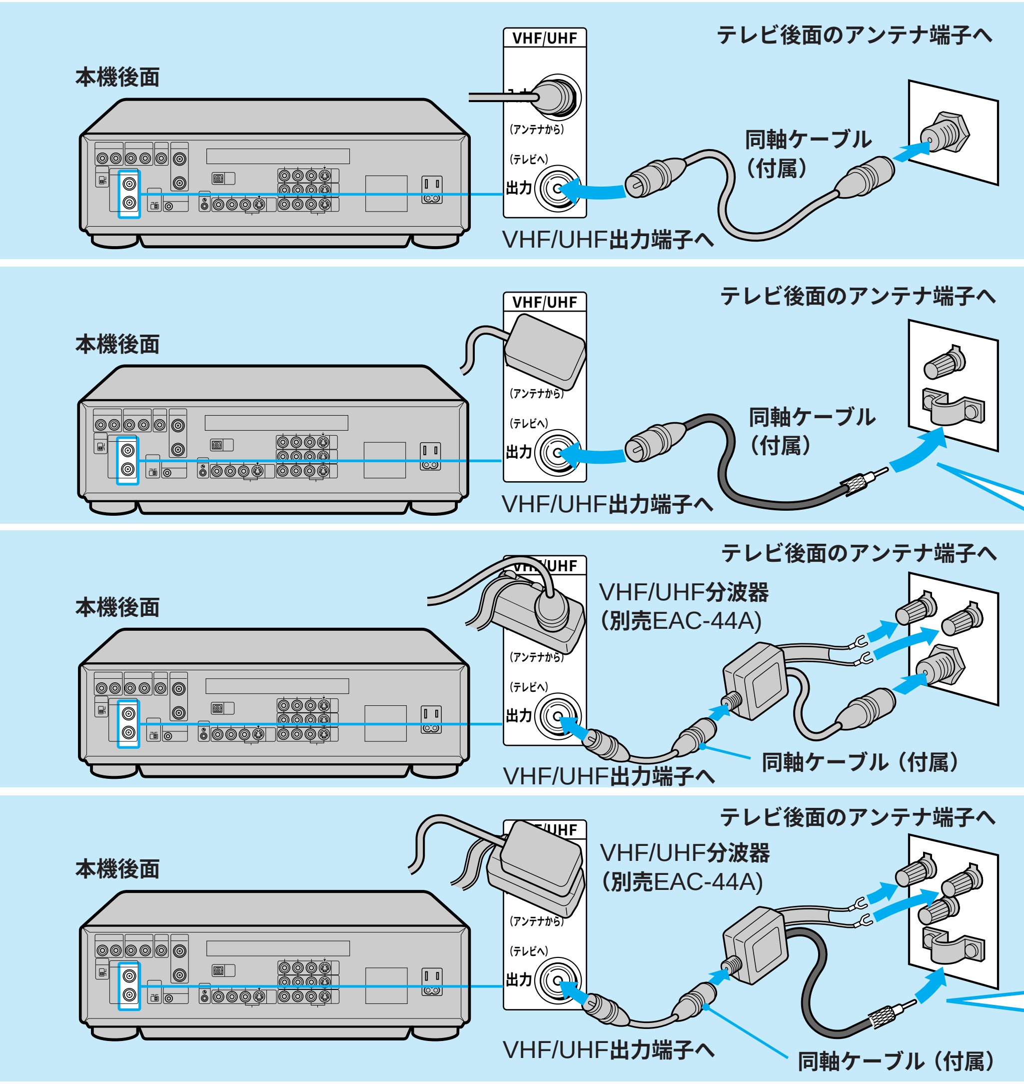
アンテナ整合器（1個）



同軸ケーブル（1本）

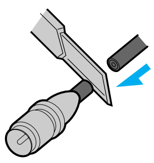
本機にテレビをつなぐ。



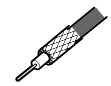


テレビ後面のアンテナ線がネジ式のとき

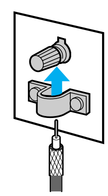
1 プラグを切り取る。



2 切り取ったケーブルの芯線とアミ線を出す（69ページ）。
芯線とアミ線の寸法は、アンテナ端子の形に合わせる。



3 アンテナ端 子に巻き付ける。

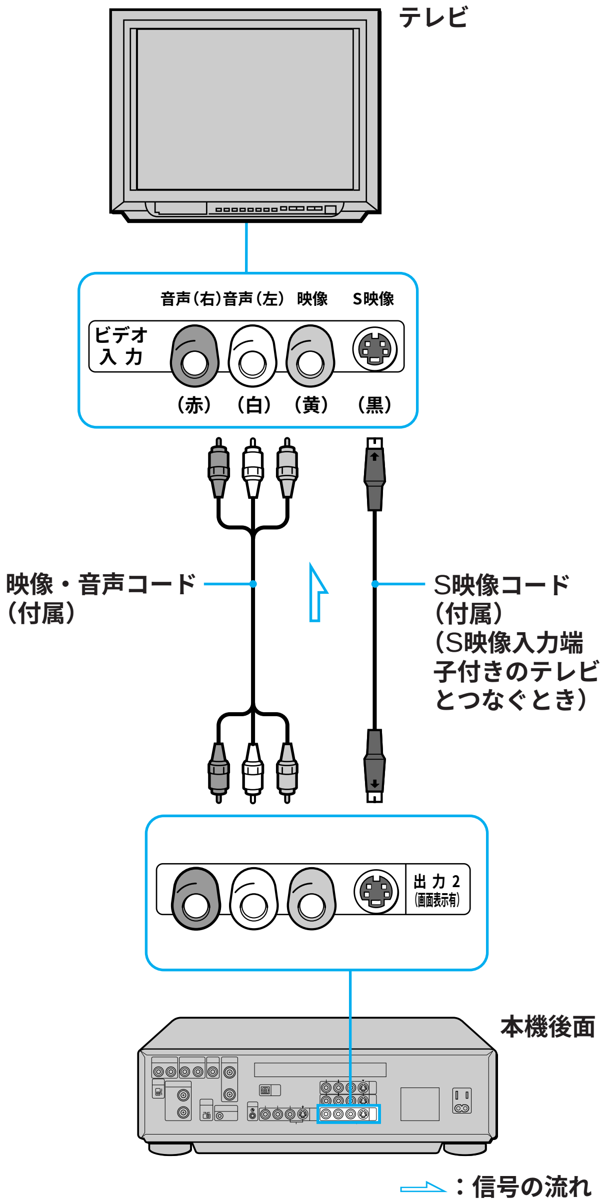


ご注意

- テレビに映像・音声入力端子が無いときは、UHF放送だけの地域でもテレビのVHF端子と本機のVHF/UHF出力端子をつないでください。つながないとビデオ画像を見ることができません。
- 付属のアンテナ整合器で、本機のVHF/UHF出力端子とテレビのアンテナ端子を接続しないでください。

映像・音声入力端子のあるテレビをつなぐとき

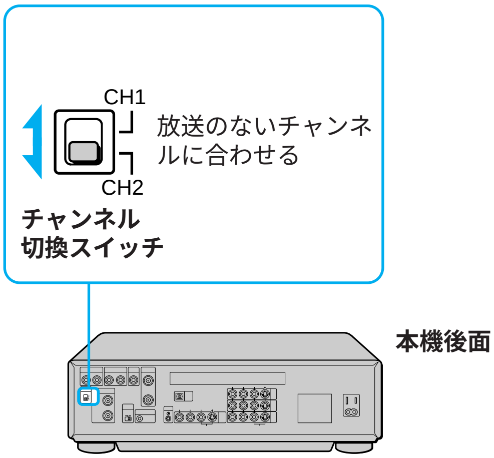
本機とテレビを付属の映像・音声コードでつなぎます。アンテナ線だけの接続よりきれいな画像とステレオ音声が楽しめます。ビデオを見るときは、テレビの入力切換を「ビデオ」にしてください。



メニューの「各種設定1」で「アンテナ切りかえ」は「手動」のままにしておいてください（28ページ）。

映像・音声入力端子のないテレビをつなぐとき

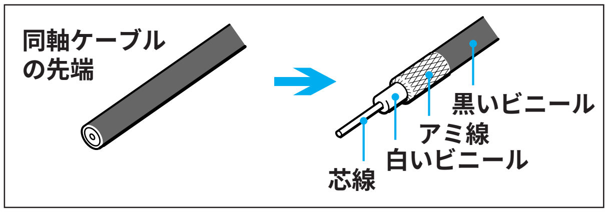
チャンネル切換スイッチを、放送のないチャンネル（1または2チャンネル）に合わせます。ビデオを見るときは、テレビを1または2チャンネルにして、本機のテレビ／ビデオボタンを押して表示窓にビデオランプを点灯させてください。



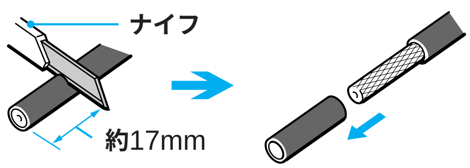
- メニューの「各種設定1」の「アンテナ切りかえ」を「自動」にしてください（28ページ）。
- アンテナ線だけでテレビにつないだときは、音声は常にモノラルで聞こえます。

プラグなし同軸ケーブルに整合器（付属）を付けるには

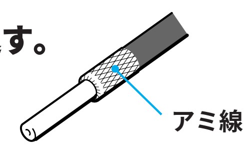
あらかじめ同軸ケーブルの先を加工します。



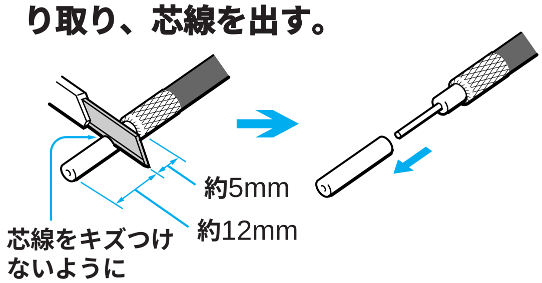
1 **黒いビニールにだけすじを入れて切り取る。**



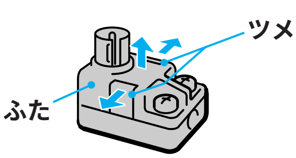
2 **アミ線を折り返す。**



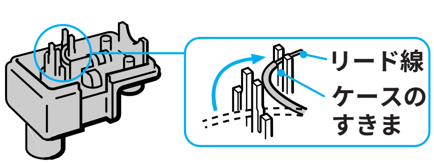
3 **白いビニールにだけすじを入れて切り取り、芯線を出す。**



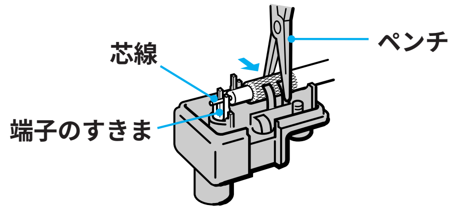
4 **整合器の両側のツメを広げてふたをはずす。**



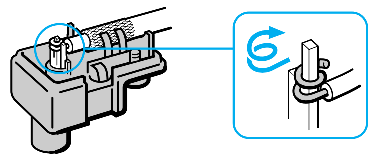
5 **リード線を端子のすきまからはずして、ケースのすきまにはさむ。**



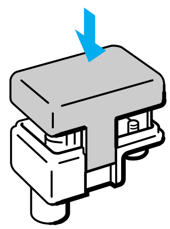
6 **芯線を端子のすきまにはさみ、ペンチで端子のわきをしめつける。**



7 **芯線を端子に巻き付けて、深く押し込む。**

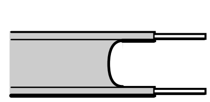


8 **整合器のふたをはめる。**

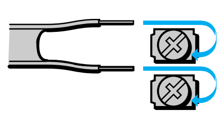


フィーダー線をつなぐには

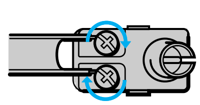
芯線だけのとき



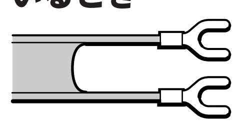
1 **ねじをゆるめて、芯線を巻き付ける。**



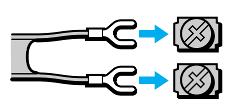
2 **ネジをしめる。**



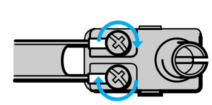
先に金具がついているとき



1 **ネジをゆるめて、金具をはめる。**



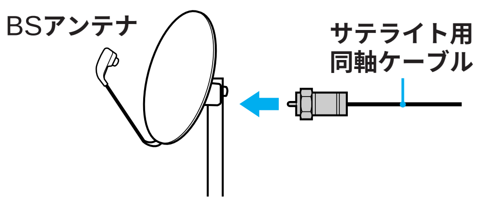
2 **ネジをしめる。**



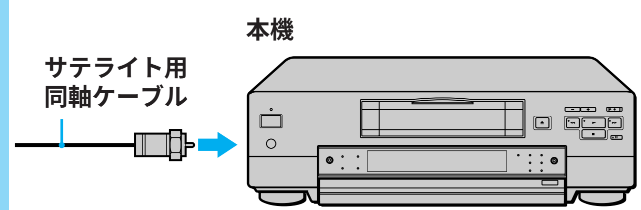
準備3：BSアンテナをつなぐ

別売りのサテライト用同軸ケーブルを使って、本機とBSアンテナまたは壁のBS端子をつなぎます。BSアンテナの設置には技術が必要なため、お買い上げ店に依頼してください。
お買い上げ時は、すべてのBSチャンネルが受信できるように設定されているので、お好みに応じて、放送のないBSチャンネルをとばすように変えてください（91ページ）。

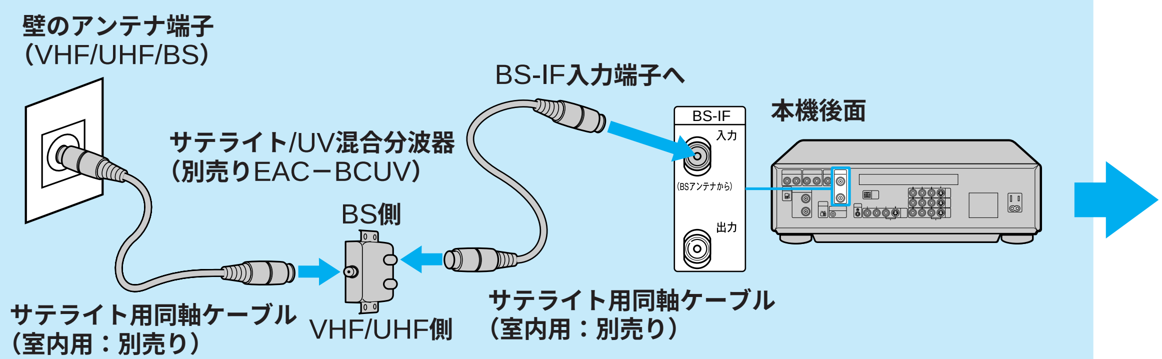
1 **壁のアンテナ端子からつなぐのか、BSアンテナを直接つなぐのかを確認する。**



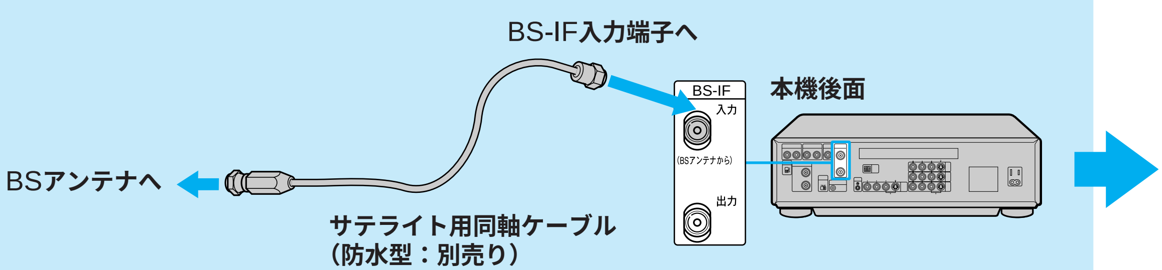
2 **サテライト用同軸ケーブルを本機のBS-IF入力端子につなぐ。**



壁のアンテナ端子がVHF／UHF／BS混合のとき（マンションの共同受信システムなど）



BSアンテナを直接つなぐとき



⚠警告 **BS-IF入力端子には専用のケーブルをつないでください。**

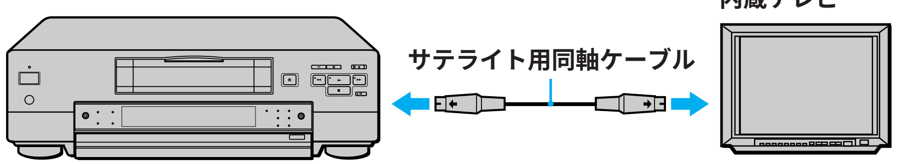
サテライト用同軸ケーブル以外のケーブルをBS-IF入力端子に絶対つながないでください。BS-IF入力端子からはBSコンバーター用の電源が供給されているため、専用のケーブルをつながないとショートして火災などの事故の原因となることがあります。

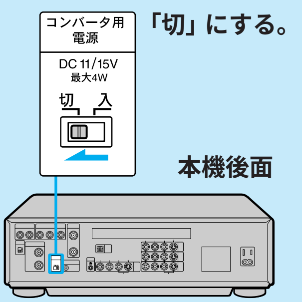
推奨ケーブル
室内用；EAC-S310、S320、S330、S350、S3100など
室外用；SAK-C10、C20、C30など

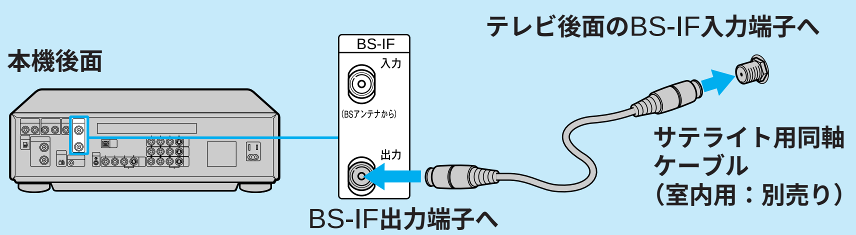
3 コンバーター用電源スイッチを合わせる。

4 テレビがBSチューナー内蔵のときは、サテライト用同軸ケーブルを使って、本機にテレビをつなぐ。

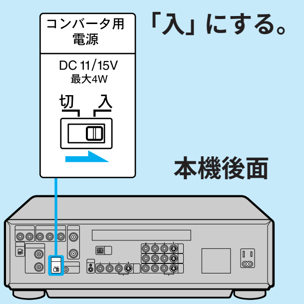
テレビがBSチューナー内蔵でないときは、この接続は不要です。テレビの入力をビデオに切り換え、本機でBSをご覧ください。

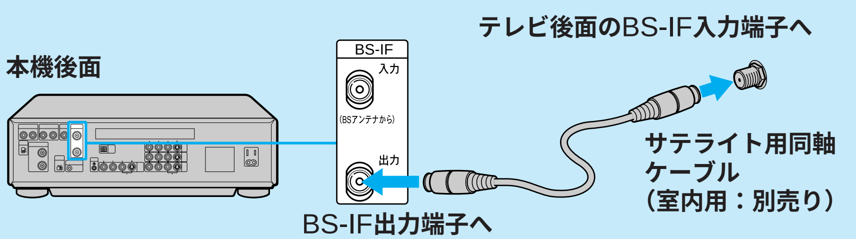






テレビのコンバーター用電源は「切」にしてください。





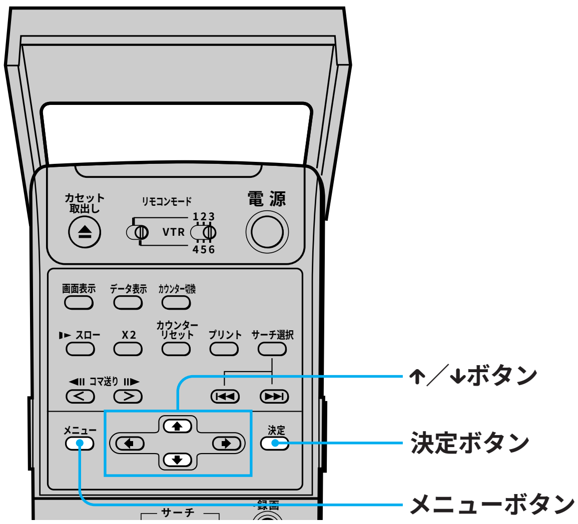
ご注意

- テレビアンテナ用の整合器や混合器、分波器、分配器を使わないでください。きれいに受信できません。
- サテライト分波器を使って複数のBS機器をつなぐときは、サテライト分波器の取扱説明書をご覧ください。

受信電波が弱くノイズが出るときは、別売りのサテライトブースターBC-BC20を本機とBSコンバーター（または壁のVHF/UHF/BS端子）の間につないでください。

アンテナの向きを調節する

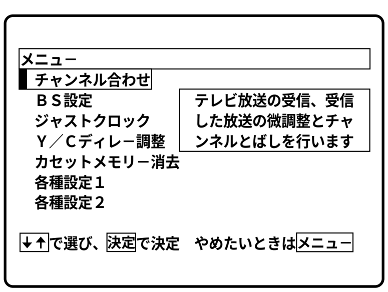
BSアンテナをご自分で設置するときや画像の映りが悪いときは、アンテナの向きを調節します。1人がBSアンテナを動かし、もう1人が画面のBSアンテナレベル表示を見て、レベルが最大になるように調節します。1つのBSチャンネルで調節すれば、他のチャンネルで行う必要はありません。



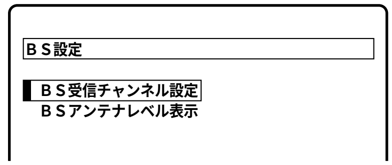
1 **アンテナの上下の向き（仰角）を決める。**
詳しくはBSアンテナの取扱説明書をご覧ください。

2 **テレビの電源を入れて、テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。**
アンテナ線だけでつないだときは、1または2チャンネルにします。

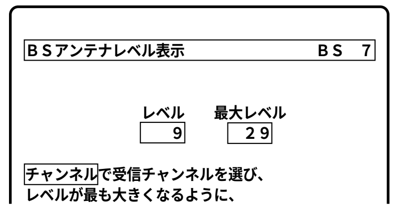
3 **メニューボタンを押す。**
テレビ画面にメニューが出ます。



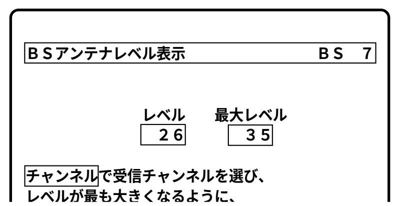
4 **↑／↓で「BS設定」を選び、決定ボタンを押す。**



5 **↑／↓で「BSアンテナレベル表示」を選び、決定ボタンを押す。**
チャンネル＋／－ボタンで放送のあるBSチャンネル（BS7など）を選びます。



6 **画面右の数字が、より大きくなるように、アンテナを左右に動かす。**



7 **左右の数字が一致またはいちばん近づいたところでアンテナを固定する。**

8 **決定ボタンを押す。**
メニューが消えます。

ご注意

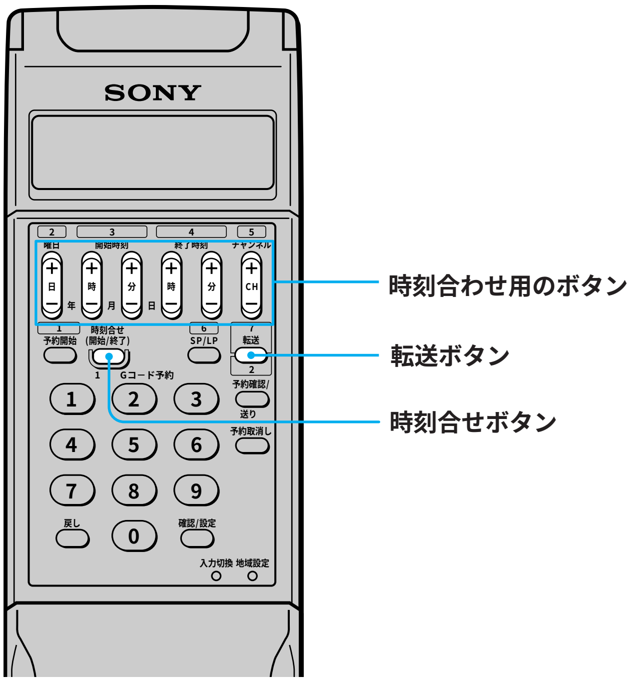
受信電波が弱くノイズが出るときは、別売りのサテライトブースターBO-BC20を本機とBSコンバーター（または壁のVHF/UHF/BS端子）の間につないでください。

💡

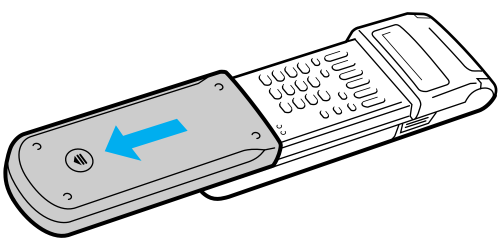
- 最大レベルの数字はアンテナやコンバーターの性能および天候によって変わります。
- アンテナが接続されていないと、正しくない数字が表示されることがあります。

準備4：リモコンで時計を合わせる

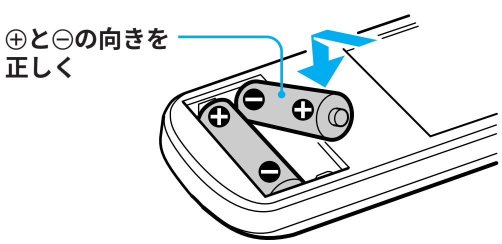
乾電池を入れて、時計を合わせます。



1 裏面のフタをはずす。



2 乾電池を入れる。

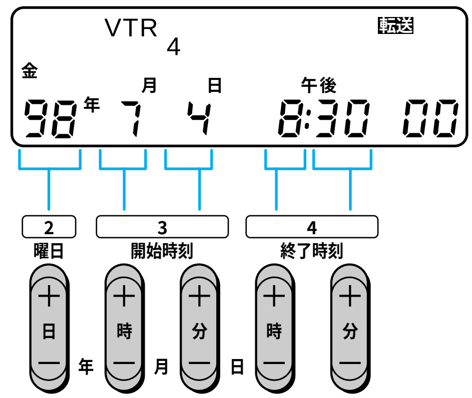


必ずイラストのように⊖極側から電池を入れてください。

時刻合せボタンを押す。



リモコンの表示窓を見ながら時刻を合わせる。



時報と同時に、本体に向けて転送ボタンを押す。

ピーッと音がして本体表示窓に合わせた曜日と時刻が出ます。



時刻合せボタンを押す。

終わったらフタを閉めてください。



次のページにつづく

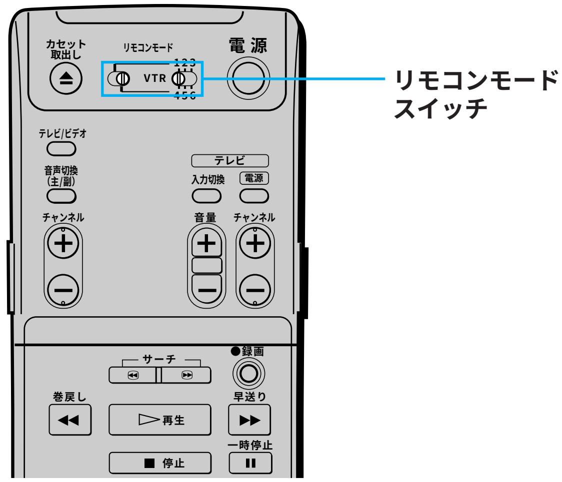
- 本体の操作パネルで時計を合わせるときは以下のようにします。
  1 時刻合せ（開始／終了）ボタンを押す。
  2 本体の表示窓を見ながら、予約用の＋／－ボタンを使用して、年→月→日→時→分を合わせる。テレビ画面でも設定時刻を確認できます。
  3 完了ボタンを押す。
  0秒から時計が動き始めます。
- 乾電池の交換時期は約6か月です。表示窓の表示が薄くなったり、▭マークが点灯したら交換してください。
- 停電や、コンセントが抜けた状態で30分以上放置すると、本体の時計は停止します。再び時計を合わせ直してください。

リモコンモードを変える

本体とリモコンのリモコンモードは、同じ数字に合わせてください（お買い上げ時は両方とも「VTR4」に設定されています）。ただし、以下のような場合は必要に応じてリモコンモードを変えてください。

- 2台以上のソニー製ビデオを使うとき：互いのリモコンモードを別の数字にする（リモコン信号の重複による誤動作を防ぐため）。
- 本機のリモコンで他のソニー製ビデオを操作するとき：本機のリモコンと他のビデオの数字を同じにする。

リモコンのリモコンモードを変える



VTR1〜VTR3に切り換える時

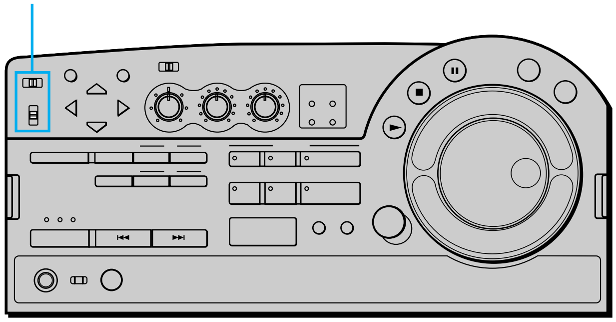


VTR4〜VTR6に切り換える時

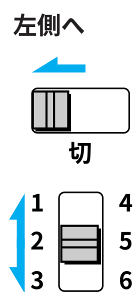


本体のリモコンモードを変える

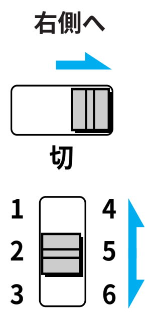
リモコンモードスイッチ



VTR1〜VTR3に切り換える時



VTR4〜VTR6に切り換える時

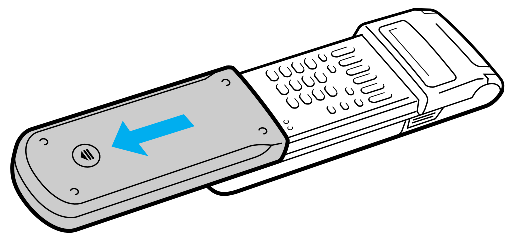


- 本体操作パネルのリモコンモードスイッチを「切」にすると、リモコンの操作を受け付けなくなります。
- リモコンモードスイッチのないソニー製ビデオの場合、ベータは「VTR1」、8ミリは「VTR2」、VHSは「VTR3」に設定されています。
- 本機のリモコンで他のソニー製ビデオを操作するとき、機種によって本機のリモコンでは働かない機能があります。

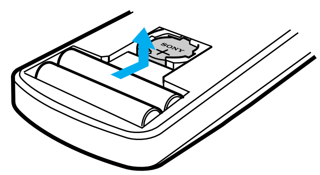
リチウム電池を交換する

が出たら、下記の手順に従ってリチウム電池を交換してください。このとき乾電池とリチウム電池を同時に取りはずさないでください。リチウム電池は乾電池が切れたとき、リモコン内のGコード情報や時計情報などを保持するためのバックアップ電池です。

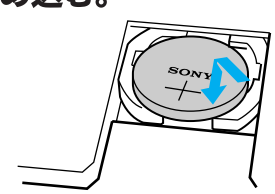
1 **裏面のフタをはずす。**



2 **リチウム電池を奥に押しつけて持ち上げ、取り出す。**



3 **新しいリチウム電池CR2032をはめ込む。**



＋マークの面を上にしてツメにカチッとはめ込む。

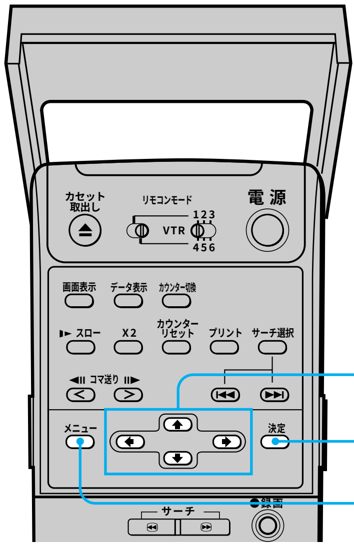
4 **フタを閉める。**

ご注意

乾電池とリチウム電池を同時に取りはずすと、リモコンのGコード情報は消去され、表示窓に「-- --:--」が表示されます。この場合は再度時計を合わせて「Gコードを準備する」の手順を行ってください（73、76ページ）。

準備5：チャンネルを合わせる

受信できるVHF放送とUHF放送を自動的に探します。放送のある時間帯に行ってください。



1 **テレビの電源を入れて、テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。**
アンテナ線だけでつないだときは、1または2チャンネルにします。（68ページ）

2 **メニューボタンを押す。**

3 **↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、決定ボタンを押す。**

チャンネル合わせ	表示チャンネル	4
▌受信する放送	一般放送	CATV
チャンネル合わせ	自動	手動

4 **↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、←／→で「自動」にし、決定ボタンを押す。**
終わると、通常の画面に戻ります。

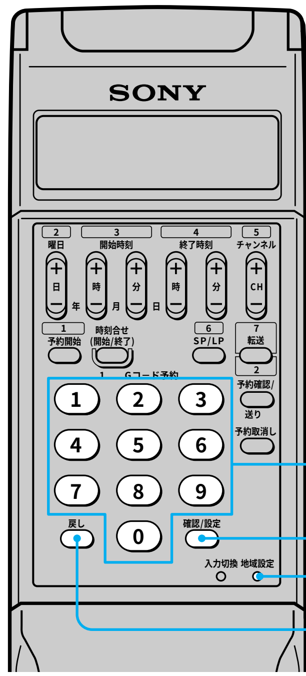
チャンネル合わせ	表示チャンネル	4
受信する放送	一般放送	CATV
▌チャンネル合わせ	自動	手動

チャンネル合わせ中です ― 点滅する

始め　終わり

準備6：Gコードを準備する

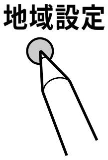
Gコードで予約できるように、地域番号を設定します。地域番号とは、各地域で放送されている放送局と、その局がビデオの何チャンネルで映るかをまとめたものです。



1 **リモコンのウラ面のフタを開ける。**

2 **ペン先などで地域設定ボタンを押して、リモコン表示窓に「地域設定」を出す。**

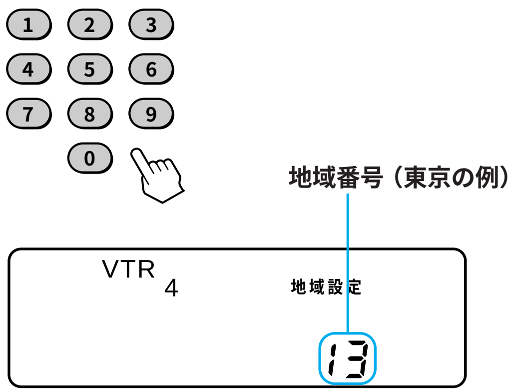
地域設定



VTR 4　　地域設定
- -

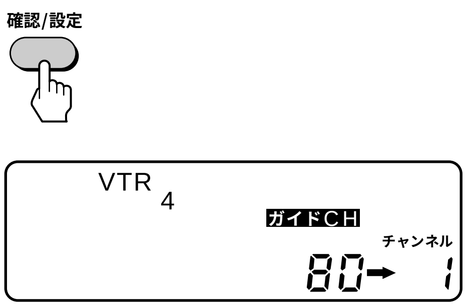
3 「Gコード地域番号・放送局表」（78ページ）を見て、数字ボタンを押してお住まいの地域番号を入れる。

間違えたときはエラー表示が出ます。正しい番号を続けて入れてください。



4 確認/設定ボタンを押す。

表中の最初の放送局とガイドチャンネルが表示されます。



5 地域設定ボタンを押す。

お住まいの都市が、「Gコード地域番号・放送局表」（78ページ）に掲載されていない場合は、お住まいの地域で見られる放送局に一番近い番号を選んでください。設定後、「放送局を追加する」（86ページ）と「表示チャンネルを合わせる」（87ページ）を行ってください。

次のページにつづく

Gコード地域番号・放送局表

以下の表は、お住まいの地域の地域番号と、その地域番号でGコード予約できるように、あらかじめ本機に設定されている放送局のガイドチャンネルと表示チャンネルです。

表の中の文字の見かた

80 → 03（NHK総合）

ガイドチャンネル　表示チャンネル　放送局名

ビデオを3チャンネルにすると、NHK総合（識別番号80）が映る例

表示チャンネルが "- -" の場合は、「表示チャンネルを合わせる」（87ページ）の手順で、その放送局が受信できる表示チャンネルを入力してください。

- ガイドチャンネルとは、Gコードのための放送局の識別番号です。
- 表示チャンネルとは、ビデオでその放送局が映るチャンネルです。
- 下記の「Gコード地域番号・放送局表」を見て、表中の放送局の他に本機で映る放送局があるときは、「放送局を追加する」（86ページ）を行ってください。
- 本体のチャンネル設定を、下記表内の表示チャンネルと異なるチャンネルでその放送局が受信できるように設定しているときや、手動チャンネル合わせで変更しているときは、「表示チャンネルを合わせる」（87ページ）を見て、リモコンに設定されている表示チャンネルを、本体と同じチャンネルに変更してください。

都道府県	都市名（地域番号）	放送局のガイドチャンネルと表示チャンネル			
北海道	札幌（01）	80→03（NHK総合） 35→35（北海道テレビ）	90→12（NHK教育） 27→27（北海道文化放送）	01→01（北海道放送） 17→17（テレビ北海道）	05→05（札幌テレビ）
	旭川（48）	80→09（NHK総合） 35→39（北海道テレビ）	90→02（NHK教育） 27→37（北海道文化放送）	01→11（北海道放送） 17→33（テレビ北海道）	05→07（札幌テレビ）
	北見（49）	80→09（NHK総合） 35→61（北海道テレビ）	90→02（NHK教育） 27→59（北海道文化放送）	01→53（北海道放送） 17→- -（テレビ北海道）	05→07（札幌テレビ）
	帯広（50）	80→04（NHK総合） 35→34（北海道テレビ）	90→12（NHK教育） 27→32（北海道文化放送）	01→06（北海道放送） 17→- -（テレビ北海道）	05→10（札幌テレビ）
	釧路・室蘭（51）	80→09（NHK総合） 35→39（北海道テレビ）	90→02（NHK教育） 27→41（北海道文化放送）	01→11（北海道放送） 17→- -（テレビ北海道）	05→07（札幌テレビ）
	函館（52）	80→04（NHK総合） 35→35（北海道テレビ）	90→10（NHK教育） 27→27（北海道文化放送）	01→06（北海道放送） 17→- -（テレビ北海道）	05→12（札幌テレビ）
青森	青森（02）	80→03（NHK総合） 34→34（青森朝日放送）	90→05（NHK教育）	01→01（青森放送）	38→38（青森テレビ）
	八戸（53）	80→09（NHK総合） 34→31（青森朝日放送）	90→07（NHK教育）	01→11（青森放送）	38→33（青森テレビ）
岩手	盛岡（03）	80→04（NHK総合） 33→33（岩手めんこいテレビ）	90→08（NHK教育）	06→06（岩手放送）	35→35（テレビ岩手）
宮城	仙台（04）	80→03（NHK総合） 34→34（宮城テレビ）	90→05（NHK教育） 32→32（東日本放送）	01→01（東北放送）	12→12（仙台放送）

都道府県	都市名（地域番号）	放送局のガイドチャンネルと表示チャンネル			
秋田	秋田（05）	80→09（NHK総合） 31→31（秋田朝日放送）	90→02（NHK教育）	11→11（秋田放送）	37→37（秋田テレビ）
	大館（54）	80→04（NHK総合） 31→59（秋田朝日放送）	90→08（NHK教育）	11→06（秋田放送）	37→57（秋田テレビ）
山形	山形（06）	80→08（NHK総合） 36→36（テレビユー山形）	90→04（NHK教育）	10→10（山形放送）	38→38（山形テレビ）
	鶴岡（55）	80→03（NHK総合） 36→22（テレビユー山形）	90→06（NHK教育）	10→01（山形放送）	38→39（山形テレビ）
福島	福島（07）	80→09（NHK総合） 35→35（福島放送）	90→02（NHK教育） 31→31（テレビユー福島）	11→11（福島テレビ）	33→33（福島中央テレビ）
	会津若松（56）	80→01（NHK総合） 35→41（福島放送）	90→03（NHK教育） 31→47（テレビユー福島）	11→06（福島テレビ）	33→37（福島中央テレビ）
	いわき（57）	80→04（NHK総合） 35→60（福島放送）	90→10（NHK教育） 31→62（テレビユー福島）	11→08（福島テレビ）	33→58（福島中央テレビ）
茨城	水戸（08）	80→44（NHK総合） 08→38（フジテレビ）	90→46（NHK教育） 10→36（テレビ朝日）	04→42（日本テレビ） 12→32（テレビ東京）	06→40（東京放送）
栃木	宇都宮（09）	80→29（NHK総合） 08→21（フジテレビ）	90→27（NHK教育） 10→19（テレビ朝日）	04→25（日本テレビ） 12→17（テレビ東京）	06→23（東京放送）
群馬	前橋（10）	80→52（NHK総合） 08→58（フジテレビ） 16→40（放送大学）	90→50（NHK教育） 10→60（テレビ朝日）	04→54（日本テレビ） 12→62（テレビ東京）	06→56（東京放送） 48→48（群馬テレビ）
埼玉	浦和（11）	80→01（NHK総合） 08→08（フジテレビ）	90→03（NHK教育） 10→10（テレビ朝日）	04→04（日本テレビ） 12→12（テレビ東京）	06→06（東京放送） 38→38（テレビ埼玉）
千葉	千葉（12）	80→01（NHK総合） 08→08（フジテレビ）	90→03（NHK教育） 10→10（テレビ朝日）	04→04（日本テレビ） 12→12（テレビ東京）	06→06（東京放送） 46→46（千葉テレビ）
東京	東京（13）	80→01（NHK総合） 08→08（フジテレビ）	90→03（NHK教育） 10→10（テレビ朝日）	04→04（日本テレビ） 12→12（テレビ東京）	06→06（東京放送）
神奈川	横浜（14）	80→01（NHK総合） 08→08（フジテレビ）	90→03（NHK教育） 10→10（テレビ朝日）	04→04（日本テレビ） 12→12（テレビ東京）	06→06（東京放送） 42→42（テレビ神奈川）
新潟	新潟（15）	80→08（NHK総合） 29→29（テレビ新潟）	90→12（NHK教育） 21→21（新潟テレビ21）	05→05（新潟放送）	35→35（新潟総合テレビ）
山梨	甲府（16）	80→01（NHK総合）	90→03（NHK教育）	05→05（山梨放送）	37→37（テレビ山梨）
長野	長野（17）	80→02（NHK総合） 30→30（テレビ信州）	90→09（NHK教育） 20→20（長野朝日放送）	11→11（信越放送）	38→38（長野放送）
	飯田（58）	80→04（NHK総合） 30→42（テレビ信州）	90→03（NHK教育） 20→44（長野朝日放送）	11→06（信越放送）	38→40（長野放送）
富山	富山（18）	80→03（NHK総合） 32→32（チューリップテレビ）	90→10（NHK教育）	01→01（北日本放送）	34→34（富山テレビ）
石川	金沢（17）	80→04（NHK総合） 33→33（テレビ金沢）	90→08（NHK教育） 25→25（北陸朝日放送）	06→06（北陸放送）	37→37（石川テレビ）

次のページにつづく

準備7：Gコードを準備する（つづき）

都道府県	都市名（地域番号）	放送局のガイドチャンネルと表示チャンネル			
福井	福井（20）	80→09（NHK総合）	90→03（NHK教育）	11→11（福井放送）	39→39（福井テレビ）
岐阜	岐阜（21）	80→39（NHK総合） 11→11（名古屋テレビ放送）	90→09（NHK教育） 35→35（中京テレビ）	05→05（中部日本放送） 37→37（岐阜放送）	01→01（東海テレビ） 25→--（テレビ愛知）
静岡	静岡（22）	80→09（NHK総合） 33→33（静岡朝日放送）	90→02（NHK教育） 31→31（静岡第一テレビ）	11→11（静岡放送）	35→35（テレビ静岡）
	浜松（59）	80→04（NHK総合） 33→28（静岡朝日放送）	90→08（NHK教育） 31→30（静岡第一テレビ）	11→06（静岡放送）	35→34（テレビ静岡）
愛知	名古屋（23）	80→03（NHK総合） 11→11（名古屋テレビ放送）	90→09（NHK教育） 35→35（中京テレビ）	05→05（中部日本放送） 25→25（テレビ愛知）	01→01（東海テレビ）
三重	津（24）	80→31（NHK総合） 11→11（名古屋テレビ放送）	90→09（NHK教育） 35→35（中京テレビ）	05→05（中部日本放送） 33→33（三重テレビ）	01→01（東海テレビ） 25→--（テレビ愛知）
滋賀	大津（25）	80→28（NHK総合） 08→40（関西テレビ）	90→46（NHK教育） 10→42（読売テレビ）	04→36（毎日放送） 30→30（びわ湖テレビ）	06→38（朝日放送）
京都	京都（26）	80→32（NHK総合） 08→08（関西テレビ）	90→12（NHK教育） 10→10（読売テレビ）	04→04（毎日放送） 34→34（京都テレビ）	06→06（朝日放送）
大阪	大阪（27）	80→02（NHK総合） 08→08（関西テレビ）	90→12（NHK教育） 10→10（読売テレビ）	04→04（毎日放送） 19→19（テレビ大阪）	06→06（朝日放送）
兵庫	神戸（28）	80→28（NHK総合） 08→22（関西テレビ）	90→26（NHK教育） 10→24（読売テレビ）	04→18（毎日放送） 36→36（サンテレビ）	06→20（朝日放送）
奈良	奈良（29）	80→51（NHK総合） 08→08（関西テレビ）	90→48（NHK教育） 10→10（読売テレビ）	04→04（毎日放送） 55→55（奈良テレビ）	06→06（朝日放送）
和歌山	和歌山（30）	80→32（NHK総合） 08→46（関西テレビ）	90→26（NHK教育） 10→48（読売テレビ）	04→42（毎日放送） 30→30（テレビ和歌山）	06→44（朝日放送）
鳥取	鳥取（31）	80→03（NHK総合） 34→24（山陰中央テレビ）	90→04（NHK教育）	01→01（日本海テレビ）	10→22（山陰放送）
島根	松江（32）	80→06（NHK総合） 01→30（日本海テレビ）	90→12（NHK教育）	10→10（山陰放送）	34→34（山陰中央テレビ）
	浜田（61）	80→02（NHK総合） 01→54（日本海テレビ）	90→09（NHK教育）	10→05（山陰放送）	34→58（山陰中央テレビ）
岡山	岡山（33）	80→05（NHK総合） 23→23（テレビせとうち）	90→03（NHK教育） 09→09（西日本放送）	11→11（山陽放送） 33→25（瀬戸内海放送）	35→35（岡山放送）
広島	広島（34）	80→03（NHK総合） 35→35（広島ホームテレビ）	90→07（NHK教育） 31→31（テレビ新広島）	04→04（中国放送）	12→12（広島テレビ）
	福山（60）	80→05（NHK総合） 35→57（広島ホームテレビ）	90→03（NHK教育） 31→54（テレビ新広島）	04→07（中国放送）	12→11（広島テレビ）
山口	山口（35）	80→09（NHK総合） 28→28（山口朝日放送）	90→01（NHK教育）	11→11（山口放送）	38→38（テレビ山口）

（放送局名は略称を使用しています。）

都道府県	都市名（地域番号）	放送局のガイドチャンネルと表示チャンネル			
徳島	徳島（36）	80→03（NHK総合） 06→06（朝日放送）	90→38（NHK教育） 08→08（関西テレビ）	01→01（四国テレビ） 10→10（読売テレビ）	04→04（毎日放送）
香川	高松（37）	80→37（NHK総合） 11→29（山陽放送）	90→39（NHK教育） 35→31（岡山放送）	33→33（瀬戸内海放送） 23→19（テレビせとうち）	09→41（西日本放送）
愛媛	松山（38）	80→06（NHK総合） 29→29（あいテレビ）	90→02（NHK教育）	10→10（南海放送）	37→37（テレビ愛媛）
	新居浜（62）	80→02（NHK総合） 29→27（あいテレビ）	90→04（NHK教育）	10→06（南海放送）	37→36（テレビ愛媛）
高知	高知（39）	80→04（NHK総合）	90→06（NHK教育）	08→08（高知放送）	38→38（テレビ高知）
福岡	福岡（40）	80→03（NHK総合） 09→09（テレビ西日本）	90→06（NHK教育） 37→37（福岡放送）	04→04（RKB毎日放送） 19→19（TXN九州）	01→01（九州朝日放送）
	北九州（63）	80→06（NHK総合） 09→10（テレビ西日本）	90→12（NHK教育） 37→35（福岡放送）	04→08（RKB毎日放送） 19→23（TXN九州）	01→02（九州朝日放送）
佐賀	佐賀（41）	80→38（NHK総合）	90→40（NHK教育）	36→36（サガテレビ）	11→11（熊本放送）
長崎	長崎（42）	80→03（NHK総合） 27→27（長崎文化放送）	90→01（NHK教育） 25→25（長崎国際テレビ）	05→05（長崎放送）	37→37（テレビ長崎）
熊本	熊本（43）	80→09（NHK総合） 22→22（熊本県民テレビ）	90→02（NHK教育） 16→16（熊本朝日放送）	11→11（熊本放送）	34→34（テレビ熊本）
大分	大分（44）	80→03（NHK総合） 24→24（大分朝日放送）	90→12（NHK教育）	05→05（大分放送）	36→36（テレビ大分）
宮崎	宮崎（45）	80→08（NHK総合）	90→12（NHK教育）	10→10（宮崎放送）	35→35（テレビ宮崎）
	延岡（64）	80→04（NHK総合）	90→02（NHK教育）	10→06（宮崎放送）	35→39（テレビ宮崎）
鹿児島	鹿児島（46）	80→03（NHK総合） 32→32（鹿児島放送）	90→05（NHK教育） 30→30（鹿児島読売テレビ）	01→01（南日本放送）	38→38（鹿児島テレビ）
	阿久根（65）	80→08（NHK総合） 32→23（鹿児島放送）	90→12（NHK教育） 30→17（鹿児島読売テレビ）	01→10（南日本放送）	38→35（鹿児島テレビ）
沖縄	那覇（47）	80→02（NHK総合）	90→12（NHK教育）	10→10（琉球放送）	08→08（沖縄テレビ）

ご注意

ケーブルテレビやマンションの共同受信システムなどをご利用の場合は、表示チャンネルが上の表と異なる場合があります。

準備6：Gコードを準備する（つづき）

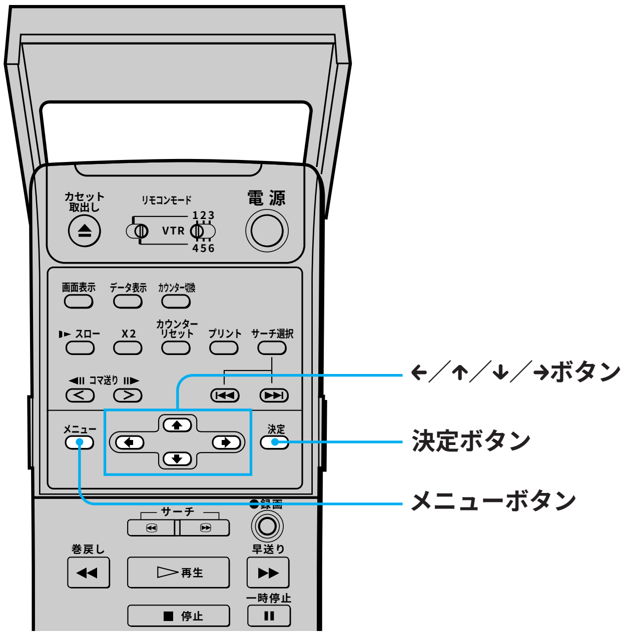
BS放送のガイドチャンネル表

ケーブルテレビやマンションの共同受信システムなどで、BS放送を1〜62チャンネルでご覧になれるときは、下のガイドチャンネルを追加してください。表示チャンネルはビデオにその放送局が映るチャンネルになります。

放送の種類	Gコードで録画予約できる放送局のガイドチャンネル		
BS	74（NHK衛星第1）	76（NHK衛星第2）	73（WOWOW）

時計を自動補正する（ジャストクロック）

NHK教育テレビの時報にあわせて本体の時計を補正します。予約録画の始めや終わりが正確になります。



1 メニューボタンを押す。

テレビ画面にメニューが出ます。

メニュー
チャンネル合わせ
ＢＳ設定
ジャストクロック
Ｙ／Ｃディレー調整
カセットメモリー消去
各種設定１
各種設定２

テレビ放送の受信、受信した放送の微調整とチャンネルとはしを行います

↓↑で選び、決定で決定　やめたいときはメニュー

2 ↑／↓で「ジャストクロック設定」を選び、決定ボタンを押す。

ジャストクロック
ジャストクロック　する　しない
ＮＨＫ教育テレビ　３チャンネル

↓↑で選び、←→で設定して、決定を押してください
やめたいときはメニューを押してください

3 ←／→で「する」を選ぶ。

ジャストクロック
ジャストクロック　する　しない
ＮＨＫ教育テレビ　３チャンネル

↓↑で選び、←→で設定して、決定を押してください
やめたいときはメニューを押してください

4 ↑／↓で「NHK教育テレビ」を選び、←／→でNHK教育テレビの表示チャンネルにする。

「NHK教育テレビ」が12チャンネルの例

ジャストクロック
ジャストクロック　する　しない
ＮＨＫ教育テレビ　１２チャンネル

←→でチャンネル合わせて、決定を押してください
やめたいときはメニューを押してください

5 決定ボタンを押す。

これで時報に合わせて自動補正されます。

ご注意

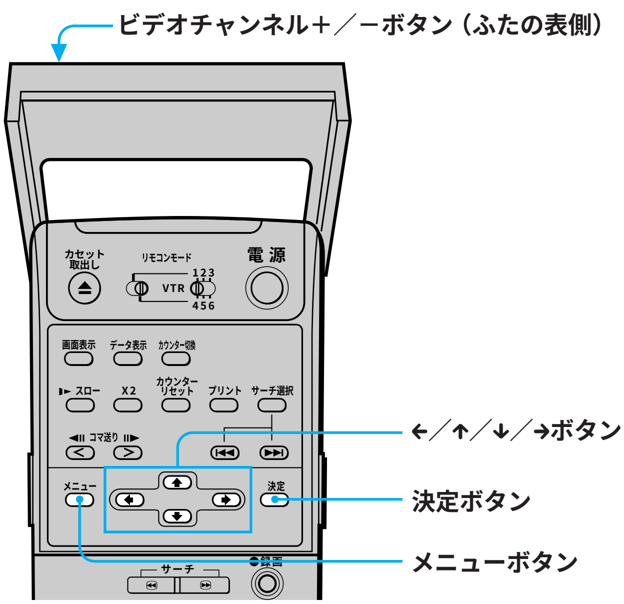
- 時報の時刻に本機が次のようになっていると自動補正は働きません。
  - 電源が入っている
  - 時計が2分以上ずれている
  - 停電などで時計が止まっている
- 時報の放送が行われないと自動補正は働きません。
- 自動補正されるのは本体内の時計のみです。リモコン内の時計は補正されません。

チャンネル設定を変える（手動チャンネル合わせ）

チャンネルの番号を変える

「準備5：チャンネルを合わせる」（76ページ）でチャンネルを自動的に合わせたときは、通常は手動で合わせ直す必要はありません。
ただし、次のような時は、お好みに応じて手動でチャンネルを合わせてください。

例1: 熱海市にお住まいのかたが、通常11チャンネルで放送されている静岡放送を6チャンネルで見たいとき
例2: VHF放送をUHFに変換している地域にお住まいのかたが、50チャンネルに変換されたNHK教育テレビを3チャンネルで見たいとき



1 **テレビの電源を入れて、テレビをビデオの入力に切り換える。**

2 **メニューボタンを押す。**

3 **↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、決定ボタンを押す。**

チャンネル合わせ	表示チャンネル	8
■受信する放送	一般放送	CATV
チャンネル合わせ	自動	手動

4 **↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、←／→で「手動」にする。**

チャンネル合わせ	表示チャンネル	8
受信する放送	一般放送	CATV
■チャンネル合わせ	自動	手動
受信チャンネル	8	
チャンネルとばし	する	しない
微調整	自動	手動
手動微調整		

5 **ビデオチャンネル＋／－ボタンで「表示チャンネル」を放送局を映したいチャンネルにする。**

チャンネル合わせ	表示チャンネル	6
受信する放送	一般放送	CATV
■チャンネル合わせ	自動	手動
受信チャンネル	6	
チャンネルとばし	する	しない
微調整	自動	手動
手動微調整		

例1では「6」にする

6 **↑／↓で「受信チャンネル」を選び、←／→で映したい放送局の番号にする。**

チャンネル合わせ	表示チャンネル	6
受信する放送	一般放送	CATV
チャンネル合わせ	自動	手動
■受信チャンネル	11	
チャンネルとばし	する	しない
微調整	自動	手動
手動微調整		

例1では「11」にする

7 **決定ボタンを押す。**
メニューが消えます。
このままでは元のチャンネルでも放送が映ってしまうので、続けて「放送のないチャンネルをとばす」を行ってください。

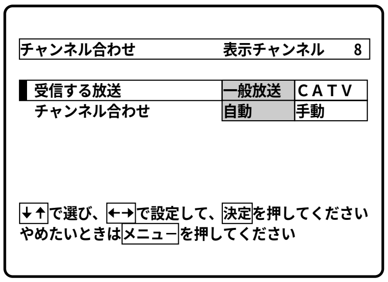
チャンネル設定を変えたときは、Gコードの設定も同様に変えてください。（86ページ）

放送のないチャンネルをとばす

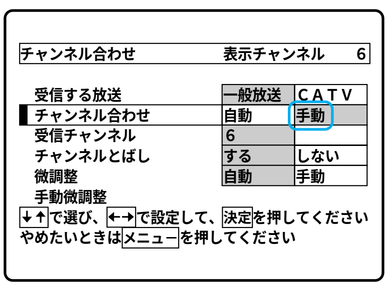
不要な放送局を映らないようにします。

1 **メニューボタンを押す。**

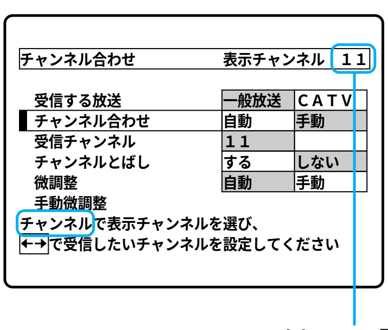
2 **↑／↓で「テレビチャンネル合わせ」を選び、決定ボタンを押す。**



3 **↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、←／→で「手動」にする。**



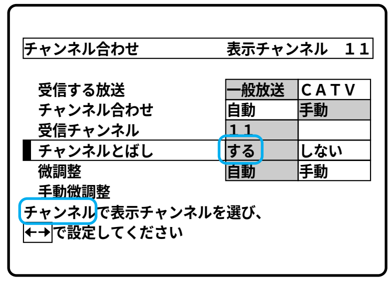
4 **ビデオチャンネル＋／－ボタンで「表示チャンネル」を消したい放送局が映っているチャンネルにする。**



例1では「11」にする

5 **↑／↓で「チャンネルとばし」を選び、←／→で「する」にする。**

ビデオチャンネル＋／－ボタンを押しても、映らないようになります。



6 **決定ボタンを押す。**

メニューが消えます。

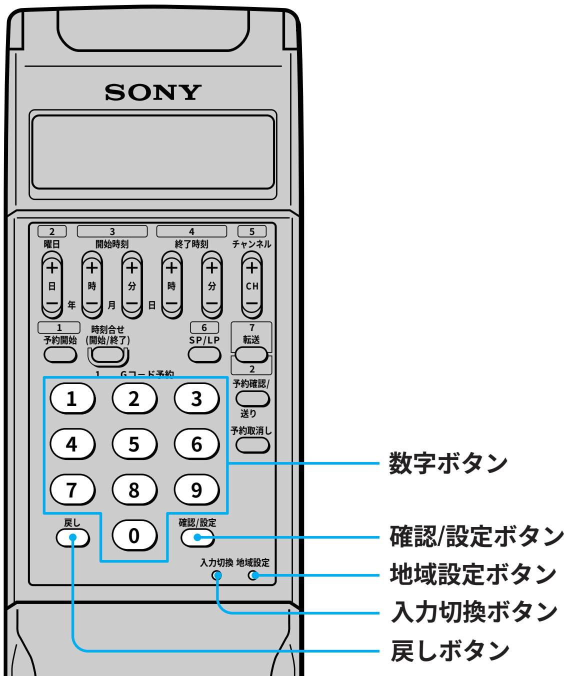
ケーブルテレビ (CATV) を受信する

受信するには、CATV局への加入手続きが必要です。CATV局から届くCATVチューナーの説明書もあわせてお読みください。なお、CATVは受信できない地域もあります。くわしくは、お近くのCATV局にお問い合わせください。

1. メニューボタンを押して、↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、決定ボタンを押す。
2. ↑／↓で「受信する放送」を選び、←／→で「CATV」にする。
3. ビデオチャンネル＋／－ボタンで「表示チャンネル」を放送の無い番号（例：5）にする。
4. ↑／↓で「受信チャンネル」を選び、←／→で希望のチャンネル（例：C30など）にする。
5. 手順3と4を繰り返す。
6. 決定ボタンを押す。

設置と準備

Gコード設定を変える

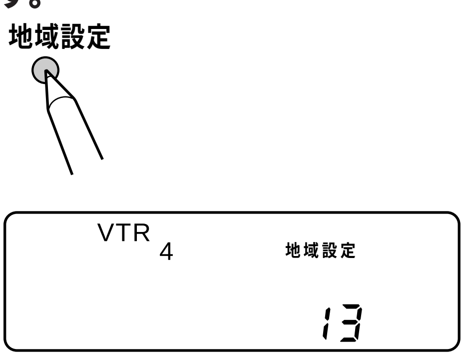


放送局を追加する

お住まいの地域によっては、他の都市や県の放送局がご覧になれます。それらの局の番組をGコードで予約録画するためには、その局のガイドチャンネルとチャンネル（「Gコード地域番号・放送局表」（78ページ）で確認します）を追加設定してください。
放送局は16局まで追加設定できます。

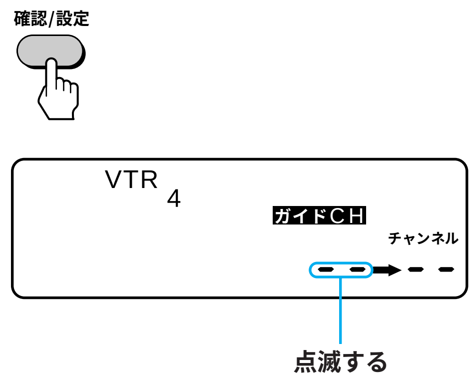
例：東京にお住まいの方が「テレビ神奈川（42チャンネル）」を追加する。

1 **ペン先などで地域設定ボタンを押す。**



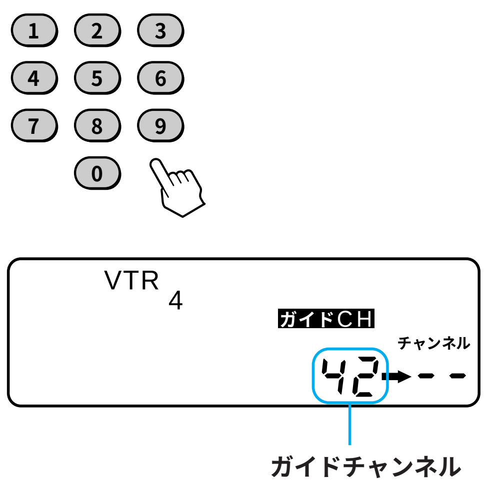
2 **確認／設定ボタンを繰り返し押して、リモコン表示窓に「-- ➡ --」を出す。**

行きすぎたときは、戻しボタンを押します。



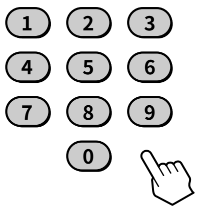
3 **数字ボタンを押して、追加する放送局のガイドチャンネルを「ガイドCH」のところに入れ、確認／設定ボタンを押す。**

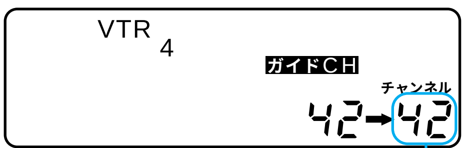
ひとケタの時は頭に0をつけます。
「エラー」が出たときは、すでに使われていて入力できません。正確なガイドチャンネルを入れ直してください。



4 **数字ボタンを押して、追加する放送局の表示チャンネルを「チャンネル」のところに入れ、確認／設定ボタンを押す。**

ひとケタの時は頭に0をつけます。
間違えたときは正しいチャンネルを続けて入れます。





表示チャンネル

5 **他の放送局を追加するときは手順3と4を繰り返す。**

6 **終わったら地域設定ボタンを押す。**

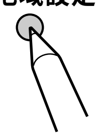
表示チャンネルを合わせる

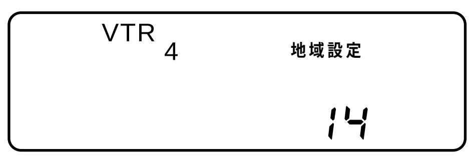
次のようなときは、リモコンに設定されているGコードの表示チャンネルを、本体のチャンネル設定に合わせてください。

例：
- 長野にお住まいの方が「NHK総合」を2チャンネルでなく、49チャンネルで受信している場合。
- 京都にお住まいの方が「NHK総合」を32チャンネルで受信しているが、手動チャンネル合わせで表示チャンネルを「2」に合わせた場合。
- 神奈川にお住まいの方が、マンションなどの共同アンテナを使用しており、「テレビ神奈川」が5チャンネルで受信できる場合。

1 **ペン先などで地域設定ボタンを押す。**

地域設定

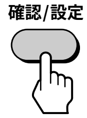




2 **合わせたい放送局のガイドチャンネルが出るまで確認／設定ボタンを繰り返し押す。**

行きすぎたときは、戻しボタンを押します。

確認/設定





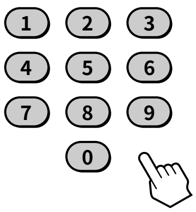
点滅する

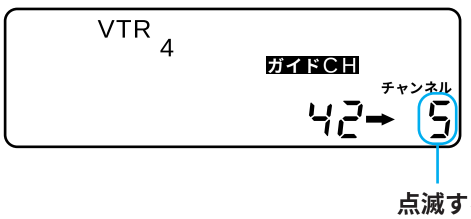
次のページにつづく

Gコード設定を変える（つづき）

3 **変更した表示チャンネルを入れて、確認／設定ボタンを押す。**

ひとケタの時は頭に0をつけます。
間違えたときは正しいチャンネルを続けて入れます。





4 **他の放送局を変更するときは手順2と3を繰り返す。**

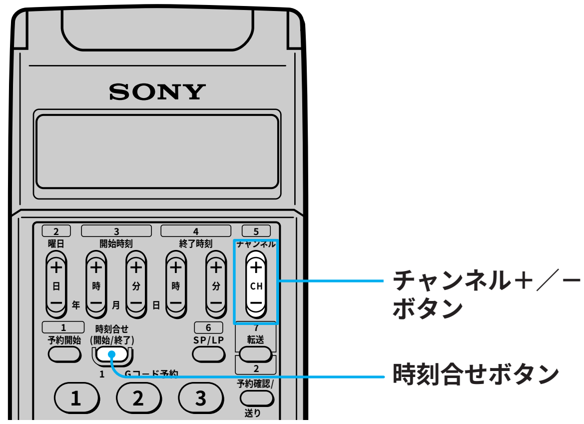
5 **終わったら地域設定ボタンを押す。**

💡

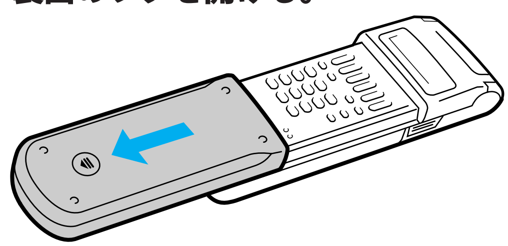
マンションの共聴アンテナなどでBS放送、CS放送を1～62チャンネルに変換している方は、手順3の前に入力切換ボタンを3回押して、「BS」を表示窓から消してください。

リモコンで各社のテレビを操作する

リモコン信号をお手持ちのテレビのメーカーに合わせると、本機のリモコンでテレビのチャンネルや音量、電源を操作できます。お買い上げ時はソニーの🅁マーク付きテレビを操作できるよう設定されています。

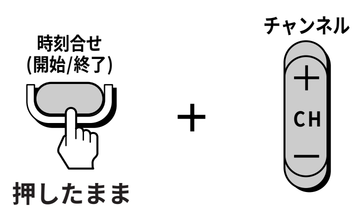


1 **裏面のフタを開ける。**

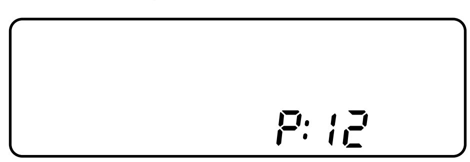


2 **時刻合せボタンを押したままチャンネル＋／－ボタンを押して、テレビのメーカー番号をリモコンの表示窓に出す。**

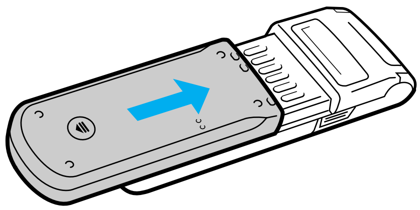
テレビのメーカー番号は右表の通りです。



例：メーカー番号を12に合わせる



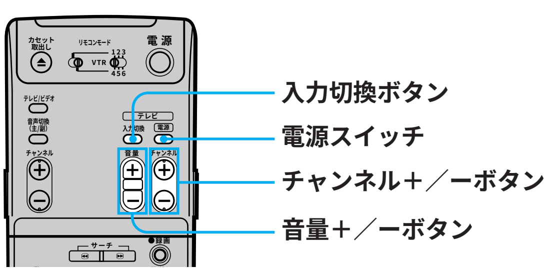
3 **フタを閉める。**



テレビのメーカー	メーカー番号
ソニー（Rマーク付き）	1（お買い上げ時の設定）
松下電器1*	2
東芝	3
日立製作所	4
三菱電機	5
日本ビクター	6
三洋電機	7
シャープ	8
NEC	9
パイオニア**	10
富士通ゼネラル	11
ソニー（Rマーク無し）**	12
松下電器2*	13

* メーカー番号「2」で操作できないときは「13」にしてください。
** 入力切換ボタンは使えません。

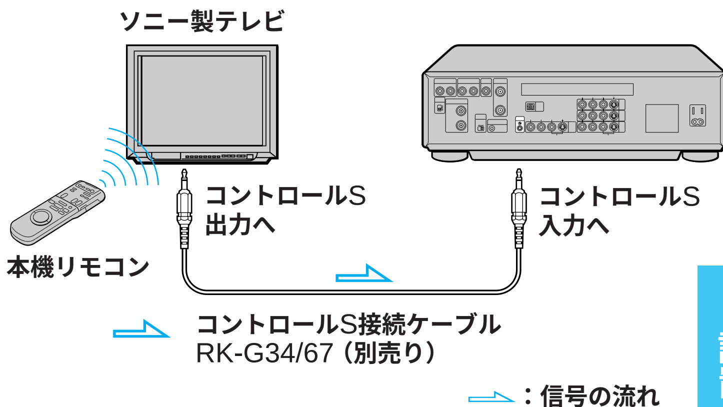
各社のテレビに使えるボタンは以下の通りです。



ご注意
テレビによってはメーカー番号を合わせても操作できなかったり、一部のボタンが操作できないことがあります。

ソニー製テレビに向けて本機を操作する

コントロールS出力端子付のテレビをつなぐと、リモコンをテレビに向けて本機を操作できます。本機がテレビスタンドの木製とびらで隠れるときなどに便利です。

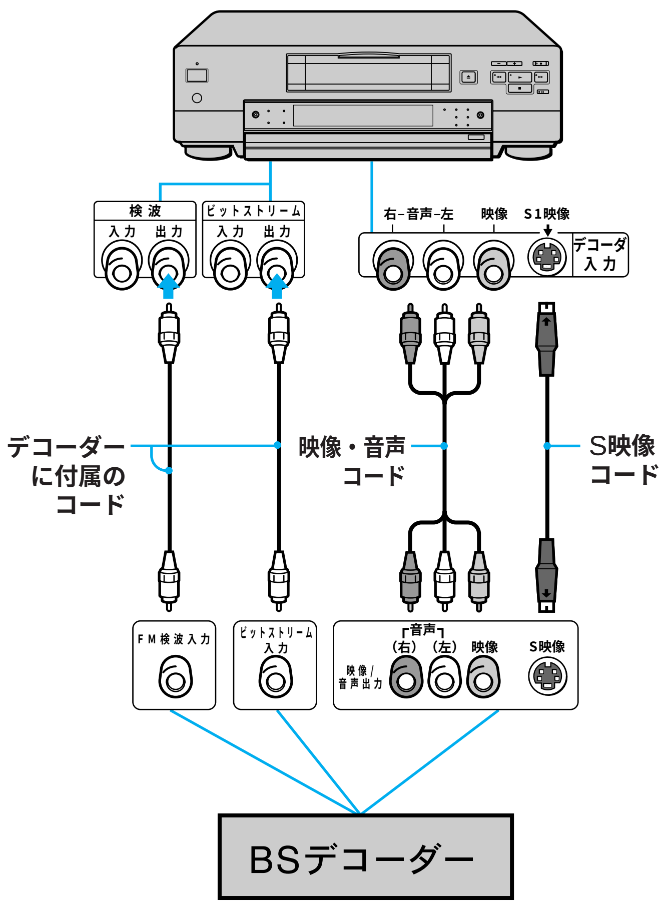


BSデコーダー（WOWOW）などをつなぐ

WOWOWと受信契約するとBSデコーダーが送られてきます。BSデコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。お買い上げ時のBSチャンネル設定（「自動」）のままでWOWOWを見ることができます。

テレビがBSチューナー内蔵でないとき

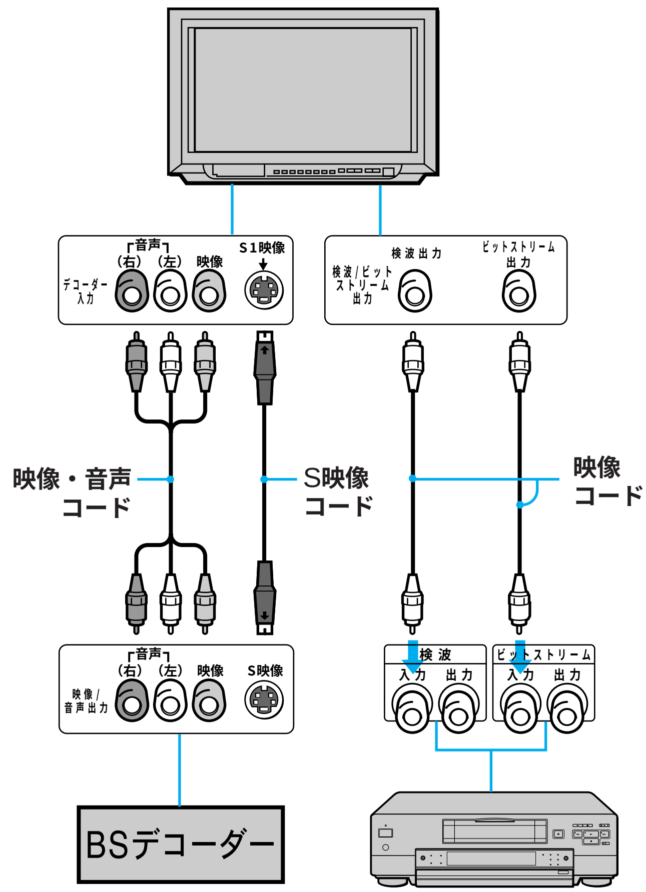
BSデコーダーを本機につなぎます。BSデコーダーの取扱説明書もあわせてご覧ください。



SAT-50CTなどのビットストリーム入力のないBSデコーダーをつなぐ場合、メニューの「BS受信チャンネル設定」で「BS5」を「デコーダー」にしてください。

テレビがBSチューナー内蔵のとき

「テレビがBSチューナー内蔵でないとき」の接続に加えてBSデコーダーをテレビにつなぐと、両方でWOWOWを見ることができます。
テレビの取扱説明書もあわせてご覧ください。

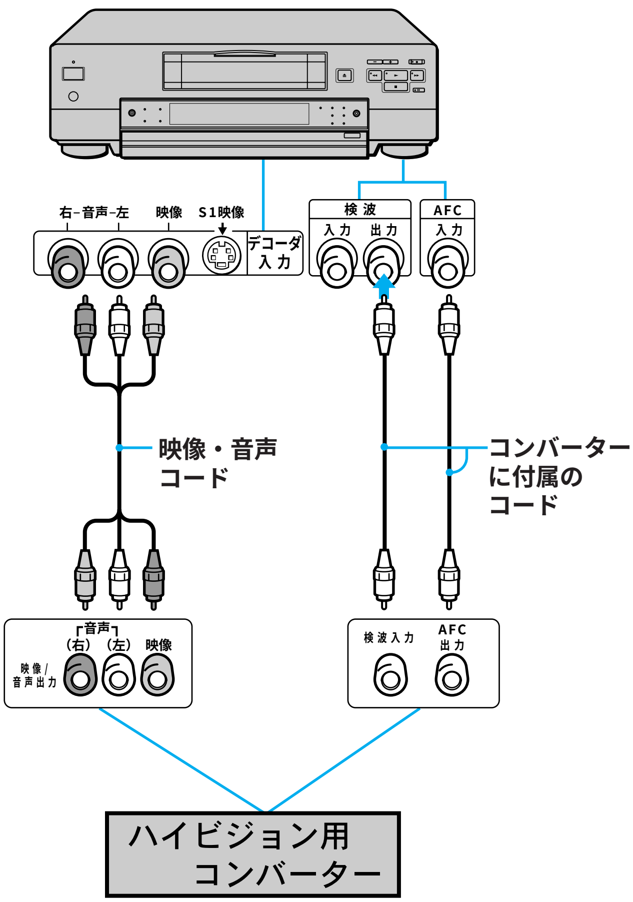


その他の外部チューナーにつなぐとき

外部チューナーを本機の入力1端子またはデコーダー入力端子につなぎます。詳しくは外部チューナーの取扱説明書をご覧ください。

ハイビジョン用コンバーターをつなぐ

ハイビジョン用コンバーター（MUSE-NTSCコンバーター）をつなぐと、ハイビジョン放送を変換してテレビ放送の画質で見ることができます。
また、コンバーター、テレビにS映像端子があるときは、S映像コードで接続すると、さらにきれいな画像になります。
ハイビジョン用コンバーターの取扱説明書もあわせてご覧ください。

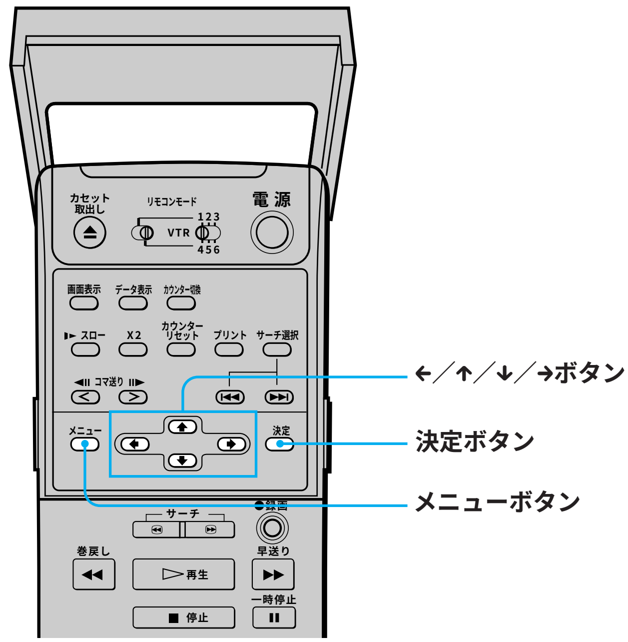


ハイビジョン放送を受信するには

メニューの「BSチャンネル合わせ」で、「BS9」を「デコーダー」にします。（92ページ）

放送のないBSチャンネルをとばす

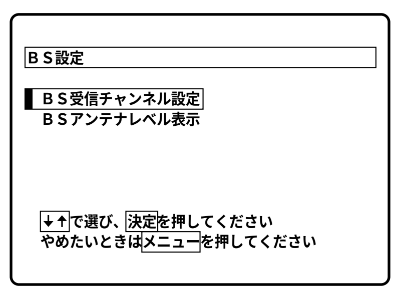
チャンネルボタンを押したとき、放送のないBSチャンネルが映らないようにします。



1 **テレビの電源を入れ、テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。**

2 **メニューボタンを押す。**

3 **↑/↓で「BS設定」を選び、決定ボタンを押す。**


BS設定

BS受信チャンネル設定
BSアンテナレベル表示

↓↑で選び、決定を押してください
やめたいときはメニューを押してください

設置と準備

次のページにつづく

放送のないBSチャンネルをとばす（つづき）

4 **↑／↓で「BSチャンネル合わせ」を選び、決定ボタンを押す。**

BS受信チャンネル設定

BS 1	自動	切	デコーダー	↓↑で選び、
BS 3	自動	切	デコーダー	←→で設定して
BS 5	自動	切	デコーダー	決定を押して
BS 7	自動	切	デコーダー	ください
BS 9	自動	切	デコーダー	
BS11	自動	切	デコーダー	やめたいときは
BS13	自動	切	デコーダー	メニューを押し
BS15	自動	切	デコーダー	てください

5 **↑／↓で放送のないチャンネルを選び、←／→で「切」にする。**

BS受信チャンネル設定

BS 1	自動	切	デコーダー	↓↑で選び、
BS 3	自動	切	デコーダー	←→で設定して
BS 5	自動	切	デコーダー	決定を押して
BS 7	自動	切	デコーダー	ください
BS 9	自動	切	デコーダー	
BS11	自動	切	デコーダー	やめたいときは
BS13	自動	切	デコーダー	メニューを押し
BS15	自動	切	デコーダー	てください

6 **他のチャンネルをとばすときは手順4を繰り返す。**

7 **終わったら決定ボタンを押す。**

各項目の設定内容は次の通りです。

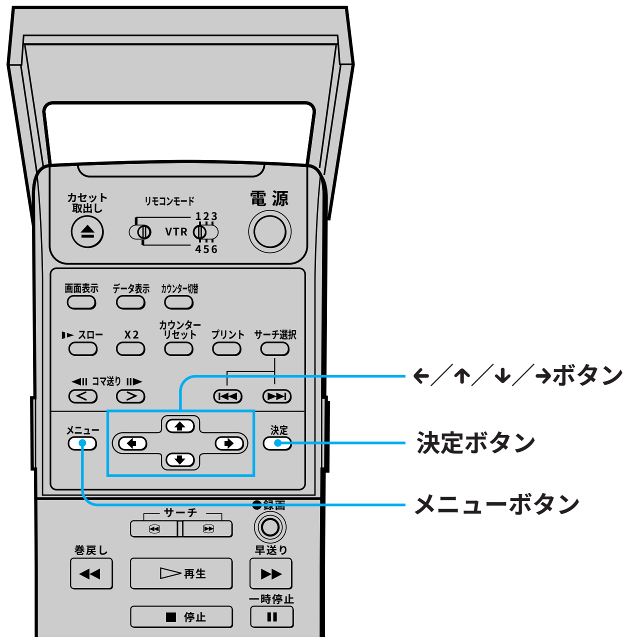
「自動」： 通常はBSチューナーで受信した映像・音声を、スクランブル放送を受信したときはデコーダー入力からの映像・音声を出力します。

「切」： チャンネルをとばします。

「デコーダー」： つねにデコーダー入力からの映像・音声を出力します。ハイビジョン用コンバーターを接続したときも、「デコーダー」を選んでください。

受信状態を微調整する

通常、テレビ放送は自動的に微調整されて、きれいな画像をお楽しみいただけます。それでもなお映りが悪く見づらいときは、手動で微調整してください。



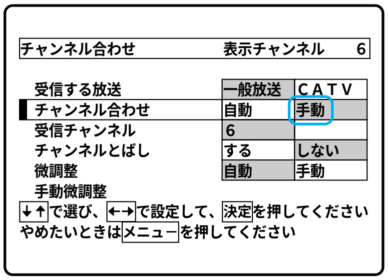
1 **画像の見づらいチャンネルを見ているときに、メニューボタンを押す。**

2 **↑／↓で「チャンネル合わせ」を選び、決定ボタンを押す。**

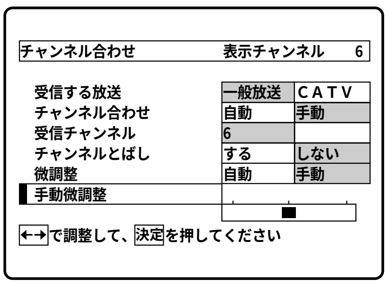
チャンネル合わせ	表示チャンネル 6	
受信する放送	一般放送	CATV
チャンネル合わせ	自動	手動

↓↑で選び、←→で設定して、決定を押してください
やめたいときはメニューを押してください

3 **↑／↓で「BS受信チャンネル設定」を選び、←／→で「手動」にする。**



4 **↑／↓で「手動微調整」を選び、←／→で画面を見ながら微調整する。**



5 **終わったら決定ボタンを押す。**

メニューが消えます。

使用上のご注意

ビデオデッキについて

直射日光の当たる場所や、熱器具の近くに置かない

キャビネットや部品に悪い影響を与えます。

異常に高温な場所に置かない

窓を閉め切った自動車内（特に夏期）などに放置すると、キャビネットが変形したり、故障の原因になります。

寒い屋外から暖かい室内に持ち込んだとき

本体の内部に水滴が付くことがあります。このまま使うとテープや本機を痛める原因となることがあります。また、エアコンなどの冷風が直接当たる場所で使うと、同様のことが起こりますのでご注意ください。

重い物は乗せない

キャビネットを傷めたり、故障の原因になります。

ぶつけないように

持ち運ぶときは衝撃を与えないでください。故障の原因になります。

キャビネットを傷めないために

表面にはプラスチックが多く使われています。殺虫剤など、揮発性のものをかけたり、ゴムやビニール製品などを長時間接触させないでください。変質したり、塗料がはげる原因になります。

ベンジンやシンナーでふかない

変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。化学ぞうきんをお使いになるときは、その注意書に従ってください。

キャビネットは乾いた柔らかい布で

汚れがひどいときは、水で薄めた中性洗剤に柔らかい布をひたし、固くしぼってから汚れをふきとり、乾いた布で仕上げてください。

磁石を近づけない

磁気を帯びているものを近づけると、大切な記録が損なわれることがあります。

使用上のご注意

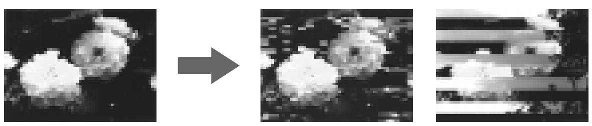
約1,000時間のご使用を目安に点検を

ビデオは非常に高い精度を必要とする機械です。長く使う間には、ヘッドやテープの駆動部分が汚れたり磨耗して、美しい画面が移りにくくなります。使用環境（温度、湿度、ほこりなど）によって異なりますが、約1,000時間使ったら、お買いあげ店またはソニーサービス窓口に点検（清掃、注油、一部部品交換）についてご相談ください。

ヘッドのクリーニング

ビデオヘッドが汚れると、正常に録画できなかったり、ノイズの多い再生画像になったりします。このような症状が出ないよう、録画の前に、クリーニングカセットを使ってヘッドをきれいにしておきましょう。

ビデオヘッドが汚れているときの画像



結露について

温度差のある場所へ本機やテープを急に持ち込んだときにテープや本機のヘッドに水滴が付くことを結露といいます。結露したテープやヘッドを使用すると、テープがヘッドに貼り付いて、ヘッドやテープを痛めたり、その故障の原因になります。

- 寒い屋外から暖房のきいた室内へ持ち込んだとき
- 冷房のきいた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき
- エアコンなどの冷風が直接当たる場所で使用するとき

本機やテープを温度差の激しい場所へ持ち込むときは、ビニール袋に入れて密封してください。持ち込んだ後は、約1時間放置し、持ち込んだ先の温度になじんだら開封してください。

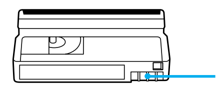
結露が起きると

カセット取り出し以外の操作ができなくなり、テープを入れても自動的にすぐ出てきます。このときは、電源を入れたまま、結露がなくなるまで（約1時間）放置してください。

カセットについて

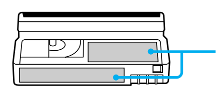
端子のクリーニング

DVカセットおよびミニDVカセットの金メッキ端子が汚れたりゴミが付着したりすると、カセットメモリーサーチ機能などが正しく働かないことがあります。カセットの取り出し回数10数回をめやすにして、綿棒でカセットの金メッキ端子をクリーニングしてください。



ＤＶカセットにラベルを貼るときは

下図の場所以外には、絶対に貼らないでください。故障の原因となります。



DVカセットの使用後は

ご使用後はテープを始めまで巻き戻して、ケースに入れた上で立てて保管するようにしてください。

故障かな？と思ったら

修理に出す前に、もう1度点検してください。
それでも正常に動作しないときは、テクニカルインフォメーションセンターにお問い合わせください。画面にお知らせメッセージが出ているときは、110ページもあわせてご覧ください。

電源

電源が入らない。

➔ 電源プラグをコンセントに差し込む。

電源が入っているのに操作できない。

➔ 電源を切り、電源プラグをコンセントからはずす。約1分後、もう1度コンセントに電源プラグを差し込み、電源を入れる。

➔ 結露が起きている。電源を入れたまま約1時間待つ。

➔ CLボタンを押す。時計、チャンネル設定、予約、メニュー項目の設定がお買い上げ時に戻る。設定しなおす。

カセット

カセットが入らない、またはすぐに出てくる。

➔ テープの見える面を上に、ラベル面を手前にして入れる。

➔ 他のカセットが入っている。取出し⏏ボタンを押して取り出す。

➔ 結露が起きている。電源を入れたまま約1時間待つ。

➔ カセットをななめに挿入した。まっすぐ入れなおす。

画像

ビデオの画像が映らない。

➔ テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。または、テレビを「1チャンネル」か「2チャンネル」（放送のないほう）にする。

➔ 接続している他機の設定・接続を確認する。

➔ メニューが出ている。メニューボタンを押して消す。

➔ 再生部分のテープに何も記録されていない。

➔ ビデオヘッドが汚れている。ヘッドをクリーニングする。

DV端子を使ってつないだ他機の画像が映らない。

➔ DVケーブルを抜いて、もう一度つなぐ。

➔ 他機が停止している。他機を再生する。

➔ 入力切り換えを「DV入力」にする。

➔ DV（デジタルビデオフォーマットSD仕様）以外の機器と接続している。

本機につないだ他機で再生、受信している画像がゆがむ。

➔ DVDプレーヤーやビデオデッキなどで再生しているソフトや、デジタル衛星チューナーなどで受信している信号に、著作権保護のための信号（マクロビジョン信号）が含まれている。
プレーヤーやチューナーなどの機器を本機からはずして、テレビに直接つなぐ。

再生した画像にモザイク状のノイズが出る。

➔ ビデオヘッドが汚れている。乾式クリーニングカセットでヘッドをクリーニングする。（94ページ）

➔ テープに傷がある。

➔ SPモード以外で記録されたテープを再生した。

ビデオで受信しているテレビ放送が映らない。

➔ アンテナやテレビを正しくつなぐ。（66ページ）

➔ メニューの「チャンネル合わせ」で再度チャンネルを合わせる。（84ページ）

➔ 外部入力になっている（本体表示窓に「L1」、「L2」、または「DV入力」が出ている）。本体の入力切換ボタンを繰り返し押してテレビ放送にする。

ビデオで受信しているテレビ放送の画像が汚い。

➔ アンテナ線をつなぎなおす。アンテナ線が破損していないか確認する。（66ページ）

➔ アンテナの向きを調節する。

➔ 本機とテレビを離して設置する。

➔ 本機から離してアンテナ線を束ねる。

➔ 電波が弱い。別売りのアンテナブースターで電波を増幅する。

BSが映らない。

➔ BSアンテナやBSコンバーターを正しくつなぐ。

➔ BSアンテナに内蔵のコンバーター用電源スイッチを正しく合わせる。
（71ページ）

➔ BSアンテナの向きを調節する。

➔ BSアンテナのゴミや雪を取り除く。

➔ メニューの「BS受信チャンネル設定」で、受信するチャンネルを「自動」にする。（91ページ）

WOWOWが映らない。

➔ 受信契約をして、BSデコーダーを正しくつなぐ。

➔ BSデコーダーの電源を入れる。

➔ メニューの「BS受信チャンネル設定」で、受信するチャンネルを「自動」にする。（91ページ）

テレビのチャンネルを変えられない。

➔ テレビを「テレビ」の入力に切り換える。または、本機のテレビ／ビデオボタンを押して、本体のビデオランプを消す。

次のページにつづく

外部入力「L1」、「L2」、または「DV入力」の画像が映らない。

➔ チャンネル＋／－ボタンを押して、「L1」、「L2」、または「DV入力」にする。
➔入力1でS1映像端子を使ってつないだ場合は、メニューの「映像入力1」を「S映像」にする。S映像端子を使っていなければ「映像」にする。入力2を使うときは、使用しない入力側のケーブルを本機側から抜く。（38、52ページ）
➔ DV（デジタルビデオフォーマットSD仕様）以外の機器と、DV端子を使って接続している。

音声

2つの音が混ざって聞こえる。

➔ 音声切換（主／副）ボタンを押す。（15ページ）
➔ 音声切換スイッチを「ステレオ1」または「ステレオ2」にする。（15ページ）
➔ 光デジタル音声出力端子を使って接続している。接続先の機器（アンプなど）のバランスつまみをLまたはR側にし、スピーカーのL（左側）またはR（右側）どちらかのみで聞く。
または、「出力1」か「出力2」の音声端子につなぎかえる。

ステレオ放送を録画したテープがモノラルで聞こえる。

➔ モノラル音声が選ばれている。音声切換ボタンを押す。（15ページ）
➔ 映像・音声入力端子付きテレビのときは、映像・音声コードもつなぐ。
➔ メニューの「各種設定」で「自動ステレオ受信」を「入」にして録画する。（28ページ）
➔ 電波が弱いためモノラルで録画されていた。アンテナの向きを調節するか、別売りのアンテナブースターで電波を増幅する。

再生時に音声が途切れる。

➔ テープに傷がある。
➔ 本機以外のビデオで録画したテープにインサート・アフレコすると音がとぎれることがある。
➔ ビデオヘッドが汚れている。クリーニングカセットできれいにする。（94ページ）
➔ SPモード以外で記録したテープを再生した。
➔ アナログテープからダビングしたDVテープを再生したとき、アナログでの場面の転換部分で音が途切れることがある。
➔ テレビ放送を録画したDVテープを再生したとき、場面転換部分で音が途切れることがある。

画像は出るが、音が出ない。

➔ 音声切換スイッチを音声の記録されたトラックに切り換える。（15ページ）
➔ SPモード以外で記録したテープを再生した。
➔ 外部入力時に録音レベルつまみが0になっている。つまみを戻す。
➔ 他機と接続しているとき、他機の音声出力やボリュームを確認する。

録画・予約

録画ボタンまたは予約完了ボタンを押すと、カセットが出てくる。

➔ カセットが録画できない状態になっている。録画したいときは録画できる状態にする。（9ページ）

裏番組録画中、テレビでチャンネルを変えられない。

➔ テレビを「テレビ」の入力に切り換える。または、本機のテレビ／ビデオボタンを押して、本体表示窓のビデオランプを消す。

予約したのに録画されていない。

➔ 予約待ち中に停電があり、時計が止まったため。時計を合わせ直す。（73ページ）
➔ 放送に著作権保護のための信号が記録されていた。（9,13ページ）

予約した内容が途中で切れている。

➔ 予約待機（予約録画待ち）中に停電が起きて、30分以上回復しなかったため。30分以内に回復すれば、回復時から終了時刻まで録画される。時計を合わせ直す。（73ページ）
➔ 予約が重なっていた。（23,24ページ）

予約した内容が途中から始まっている。

➔ 予約待ち中に停電があり、回復時から録画が行われたため。
➔ プロ野球中継など前の番組が延長されたため。

クイックタイマーが途中で終わっている。／途中が抜けている。

➔ 停電が起きたため。停電すると時間だけが減り続けるため、30分以内に回復すれば残りが録画される。30分以上回復しないと時計が止まるため残りは録画されない。時計を合わせ直す。（73ページ）

Gコード

Gコードを入力すると「エラー」が表示される。

➔ リモコンの時刻が間違って設定されている。正しい時刻を設定する。（73ページ）
➔ 地域番号の設定が間違っている。正しい地域番号を入力する。（76ページ）
➔ 間違ったGコードが入力されている。正しいGコードを入力する。

予約内容が違う。

➔ 地域番号の設定が間違っている。正しい地域番号を入力する。（76ページ）

➔ 間違ったGコードが入力されている。正しいGコードを入力する。

➔ 本体で受信している放送局がリモコンに設定されていない。チャンネルを追加する。(86ページ)

➔ ケーブルテレビ(CATV)は、Gコードで予約できないことがある。通常の録画予約をする。

➔ リモコンの時計の日付がずれている。リモコンの時計の日付・時刻を正しく合わせる。(73ページ)

➔ プロ野球中継など前の番組が延長されたため。

編集

ダビングボタンやスタート／一時停止ボタンを押すと、カセットが出てくる。

➔カセットが録画できない状態になっている。録画できる状態にする。(9ページ)

アフレコ／オーディオインサートできない。

➔ DV端子を使用している。DV端子からはアフレコできない。また「ステレオ1」または「ステレオ2」のみのオーディオインサートはできない。

➔ 16ビット音声のテープを選んでいる。16ビット音声のテープには、アフレコできない。また「ステレオ1」または「ステレオ2」のみのオーディオインサートはできない。

➔ SPモード以外で記録したテープを使っている。

➔ 録音つまみを確認する。入力1(L1)入力2(L2)端子を使っているとき、つまみが0になっているとアフレコ／オーディオインサートできない。

➔ テープの冒頭など、無記録部でアフレコボタンやインサートボタンを押すと操作できない。

アフレコした音が途切れる。

➔ 本機以外で録画したテープにアフレコした。(60ページ)

➔ テープに傷がある。別のテープにダビングしてアフレコしなおす。

➔ スローや一時停止の部分をDV端子を使ってコピーした部分にアフレコすると、音が途切れる。

インサート編集中にテープが止まる。

➔ カウンターが0：00：00になった。途中で止めたくないときは、カウンター切換ボタンを押して、タイムコード表示にする。

➔ DV端子を使っているときは、DVケーブルを一度抜いて再度接続しなおす。

➔ 編集中にテープの録画モードがSP以外になったり、オーディオモードが変わったりするとテープが止まる。

LANC端子で接続しても、操作できない。

➔ メニューで適切なLANCモードを選ぶ。(29、39ページ)

➔ 前面と後面の両方のLANC端子にケーブルをつないでいる。使わないケーブルは抜く。

➔ LANC端子を正しくつなぎなおす。

LANC端子接続中、本機のチャンネルが勝手に切り換わる。

➔ メニューで適切なLANCモードを選ぶ。(29、39ページ)

アッセンブル編集ができない／精度が悪い。

➔ カウンター残量表示またはカウンター表示になっている。カウンター切換ボタンを押して、タイムコード表示にする。(17ページ)

➔ 再生側のタイムコードが不連続。ダビングしなおすなどして、連続しているテープを作って編集する。

➔ プログラム途中で再生側カウンターを切り換えた。

➔ 再生機をつないでいる入力端子を選んでいるか確認する。

➔ 2秒以下の短いカットをプログラムしている。

➔ 再生テープ上の無記録部の直後を「イン点」に指定している。無記録部直後はアッセンブル編集できないのでカット編集を行う。

➔ 他機がタイムコードやシンクロエディットに対応していないモデルを使用している。このとき、編集精度は落ちる。

表示

メニューや画面表示が画面に出ない。

➔ テレビを「ビデオ」の入力に切り換える。または、テレビを「1チャンネル」か「2チャンネル」(放送の無いほう)にする。

テープカウンターが動かない。

➔ 録画されていない部分は動かない。

➔ FF、REWの加減速中は、表示が止まることがある。(17ページ)

本体表示窓に「ー：ーー」が点灯している。

➔ リモコンで日付と時計を合わせ、本体に転送する。(73ページ)

➔ 停電で時計が止まっている。時計を合わせ直す。(73ページ)

➔ 予約の手順を途中でやめてしまった。予約取消ボタンを押す。

故障かな？と思ったら（つづき）

カムコーダーで記録した「インデックスタイトラー」「カセットラベル」が表示されない。

➔ 本機は「インデックスタイトラー」「カセットラベル」の機能には対応していません。

テープカウンターやタイムコードが連続して表示されない。

➔ 本機はドロップフレーム方式を採用しているため、29フレームから02フレームに飛ぶことがある。

➔ 録画と録画の間に無記録部分（ブランク）がある。（17ページ）

➔ タイムコードが不連続。

➔ ヘッドが汚れている。クリーニングカセットを使ってお手入れをしてください。

➔ FF、REWの加減速中は、表示が止まることがある。（17ページ）

カウンターがリセットできない。

➔ タイムコード表示になっている。カウンター切換ボタンを押して、カウンター表示にする。

テープカウンターがずれるところがある。

➔ テープの途中にSPモード以外の記録部分がある。

リモコン

リモコンが働かない。

➔ 本体の電源を入れずに操作している。

➔ リモコンを本体に向けて操作する。

➔ 本体とリモコンのリモコンモードを合わせる。（74ページ）

➔ 本体のリモコンモードが「切」になっている。（75ページ）

➔ 電池が消耗している。電池を入れなおす。（73ページ）

➔ 電池が入っていない。電池を入れる。（73ページ）

本機のリモコンで操作したら、本機と他のソニー製ビデオが同時に動いてしまった。

➔ 本機と他機のリモコンモードが同じになっている。本機のリモコンモードを変える。（74ページ）

テレビを操作できない。

➔ リモコン信号をお手持ちのテレビに合わせる。（88ページ）

➔ テレビのリモコンを使う。

カセット取出ボタンでテープ扉の開閉ができない。

➔ 本体にカセットが入っていないとき、リモコンのカセット取出ボタンは使えない。

保証書とアフターサービス

本機は日本国内専用です。電源電圧や放送規格の異なる海外ではお使いになれません。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめのうえ、大切に保存してください。
- 保証期間は、お買い上げ日より1年間です。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして、故障かどうかを点検してください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください.

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます.

部品の保有期間について

当社はビデオデッキの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後最低8年間保存しています。この部品保有期間を修理可能期間とさせていただきます。保有期間が経過した後も、故障箇所によっては修理可能の場合がありますので、お買い上げ店、サービス窓口にご相談ください。

- 型名；DHR-1000
- 故障の状態；できるだけくわしく
- お買い上げ年月日；

主な仕様

システム

録画・録音方式	DV方式（民生用デジタルVCR　SD仕様） 回転2ヘッドヘリカルスキャン デジタルコンポーネント記録
信号方式	NTSCカラー、EIA標準方式
使用可能カセット	DVカセット、ミニDVカセット
録画時間	270分（DV270使用時）
早送り・巻き戻し時間	約2分（DV270使用時）

映像

量子化	8ビット
標本化周波数	13.5MHz（4：1：1コンポーネント）

音声

量子化	16ビット（直線）または12ビット（非直線）
標本化周波数	48kHz（16ビット録音時）または 32kHz（12ビット録音時） 32kHz（BS　Aモード直接録音時（16ビット））

チューナー

受信方式	周波数シンセサイザー方式
音声受信方式	インターキャリア方式
受信チャンネル	VHF　1～12チャンネル
UHF	13～62チャンネル
CATV	C13～C35チャンネル
BS	1,3,5,7,9,11,13,15チャンネル

タイマー

プログラム数	1か月8プログラム
時計方式	クオーツロック 12時間デジタル表示
停電補償時間	約30分

入・出力端子

アンテナ入出力	VHF／UHF1軸、75Ω F 型コネクター BS IF：75ΩF型コネクター （コンバーター用電源出力DC 15 V最大4 W）、芯線側＋、入／切スイッチ付き（本体電源スイッチと非連動）
映像入力（ID-2対応）	入力1/2/デコーダー入力の3系統、ピンジャック、1 Vp-p（75Ω不平衡）
映像出力（ID-2対応）	出力1／出力2の2系統、ピンジャック、1 Vp-p（75Ω不平衡）
S1映像入力（ID-2対応）	入力1/2/デコーダー入力の3系統、4ピンミニDIN、輝度信号1 Vp-p（75Ω不平衡） 色信号：0.286 Vp-p（75Ω不平衡）
S1映像出力（ID-2対応）	出力1／出力2の2系統、4ピンミニDIN、輝度信号1 Vp-p（75Ω不平衡） 色信号：0.286 Vp-p（75Ω不平衡）
音声入力	入力1/2/デコーダー入力の3系統、ピンジャック（左、右） 入力レベル：2Vrms／フルビット（入力インピーダンス：47 kΩ以上）
音声出力	出力1／出力2の2系統、ピンジャック（左、右） 出力レベル：2Vrms／フルビット（出力インピーダンス：1kΩ以下）
コントロールS入力	ミニジャック（1）
LANC端子	2系統、ステレオミニミニジャック（2）、（Φ2.5）
ヘッドフォン出力	ステレオミニジャック (1)
マイク入力	ミニジャック（モノラル）
DV入力／出力	4ピン特殊コネクター
光デジタル音声出力	角型光ジャック
検波入力／出力	ピンジャック、75Ω、0.67 Vp-p
ビットストリーム入力／出力	ピンジャック、75Ω、0.5 Vp-p
AFC入力	ピンジャック、75Ω

電源部・その他

電源	AC100 V、50／60 Hz
消費電力	45 W（コンバーター用電源「切」時、 10 W（電源「切」時）
補助電源コンセント	連動／非連動（最大200 W）
許容動作温度	5℃～ 40℃
許容保存温度	－ 20℃ ～ 60℃
最大外形寸法	幅 430×高さ 129×奥行き 374 mm （最大突起含む）
本体質量	約 10.0 kg
付属品	65ページ参照
別売アクセサリー	クリーニングカセット 　ミニカセット用 DVM-12CLD 　標準カセット用 DV-12CLD DVケーブル VMC-IL4415/IL4435

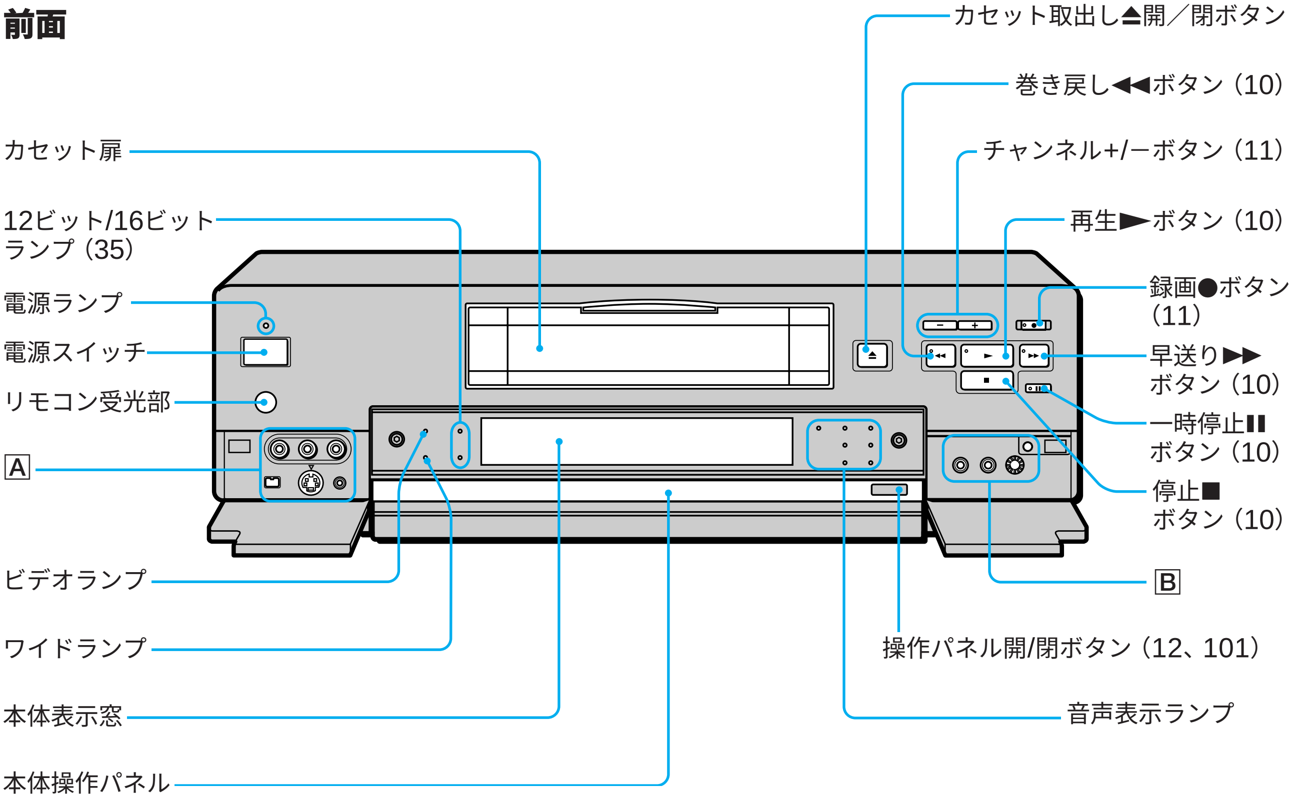
本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

各部のなまえ

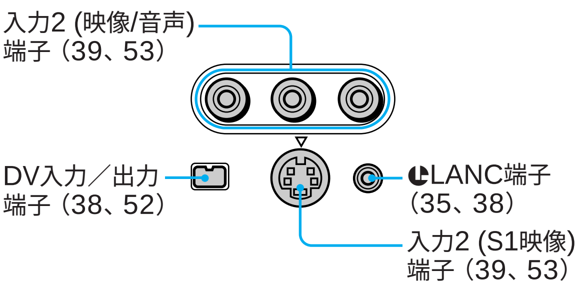
各部の説明は（　）内のページをご覧ください。

本体

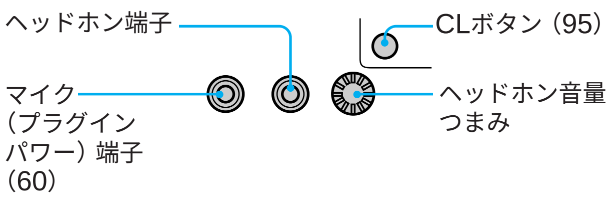
前面



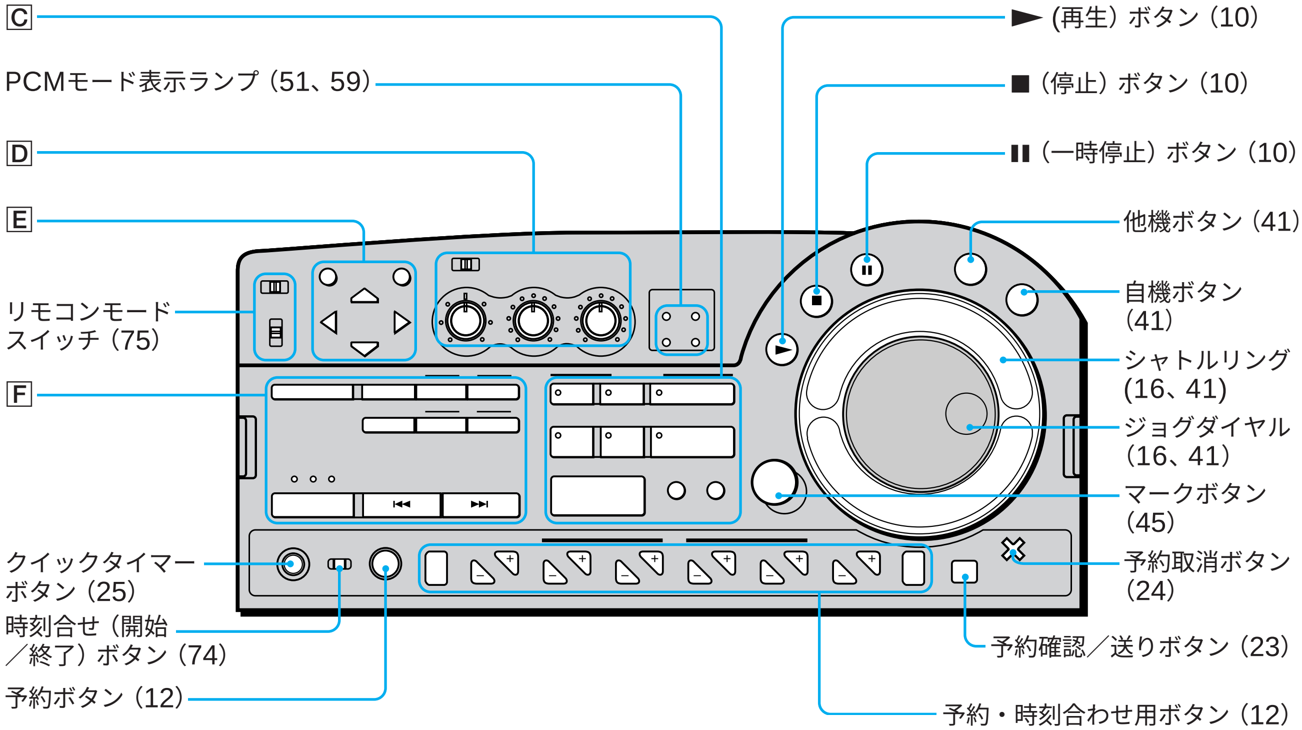
A



B



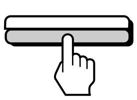
本体操作パネル



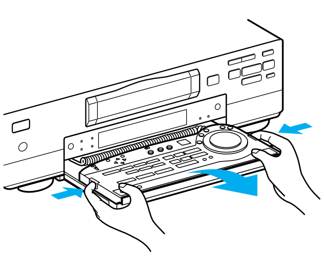
引き出しかた

1 操作パネル開／閉ボタンを押す。

操作パネル 開/閉



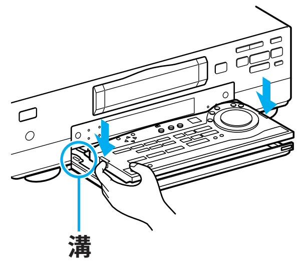
2 つまみを押しながら上げる。



しまいかた

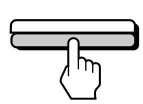
1 トレイの奥にコードを押し込む。

2 パネルをトレイの溝に合わせ、カチッというまでパネルをおろす。



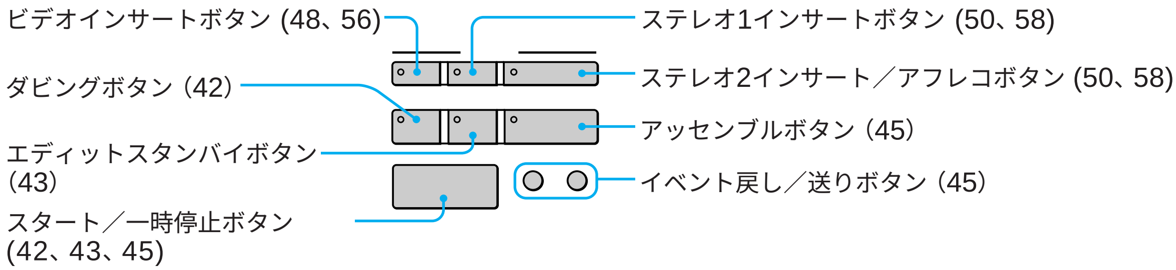
3 操作パネル開／閉ボタンを押す。

操作パネル 開/閉

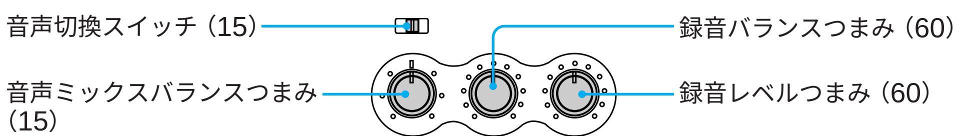


次のページにつづく

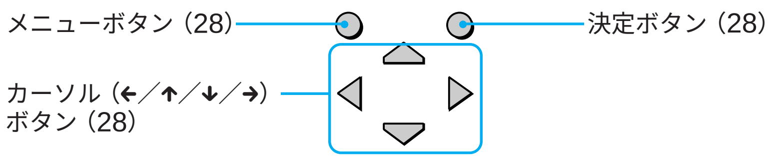
C


ビデオインサートボタン (48、56)
ダビングボタン（42）
エディットスタンバイボタン（43）
スタート／一時停止ボタン (42、43、45)
ステレオ1インサートボタン (50、58)
ステレオ2インサート／アフレコボタン (50、58)
アッセンブルボタン（45）
イベント戻し／送りボタン（45）

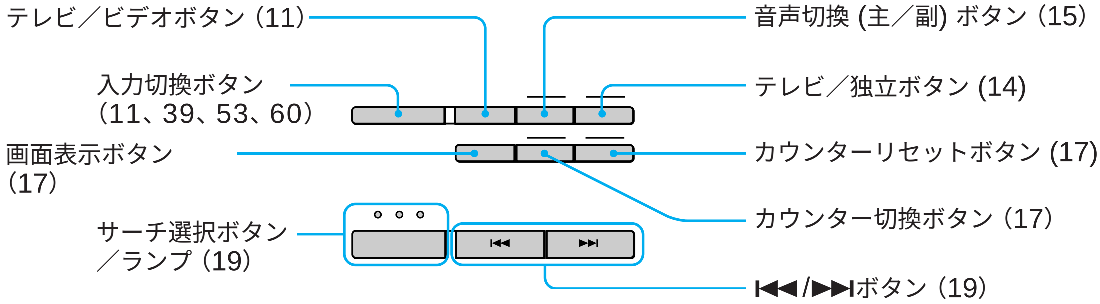
D


音声切換スイッチ（15）
音声ミックスバランスつまみ（15）
録音バランスつまみ（60）
録音レベルつまみ（60）

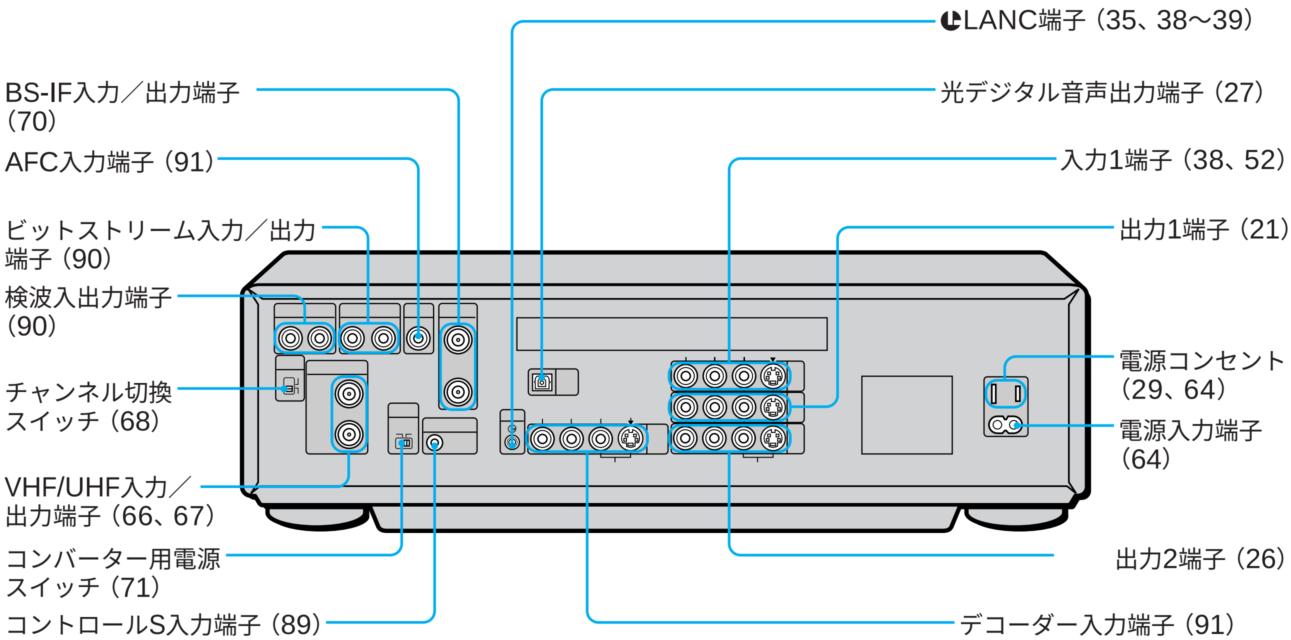
E


メニューボタン（28）
カーソル（←／↑／↓／→）ボタン（28）
決定ボタン（28）

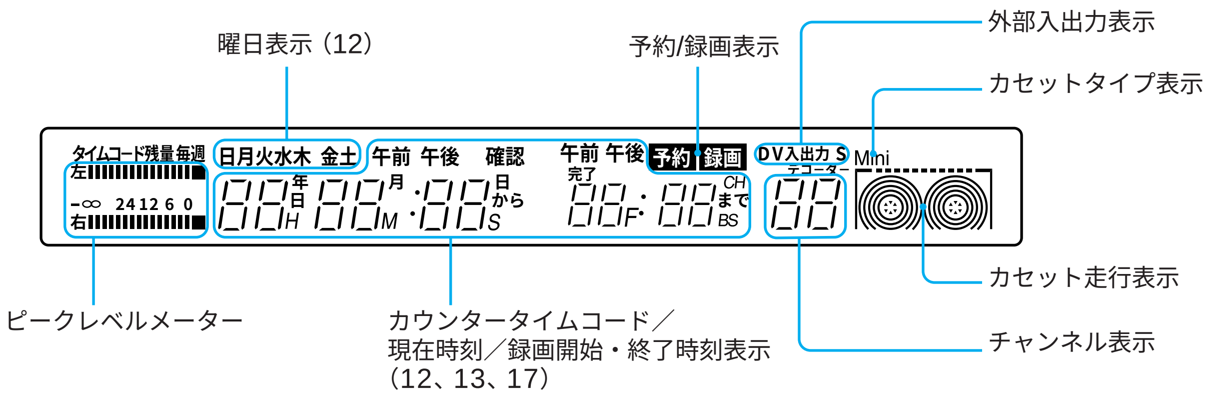
F


テレビ／ビデオボタン（11）
入力切換ボタン（11、39、53、60）
画面表示ボタン（17）
サーチ選択ボタン／ランプ（19）
音声切換 (主／副) ボタン（15）
テレビ／独立ボタン (14)
カウンターリセットボタン (17)
カウンター切換ボタン（17）
⏮/⏭ボタン（19）

後面

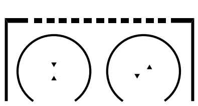


本体表示窓



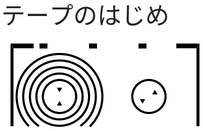
テープ走行表示について

カセットを入れたとき

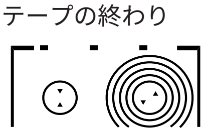


テープの残量を表示

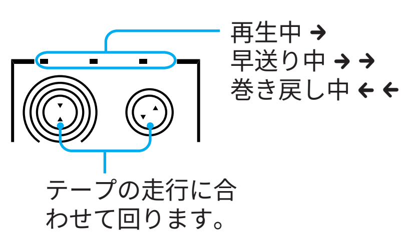
テープのはじめ



テープの終わり



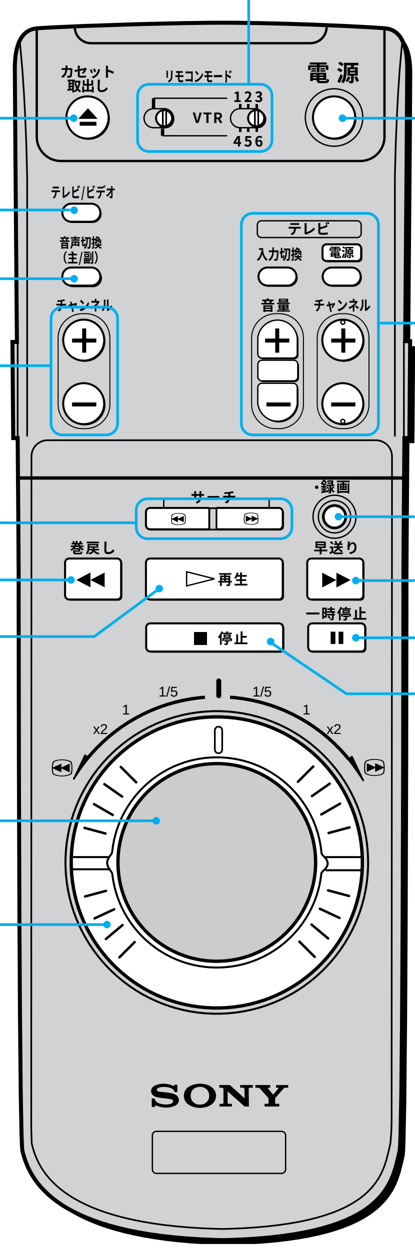
テープの走行と早さを表示



リモコン

リモコンのボタンは本体の同じ名前のボタンと同じ働きをします。

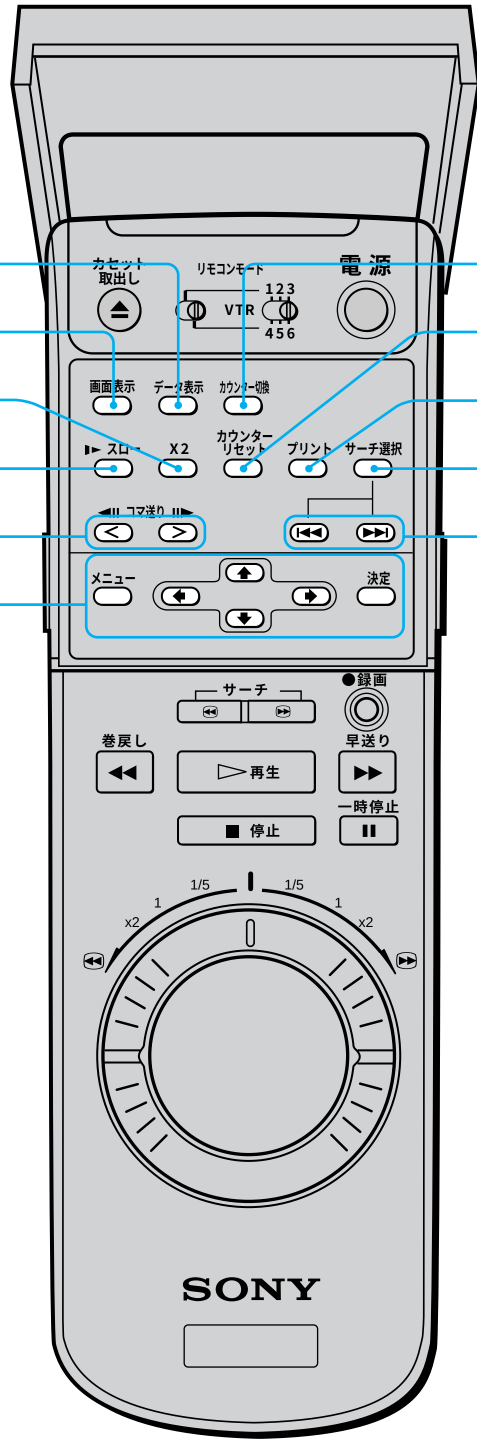
オモテ面



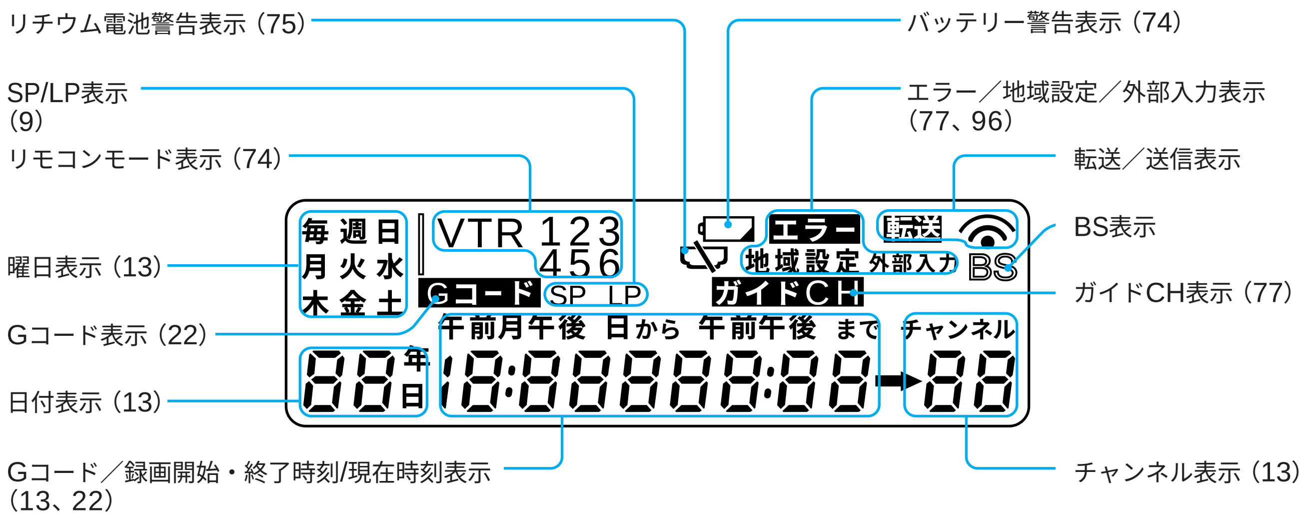
ふたを開けたとき

データ表示ボタン（18）
画面表示ボタン（17）
×2ボタン（16）
スローボタン（16）
コマ送り</>ボタン（16）
メニュー用ボタン（28）
メニューボタン
←／↑／↓／→ボタン
決定ボタン

カウンター切換ボタン（17）
カウンターリセットボタン（17）
プリントボタン（26）
サーチ選択ボタン（19）
頭出し⏮／⏭ボタン（19ページ）

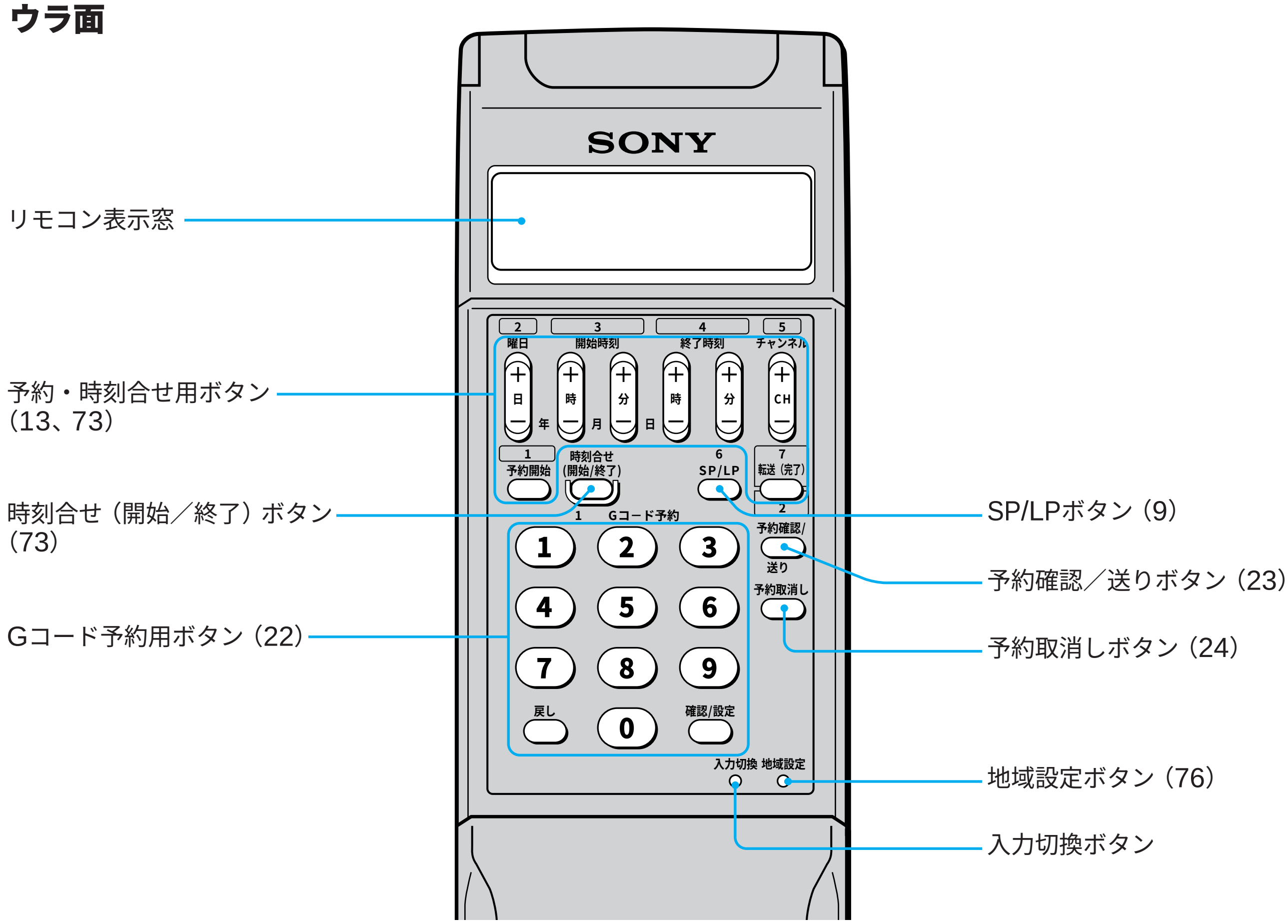


リモコン表示窓



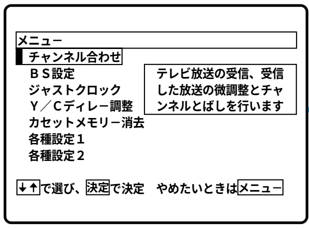
リチウム電池警告表示（75）
SP/LP表示（9）
リモコンモード表示（74）
曜日表示（13）
Gコード表示（22）
日付表示（13）
Gコード／録画開始・終了時刻/現在時刻表示（13、22）
バッテリー警告表示（74）
エラー／地域設定／外部入力表示（77、96）
転送／送信表示
BS表示
ガイドCH表示（77）
チャンネル表示（13）

ウラ面

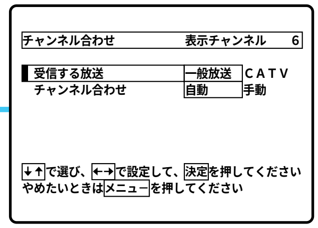


リモコン表示窓
予約・時刻合せ用ボタン（13、73）
時刻合せ（開始／終了）ボタン（73）
Gコード予約用ボタン（22）
SP/LPボタン（9）
予約確認／送りボタン（23）
予約取消しボタン（24）
地域設定ボタン（76）
入力切換ボタン

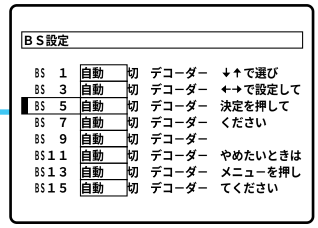
メニュー画面一覧



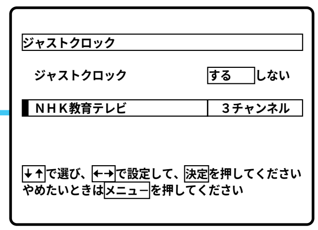
本機ではテレビ画面を見ながらいろいろな設定や操作が行えます。
操作にはリモコンを使用します。詳しくは（　）内のページをご覧ください。



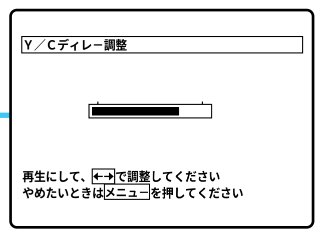
チャンネル合わせ：
VHF/UHF放送に関する設定をします。（76、84ページ）



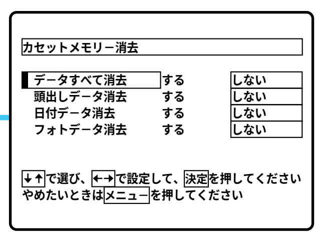
BS設定：
BS放送に関する設定をします。
（92ページ）



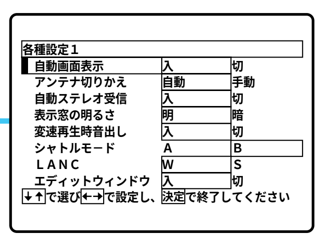
ジャストクロック：
時刻合わせのために、NHK教育のチャンネルを設定します。
（83ページ）



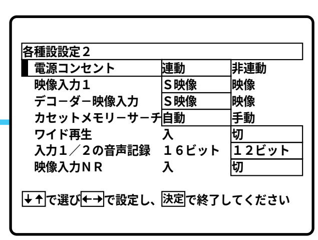
Y/Cディレー調整：
画質のズレを調整します。
（30ページ）



カセットメモリー消去：
カセットメモリーの消去をします。
（31ページ）



各種設定1：
LANCやシャトルモードその他を細かく設定します。
（28ページ）



各種設定2：
カセットメモリーサーチや音声記録モードその他を細かく設定します。
（28ページ）

その他

用語解説

五十音順

ア行

お知らせガイド

操作を間違えたときなどに、画面に表示される説明です。

カ行

ガイドチャンネル

ジェムスター社が各放送局に割り当てている識別番号です。

結露

暖房を入れて室温が急に上がったときなどに、本機のヘッドやテープに水滴が付くことです。テープがヘッドに貼り付いて故障の原因になります。電源を入れたまま約1時間待ってください。

検波

放送衛星から送られてくるFM電波を復調することです。

サ行

受信チャンネル

ビデオが放送局を受信したときのチャンネルです。新聞や雑誌のテレビ欄に掲載されている各放送局の番号のことです。

タ行

タイムコード

テープ上の位置を映像とともに時・分・秒・フレーム（1フレーム＝約1/30秒）単位で記録する機能です。1フレームが映像の1コマに対応しています。DV方式ではフレーム単位でカウントできるので、テープ位置の正確なカウンターとして使えます。ただし、無記録部分を挟んで記録を始めると、再び0から記録し始めます。本機のタイムコードはドロップフレーム方式を採用しています。

データコード

テープ記録時に、日付、時間、カメラ情報などを映像と別のエリアに記録します。リモコンのデータ表示ボタンを押してテレビ画面で確認することができます。

ドロップフレーム方式

タイムコードは1秒=30フレームでカウントしますが、NTSC方式の映像信号の場合、1秒間の実際のフレーム数は約29.97フレームになります。この1秒あたり0.03フレームのずれを補正するためにタイムコードの歩進を1分につき2フレーム省略して（ただし毎10分目は省略しない）、実時間とタイムコードの値を一致させるタイムコード歩進モードのことを、ドロップフレーム方式と言います。

ハ行

ビットストリーム

放送衛星から送られてくる電波のデジタル信号（音声信号とデータ信号）のことです。データ信号は、文字放送や静止画放送、ファクシミリ放送などが開始したときに送られてくる予定です。

表示チャンネル

ビデオが放送局を画面に表示するときのチャンネルです。通常は受信チャンネルと同じ番号ですが、メニューで変更することができます。

ヘッド

テープに信号を記録したり、テープから信号を読みとる部分です。美しい画像を楽しむために定期的にクリーニングしてください。 → 94ページ

ヤ行

予約待機

予約をすると、表示窓に「予約録画」が出て電源が切れます。これが予約待機（予約録画待ち）の状態です。予約した時間になると自動的に録画が行われます。

ワ行

ワイド映像信号（ビデオIDシステム）

映像がワイドであるか、という情報を伝送する信号です。信号方式に対応しているテレビとつなぐと、自動的にテレビのワイドモードが切り換わります。

- ID-1方式 ー 映像信号およびS映像信号のすきまにワイド情報を重ねたシステム。
- ID-2方式 ー ID-1方式に著作権保護などの信号を加えたシステム。ID-1方式のテレビとつないでもワイド情報は伝送されます。
- S1映像信号方式 ー S映像信号にワイド情報を重ねたシステム。

アルファベット順

AFC

ハイビジョンの周波数を自動的に調整し、正確に保ちます。Automatic Frequency Control（オートマチック フレクエンシー コントロール）の略。

BSコンバーター

放送衛星から送られてくる高周波数の電波を、BSチューナーで受信できるよう低周波数に変換する機器です。

BSデコーダー

民間BS（WOWOWなど）のスクランブルのかかった電波を解読する機器です。

CATV

契約者と放送局をケーブルで直接結んで番組を提供する有線放送のことです。通常のテレビ番組やBS放送に加え、スポーツや映画の専門チャンネル、地域情報番組や文字放送などを見ることができます。CAble TeleVision（ケーブル テレビジョン）の略。

DV方式 → **8ページ**

Gコード

一部の新聞や雑誌のテレビ欄で、各番組の末尾にのっている、番組を予約するための番号です。

警告表示とお知らせメッセージ

再生／録画／編集などの操作中に、モニター画面に警告表示やお知らせメッセージが出ることがあります。メッセージの表示は最初の数秒間のみです。以下の表で内容をご確認のうえ、必要な操作を行ってください。（本機に接続したテレビ画面上に表示されます。本機の表示窓には表示されません。）

メッセージ	**意味／対策**
カセットが入っていません カセットを入れてから行ってください	カセットが入っていないのに再生やエディットスタンバイボタンなどを押した→カセットを入れてから操作する
時刻合わせがされていません 時刻を設定してください	本体の日付、時計の設定がされていない →本体の時計を合わせる（73ページ）
カセットのツマミを確認してください ツマミを戻したカセットに入れかえてください	カセット誤消去防止つまみが録画できない位置（赤）になっている →誤消去防止つまみを戻してから操作をする（9ページ）
テープが終わっています 巻戻すかカセットを入れかえてください	テープエンドで再生／録画しようとした →テープを巻き戻すか、新しいカセットに入れ換える
録画中はできません 停止してから行ってください	録画／編集中にテープ操作をした →停止ボタンを押してから次の操作を行う
録画中はできません 一時停止あるいは停止してから行ってください	録画中に入力切り換えをしようとした →一時停止または停止ボタンを押してから入力切り換えを行う
すでにテープの始めまで巻戻されています	テープトップで巻戻しボタンを押した
テープに16ビットの録音がされています 12ビットではインサートできません	ステレオ1へインサートまたはステレオ2へアフレコ中に、テープ途中から16ビットの記録に変わっているため、停止した →16ビットでインサートするか、アナログ端子を使い12ビット録音でコピーしたテープを使用する
インサートできません 一度録画してから行ってください	記録のない部分にインサートしようとした →記録のあるところでインサートの操作をする
記録できません DVコードを確認してください	DVコードが接続されていない、接続不完全、または他機の電源が入っていない→接続した両機の接続、電源を確認する
ダビングプロテクトされています 記録できません	著作権保護のための信号が重畳されているテープをダビングしようとした
カセットメモリーがありません	カセットメモリーのないカセットなのにメモリーを消去しようとした
カセットメモリーの容量が大きいので 消去できません	16キロビット以上のメモリー容量をもつカセットを「インデックスデータ消去」、「日付データ消去」、または「フォトデータ消去」しようとした→「データすべて消去」以外は選ばない（31ページ）
カセットメモリー書き込み中です	カセットメモリー書き込み中にほかの操作をしようとした →書き込みが終わってから操作をする
再生機を取り付けて 再生機のLANCをSにしてください	編集時に再生機の接続がされていない、接続が不完全、再生機の電源が「切」または「カメラ」などになっている →再生機の接続、電源、LANCモード（再生機がデッキなどの場合）を確認する
再生機にカセットが入っていません カセットを入れてから行ってください	編集時、再生機にカセットが入っていない →再生機にカセットを入れる
再生機のテープが終わっています 巻戻すかカセットを入れかえてください	編集中に再生機のテープがテープエンドに達した →テープを巻き戻すか、新しいカセットに入れ換える

メッセージ	意味／対策
再生機が録画中はできません	再生機で録画中に編集操作をした →再生機を停止させてから操作をする
テレビ／BSの時はインサートできません	本機の入力がテレビやBSになっている時にインサートの操作をした →入力1、2またはDV入力を選んでから操作する
カセットのツマミを確認してください ツマミを戻したカセットに入れかえて電源を切ってください 予約待機に入ります	カセットの誤消去防止つまみが録画できない位置（赤）になっている →誤消去防止つまみを戻すか、テープを入れ換える

索引

五十音順

アルファベット順

ソニー株式会社　〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35
不明な点、技術的なご質問、故障と思われるときのご相談は
下記までお問い合わせください
テクニカルインフォメーションセンター
電話　0574-28-8088
受付時間　月〜土曜、午前9時〜午後7時
（ただし年末年始、祝日は除く）

Gコードシステムは、ジェムスター社のライセンスに基づいて生産しています。

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川 6-7-35	お問い合わせはお客様ご相談センターへ　●ナビダイヤル：0570-00-3311（全国どこからでも市内通話料金でご利用いただけます） ●携帯電話・PHSでのご利用は：03-5448-3311　●Fax：0466-31-2595　受付時間：月〜金 9:00〜20:00、土・日・祝日 9:00〜17:00

Printed in Japan